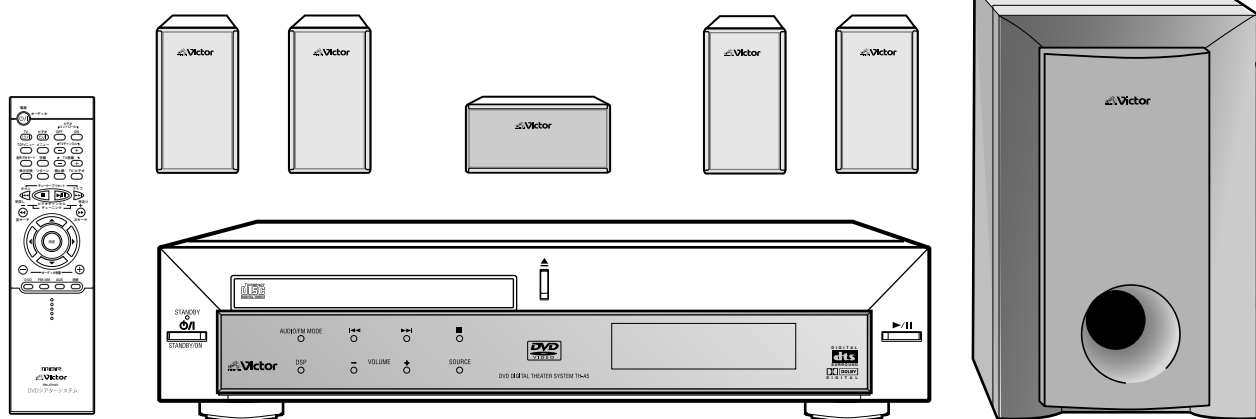
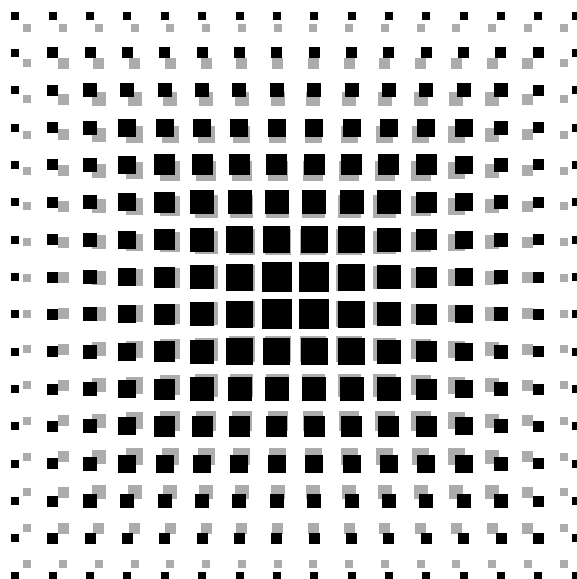
DVD デジタルシアターシステム

型名 **TH-A5**

DVD Digital Theater System
TH-A5

システム構成：XV-THA5
SP-THA5

お買い上げいただき、ありがとうございます。

⚠ ご使用の前に

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
特に 4 ～ 7 ページの「安全上のご注意」は、必ずお読みいただき、安全にお使いください。
お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。

LVT0837-001C

目　次

お使いになる前に　ページ

とりあえず簡単操作　ページ

その他の基本操作　ページ

DVDを使いこなす　ページ

ビデオCDやCDを使いこなす　ページ

MP3を使いこなす　ページ

いろいろな設定をする　ページ

知っておいてほしいこと　ページ

始めてお使いになる前にお読みください。

とえあえず本システムを使ってみたい。そんなときの簡単操作の説明です。

他にどんな便利な機能があるの？

DVDで、もっと他にどんなことができるの？

ビデオCDやCDで、もっと他にどんなことができるの？

MP3ディスクで、もっと他にどんなことができるの？

本システムをもっと便利に使いたい。そんなときにお読みください。

わからないこと、調べたいことがあったときに、お読みください。

安全上のご注意　ーはじめにお読みくださいー

絵表示について

この取扱説明書と製品には、いろいろな絵表示が記載されています。
これらは、製品を安全に正しくお使いいただき、人への危害や財産への損害を未然に防止するための表示です。絵表示の意味をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

• この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容を示しています。

⚠注意

・この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、「傷害を負ったり物的損害が想定される」内容を示しています。

●絵表示の説明

注意をうながす記号

一般的注意

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止　水ぬれ禁止

行為を指示する記号

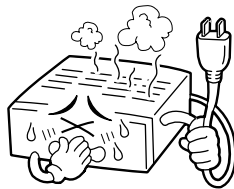
一般的指示

電源プラグを抜く

⚠警告

万一、次のような異常が発生したときはすぐ使用をやめる。

• 煙が出ている、へんなにおいがするとき

電源プラグを抜く

• 内部に水や異物が入ってしまったとき
• 落としたり、破損したとき
• 電源コードが傷んだとき（芯線の露出や断線など）

電源プラグを抜く

すぐに電源を「切」にし、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
このような異常が発生したまま使用していると、火災や感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理を依頼してください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

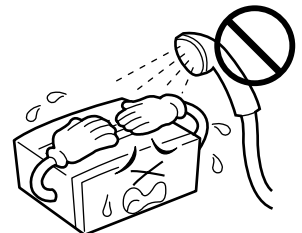
分解や改造をしない。カバーを外さない。

火災や感電の原因となります。
内部の点検や修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

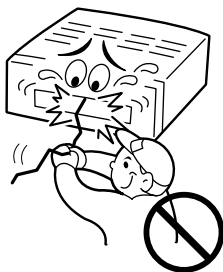
分解禁止

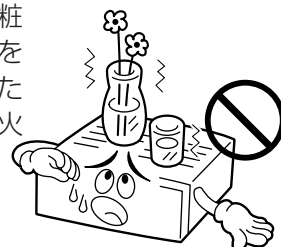
風呂場やシャワー室では使用しない。

本機の中に水が入ると、火災や感電の原因となります。

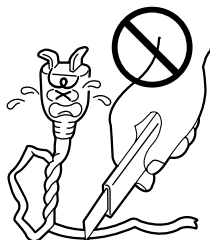
水場での使用禁止

⚠警告

本機の中に物を入れない。

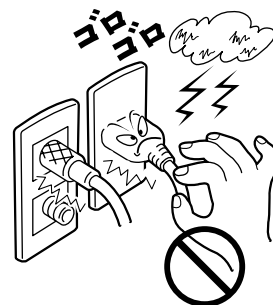
通風孔やディスク挿入部の穴などから、金属物や燃えやすいものが入ると、火災や感電の原因となります。特に小さいお子様のいるご家庭では注意してください。

本機の上に水の入った容器を置かない。

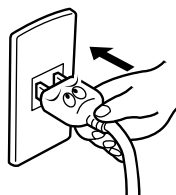
花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など水の入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に水が入った場合は、火災や感電の原因となります。

電源コードを傷つけない。

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。特に、次のことに注意してください。

- 電源コードを加工しない
- 電源コードを無理に曲げない
- 電源コードをねじらない
- 電源コードを引っ張らない
- 電源コードを熱器具に近づけない
- 電源コードの上に家具などの重い物をのせない

雷が鳴り出したら、アンテナ線や電源プラグに触れない。

感電の原因となります。

接触禁止

電源プラグは根元まで確実に差し込む。

差し込みが不完全ですと、発熱したりほこりが付着して火災や感電の原因となります。また、たこ足配線も、コードが熱を持ち危険ですのでしないでください。

表示された電源電圧（交流100ボルト）で使用する。

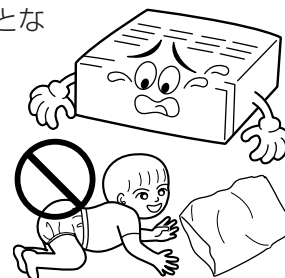
火災の原因となります。
本機を使用できるのは日本国内のみです。

This set is designed for use in Japan only and can not be used in any other country.

電源プラグは定期的に清掃する。

電源プラグとコンセントの間に、ゴミやほこりがたまって湿気を吸うと、絶縁低下を起こして、火災の原因となります。定期的に電源プラグをコンセントから抜き、ゴミやほこりを乾いた布で取ってください。

本機の包装に使用しているポリ袋は、小さなお子様の手の届くところに置かない。

頭からかぶると窒息の原因となります。

⚠注意

電源プラグは、コードの部分を持って抜かない。

電源コードを引っ張ると、コードに傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。電源プラグを持って抜いてください。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

通風孔をふさいだり、風通しの悪い場所で使用しない。

本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。特に次のことに注意してください。

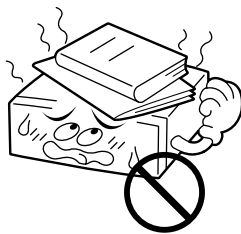
- あお向けや横倒し、逆さまにしない
- 本箱、押し入れなど風通しの悪い狭い所に押し込まない
- テーブルクロスを掛けない
- 本や雑誌などをのせない
- じゅうたんや布団の上に置かない
- 設置するときは、壁などから10cm以上離す
- センターユニット後面の冷却ファンをふさがない

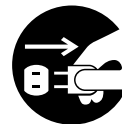
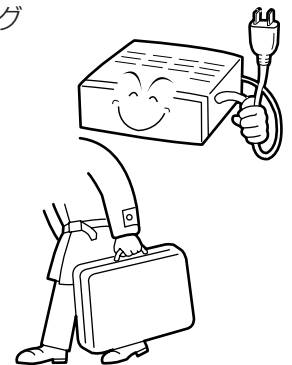
置き場所に注意する。

次のような所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど、油煙や湯気が当たる所
- 湿気やほこりの多い所
- 熱器具の近くなど高温になる所
- 窓ぎわなど水滴の発生しやすい所

本機の上に重い物を置かない。

テレビなどの重い物や本機からはみ出るような大きな物を置くと、バランスがくずれて倒れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。

長期間使用しないときは、電源プラグを抜く。

電源が「切」でも本機には、わずかな電流が流れています。安全および節電のため、電源プラグを抜いてください。

電源プラグを抜く

⚠注意

お手入れをするときは、電源プラグを抜く。

電源が「切」でも本機には、わずかな電流が流れています。電源プラグがコンセントに接続されていると、感電の原因となることがあります。

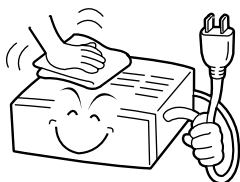
電源プラグを抜く

移動するときは、接続コード類や電源プラグを抜く。

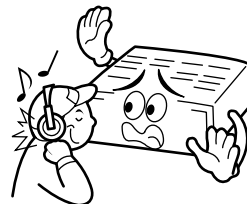
接続したまま移動すると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

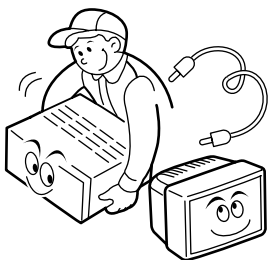
電源プラグを抜く

はじめから音量を上げすぎない。

突然大きな音が出て、スピーカーを破損したり、聴力障害の原因となることがあります。
電源を切る前に音量（ボリューム）を下げておき、電源が入ってから徐々に上げてください。

ディスク挿入時に、手を挟まれないようにする。

閉まるときにディスクトレイに手を挟まれ、けがの原因となることがあります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

手を挟まれないよう注意

3年に一度は内部の清掃を販売店に依頼する。

内部にほこりがたまったまま使用すると、火災の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行なうと、より効果的です。

電池の取り扱いに注意する。

電池の取り扱いを誤ると、電池が破裂したり、液もれして、火災・けがや周囲を汚す原因となることがあります。次のことに注意してください。

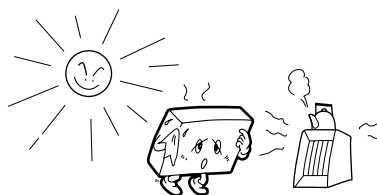
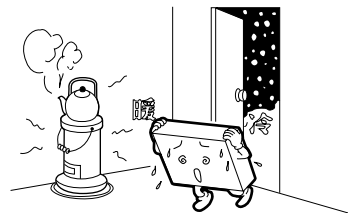
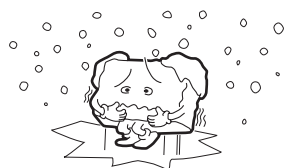
- 指定以外の電池を使用しない
- 電池のプラス（＋）とマイナス（－）を間違えない
- 電池のプラス（＋）とマイナス（－）をショートさせない
- 電池を加熱しない
- 分解しない
- 火や水の中に入れない
- 新しい電池と一度使用した電池を混ぜて使用しない
- 種類の違う電池と混ぜて使用しない
- 乾電池は充電しない
- 長期間使わないときは、電池を取り出しておく

もし、電池が液もれをしてしまったときは、電池ケースについた液をよく拭きとってください。万一、もれた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

ご使用になる前に

本システムの置き場所について

本システムは5℃から35℃までの温度で使用できるように設計されています。これを超える温度の環境で使用すると、誤動作したり、故障の原因となります。また故障などを防止するため次の場所は避けてください。

・ 湿気やほこりの多い所

・ 直射日光が当たる所や暖房器のそば

・ 寒い所から急に暖かい部屋へ移動したのちしばらくの間

・ 極端に寒い所

・ 磁気を発生する所
・ 振動の激しい所
・ OA機器やけい光灯のすぐそば

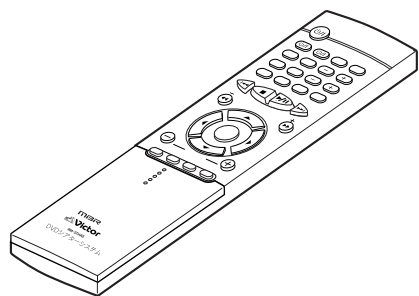
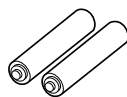
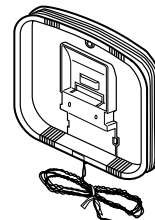
露がついたら

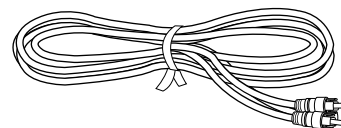
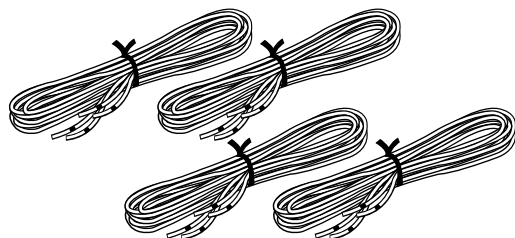
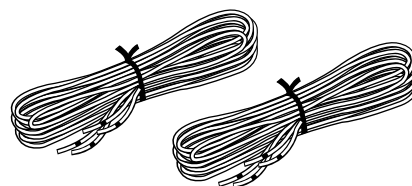
次のような場合、本機のレンズに露(水滴)が付いてDVDやCDなどが正しく再生できないことがあります。

- 暖房を始めた直後
- 湯気や湿気の多いところに置いてあるとき
- 冷えた所から急に暖かい部屋に移動したとき

電源を入れたまま、1～2時間待ってからお使いください。

付属品

お使いになる前に付属品をお確かめください。

リモコン(RM-STHA5)(1個)

単4形乾電池(2本)
(リモコン動作確認用)

AMループアンテナ(1個)

FM簡易型アンテナ(1本)

ビデオコード 長さ約3m(1本)

サブウーハー／センタースピーカー/
フロントスピーカー用接続コード
長さ約5m(4本)

リアスピーカー用接続コード
長さ約10m(2本)

ディスクの予備知識

本システムで再生できるディスク

本システムで再生できるディスクは以下の通りです。

再生できるディスク	記録内容	ディスクの大きさ
DVDビデオ	音声＋映像	12センチ
		8センチ
ビデオCD	音声＋映像	12センチ
		8センチ
オーディオCD	音声	12センチ
		8センチ

音楽用のCDフォーマットおよびMP3フォーマットで記録したCD-RおよびCD-RWディスクも再生できます。
ただし、ディスクの特性や記録状態によっては、再生できないこともあります。

再生できないディスク

・DVD-ROM　・DVD-RAM　・DVD-R　・DVD-RW　・CD-ROM　・フォトCD

これらのディスクを再生することはできません。誤って再生すると、ノイズが発生することがあります。また、発生したノイズによってスピーカーを破損することがあります。
CDグラフィックス、CDエキストラ、CDテキストの場合、音声のみ再生できます。

リージョン番号(ローカル番号)について

DVDビデオにはリージョン番号と呼ばれる、再生可能地域番号がついています。この番号がDVDプレーヤーのリージョン番号と合致しないと再生できません。**本システム(センターユニット)のリージョン番号は「2」ですので、DVDのディスク上に「2」という番号が含まれているディスクに限り再生することができます。**

・本システムで再生できるディスクの表示例

- リージョンコード番号の「2」を含んでいないディスクを再生しようとすると、テレビ画面に「リージョンコードエラー」と表示され、再生できません。(センターユニットの表示窓には「REGION ERR」と表示されます)

本システムは日本やアメリカなどのテレビ方式であるNTSCに適合しています。ヨーロッパなどのテレビ方式(PAL、SECAM)用のディスクは再生できません。

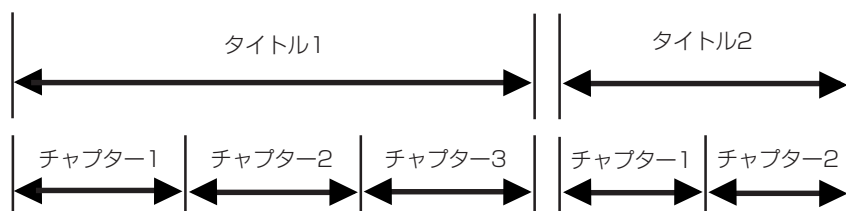
お知らせ

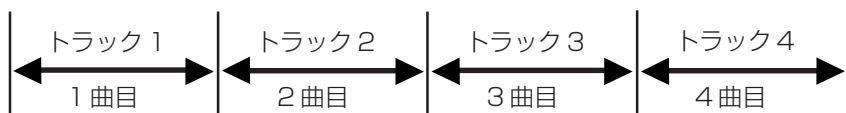
- DVDおよびビデオCDは、ソフト製作者の意図により再生状態が決められていることがあります。
  本センターユニットは、ソフト製作者が意図したディスク内容に従って再生をしますので、操作した通りに機能が働かないことがあります。
  このようなときは、テレビ画面に「⊘」が表示されますが、表示されないときもありますのでご注意ください。

ディスクの予備知識(つづき)

再生できるディスクについて

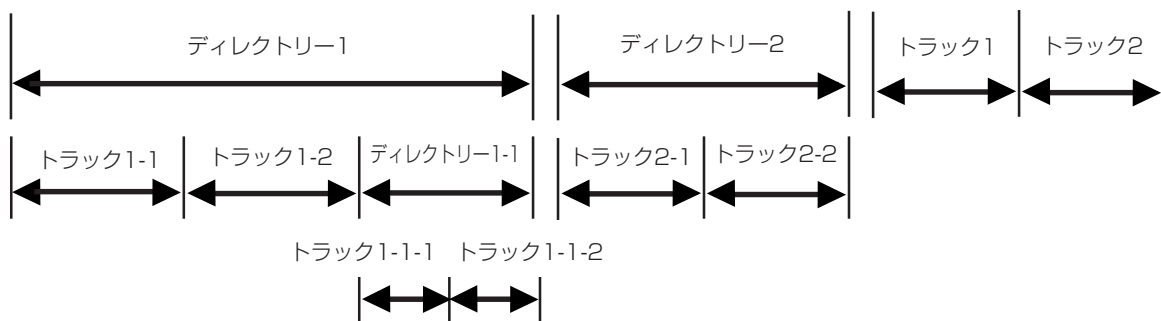
■ DVDビデオ

一般的にDVDソフトは、「**タイトル**」と呼ばれるいくつかの大きな項目から構成されています。それぞれのタイトルには番号(タイトル番号)が付いていて、すべてのタイトルがすぐに選べるようになっています。またタイトルはさらに「**チャプター**(章)」という小さな項目によって分割されています。
それぞれのチャプターには番号(チャプター番号)が付いていて、すべてのチャプターがすぐに選べるようになっています。ただし、ディスクによってはタイトルやチャプターに分割されていないものもあります。

■ ビデオCD/オーディオCD

一般的にビデオCDやオーディオCDは、「**トラック**」という項目で区切られて、それぞれ番号(トラック番号)が付けられています。たとえば2曲目は、「トラック2」となります。
ただし、ディスクによってはトラックに分割されていないものもあります。また、「インデックス」と呼ばれる頭出しマークが記録されているディスクもあります。(本システムはインデックス･マークには対応していません。)

■ MP3ディスク

本機はMP3フォーマットで記録されたCD-R/CD-RWディスクを再生することができます(本取扱説明書ではこれらのディスクを「MP3ディスク」と呼びます)。

- 本システムで再生できるMP3ディスクは、ISO9660フォーマット(レベル1またはレベル2)で記録されたCD-R/CD-RWディスクです。

MP3は正式には「MPEG-1/2 Audio Layer-3」と呼ばれ、MPEG規格の1つです。人間の耳によく聞こえない音を無視して、聞こえる音のみを記録するというデータ圧縮方法により、少ないデータ容量でステレオ音声を記録することができます。
MP3ディスクには、それぞれの曲が各「**トラック(ファイル)**」として記録されています。また一般的に、複数のトラックをカテゴリー別、アーティスト別などの「**ディレクトリー(グループ)**」にまとめて分類できます。また「ディレクトリーの中にサブ･ディレクトリー」を作って、ディレクトリーを階層構造にできます。このディレクトリー階層はパソコンにおけるフォルダの階層構造と同です。

お知らせ

- MP3ディスクの音声信号は、DIGITAL OUT (OPTICAL)音声出力からは出力されません。
- MP3ディスクを再生するときは、本システムで使用できる機能に制限があります。プログラム再生はできません。
- ディスクの記録状態や特性により再生できないことがあります。
- マルチセッション記録やパケットライト方式で記録されたディスクは、再生できません。
- 本システムはMP3の「ID3タグ」には対応していません。(ID3タグには、演奏者や曲名などの情報が記録されています)
- ファイナライズされていないディスクは、再生できません。

各部の名前 —□内の数字のページに説明があります。—

リモコン（RM-STHA5）

電源ボタン
電源の「入」⟷「切」をするときに使います。
- **⏻/I オーディオ：**
  本システムの電源を「入」⟷「切」するときに押します。[20] [22] [24]
- **TV ⏻/I：**
  テレビの電源を「入」⟷「切」するときに押します。他メーカーのテレビは、メーカーコードの設定が必要になります。[20] [66]
- **ビデオ ⏻/I：**
  ビデオデッキの電源を「入」⟷「切」するときに押します。[67]

操作ボタン
ディスクやラジオの操作をするときに使います。
- **TOPメニュー** [36]
- **メニュー** [36]
- **音声/FMモード** [23] [33]
- **字幕** [34]
- **表示切替** [32] [42] [52]

カーソル（▲/▼/◄ / ►）ボタンと決定ボタン

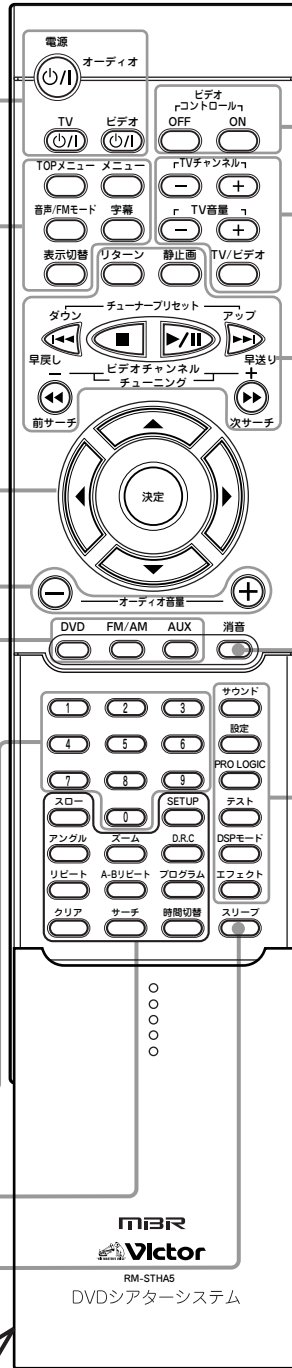
オーディオ音量ボタン（＋、－）
本システムの音量を調節するときに押します。
[21] [23] [25]

ソース機器選択ボタン
ソース（音源）を選ぶときに押します。電源を「入」にすることもできます。[22] [24] [26]

数字ボタン
トラックや時間などを指定するときに押します。

ディスクの操作や初期設定をするときに使います。
- **スロー** [41] [50]
- **SETUP** [60]～[65]
- **アングル** [34]
- **ズーム** [41] [50]
- **D.R.C** [30]
- **リピート** [39] [48] [52]
- **A-Bリピート** [39] [48]
- **プログラム** [37] [46]
- **クリア** [38] [47]
- **サーチ** [36] [44]
- **時間切替** [33] [42]

スリープボタン
おやすみタイマーを使うときに押します。[27]

リモコン内部のボタンを使うときは
カバーを押しながら、下図の矢印の方向にスライドさせます。

ビデオコントロールボタン
- **ON** ：ビデオデッキを操作するときに押します。[25] [67]
- **OFF** ：ビデオデッキの操作を終了後、本システムを操作するときに押します。[25] [67]

TV操作ボタン
- **TVチャンネル（＋、－）：**
  テレビのチャンネルを選ぶときに押します。
  [25] [67]
- **TVテレビ音量（＋、－）：**
  テレビの音量を調節するときに押します。
  [25] [67]
- **TV/ビデオボタン：**
  テレビの入力を「ビデオ」または「テレビ」に切り替えるときに押します。[25] [67]

操作ボタン
ディスクやラジオの操作のほかに、ビデオデッキの操作をするときに使います。

・ディスクの操作をするとき
- **◄◄、►►** ：早送り／早戻しサーチをするときに押します。[35] [43]
- **|◄◄、►►|** ：頭出しをするときに押します。[35] [43]
- **►/II** ：ディスクを再生･一時停止するときに押します。電源を「入」にすることもできます。[21]
- **静止画** ：静止画やコマ送り再生をするときに押します。[40] [49]
- **■** ：ディスクの再生を停止するときに押します。[21]
- **リターン** ：メニュー操作時に、前のメニューに戻るときに押します。[45] [60]

・ラジオの操作をするとき [22] [23] [27]
- **チューナープリセット（アップ、ダウン）：**
  聞きたい放送局の周波数を選ぶときに押します。
- **チューニング（＋、－）：**
  記憶されている放送局のプリセット番号を選ぶときに押します。

消音ボタン
本システムの音を一時的に出なくするときに押します。[27]

アンプ機能の設定や音声の調節をするときに使います。
- **サウンド** [56]～[59]
- **設定** [54] [55]
- **PRO LOGIC** [25] [31]
- **テスト** [13]
- **DSPモード** [21] [23] [25] [31]
- **エフェクト** [31]

各部の名前（つづき） —□内の数字のページに説明があります。—

センターユニット（XV-THA5）

前面

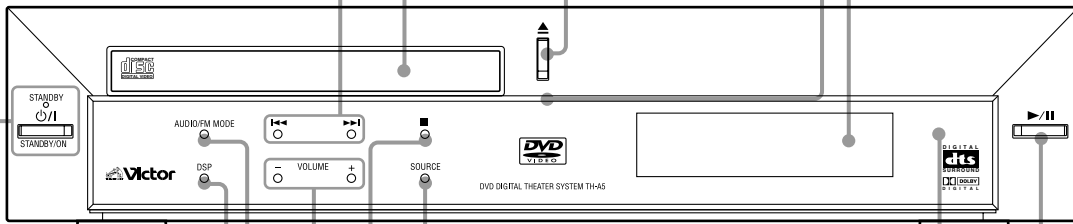
⏻/I STANDBY/ONボタンとSTANDBYランプ
電源の「入」⟺「切」をするときに押します。
STANDBYランプは、電源を「切」にすると赤く点灯し、電源を「入」にすると消えます。[20] [22] [24]

⏮、⏭ボタン
トラックの頭出しをするときに使います。[35] [43]
放送局の周波数やプリセット番号を選ぶこともできます。[22] [23]

ディスクトレイ [20]

⏏（オープン/クローズ）ボタン
ディスクトレイを開/閉するときに押します。電源を「入」にすることもできます。[20]

イルミネーションランプ
電源「入」時に点灯します。

表示窓
[13] ページをご覧ください。

DSPボタン
DSPモードを選ぶときに押します。[21] [23] [25] [31]

AUDIO/FM MODEボタン
DVDの音声言語を切り替えるときに押します。[33]
またFM放送受信中に雑音の多いときに押します。[23]

SOURCEボタン
ソース（音源）を選ぶときに押します。[22] [24] [26]

■（停止）ボタン
ディスクの再生を停止するときに押します。[21]
放送局の選局方法を切り替えるときに押します。[23]

VOLUME＋、－ボタン
音量を調節します。[21] [23] [25]

リモコン受光部

▶/II（再生/一時停止）ボタン
ディスクを再生・一時停止するときに押します。電源を「入」にすることもできます。[21]

後面

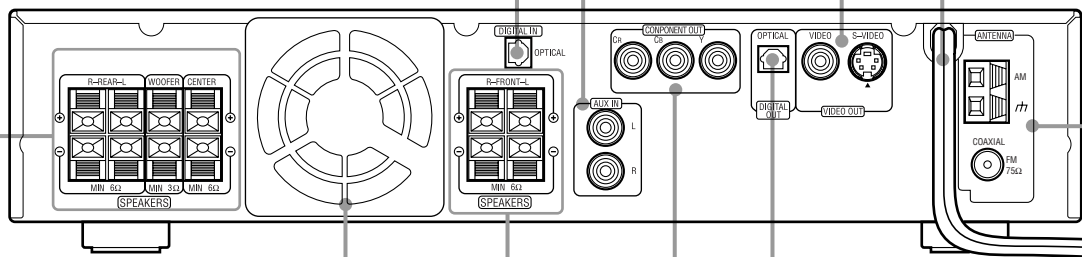
SPEAKERS（サラウンド）端子
- **REARスピーカー端子：**
  リアスピーカーを接続する端子です。[15]
- **CENTERスピーカー端子：**
  センタースピーカーを接続する端子です。[15]
- **WOOFERスピーカー端子：**
  サブウーハーを接続する端子です。[15]

DIGITAL IN（デジタル入力）端子
他の機器の光デジタル音声出力端子と接続します。[18]

AUX IN音声入力端子
他の機器のアナログ音声出力端子と接続します。[18]

ANTENNA端子
FMおよびAMのアンテナを接続します。[14]

VIDEO OUT（映像出力）端子
テレビの映像入力端子やS映像入力端子と接続します。[17]

電源コード
家庭用のコンセント（AC 100V）に接続します。[19]

冷却ファン
内部温度が高くなると、回転します。

DIGITAL OUT（デジタル出力）端子
他の機器の光デジタル音声入力端子と接続します。[19]

SPEAKERS（フロント）端子
左右のフロントスピーカーを接続する端子です。[15]

COMPONENT OUT（映像出力）端子
テレビのコンポーネント映像入力端子と接続します。[17]

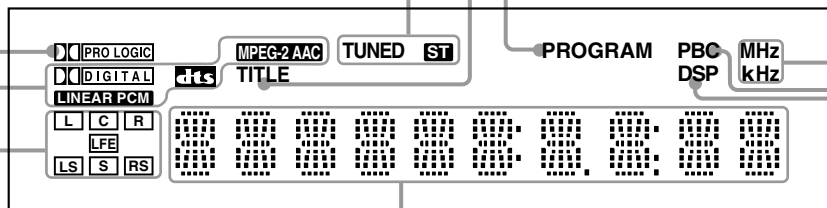
表示窓

デジタル信号方式表示
ディスクのデジタル信号(音声)の記録方式を表示します。

DD PRO LOGIC表示
ドルビープロロジック(PRO LOGICまたは3 STEREO)が「入」のときに点灯します。31

ラジオ受信状態表示
ラジオの受信状態とFM受信モードを表示します。23

TITLE表示
DVD再生中に点灯します。文字/時間表示部のタイトル番号が表示されていることを意味します。

PROGRAM表示
プログラム再生をしているときに点灯します。37 46

文字/時間表示部
本システムの動作状態や選んでいるソース、時間情報などを表示します。

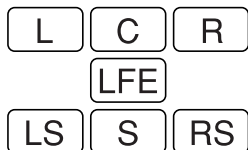
音声チャンネル/スピーカー表示
再生中の音声信号チャンネルを表示します。
またテストトーン出力中は、テストトーン出力中のスピーカーを表示します。

DSP表示
DSPモードを選んでいるときに点灯します。31

PBC表示
ビデオCDのPBC再生中に点灯します。45

ラジオ周波数単位表示
FMバンド受信中はMHz表示が、AMバンド受信中はkHz表示が点灯します。

音声チャンネル/スピーカー表示

再生している音声信号のチャンネルとスピーカーを表示します。

再生されている音声信号は、対応するスピーカーから出力されます。

- **L** ：左フロントチャンネル(左フロントスピーカー)
- **R** ：右フロントチャンネル(右フロントスピーカー)
- **C** ：センターチャンネル(センタースピーカー)
- **LS** ：左サラウンドチャンネル(左リアスピーカー)
- **RS** ：右サラウンドチャンネル(右リアスピーカー)
- **S** ：モノラルサラウンドチャンネル(左右リアスピーカー)
- **LFE**：LFEチャンネル(サブウーハー)

スピーカーからテストトーンを出力して、スピーカーから実際に音がでているかどうか確認できます。

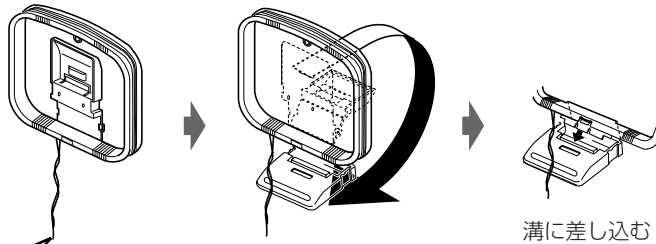
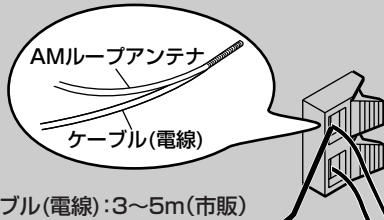
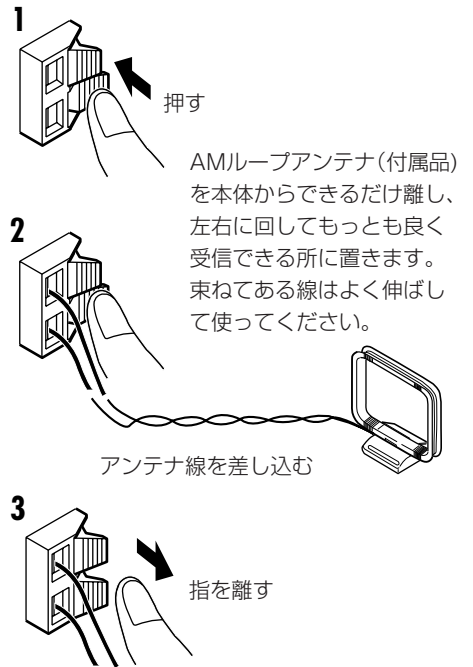
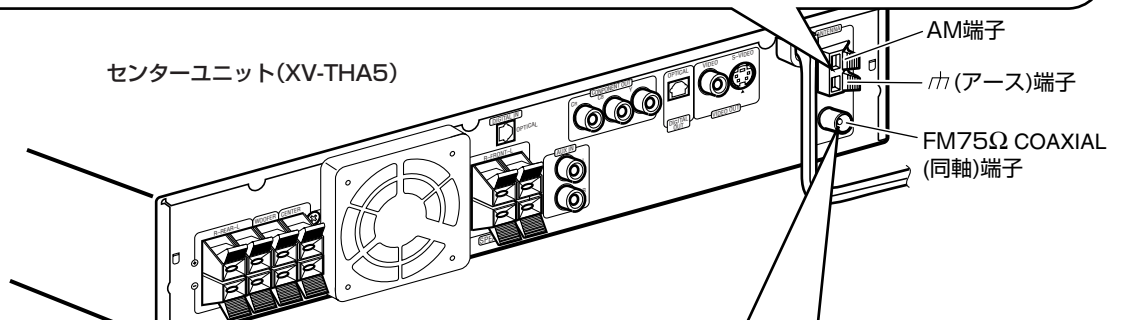
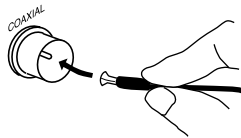
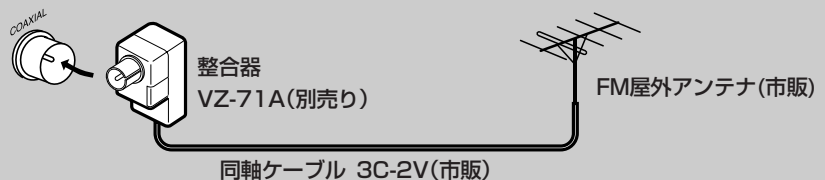
1 本システムに、DVDのマルチチャンネル・ディスク(ドルビーデジタル5.1chまたはDTSデジタルサラウンド)を入れて、ディスクを再生する(➡ 20 21 28 ページ)。
2 リモコンの**テスト**を押す。
テストトーンが各スピーカーから順番に出力されます。
3 スピーカーからの出力を確認できたら、もう一度テストを押す。
テストトーンが止まります。

接　続 ―接続が終わるまで電源は入れないでください。―

接続上のご注意

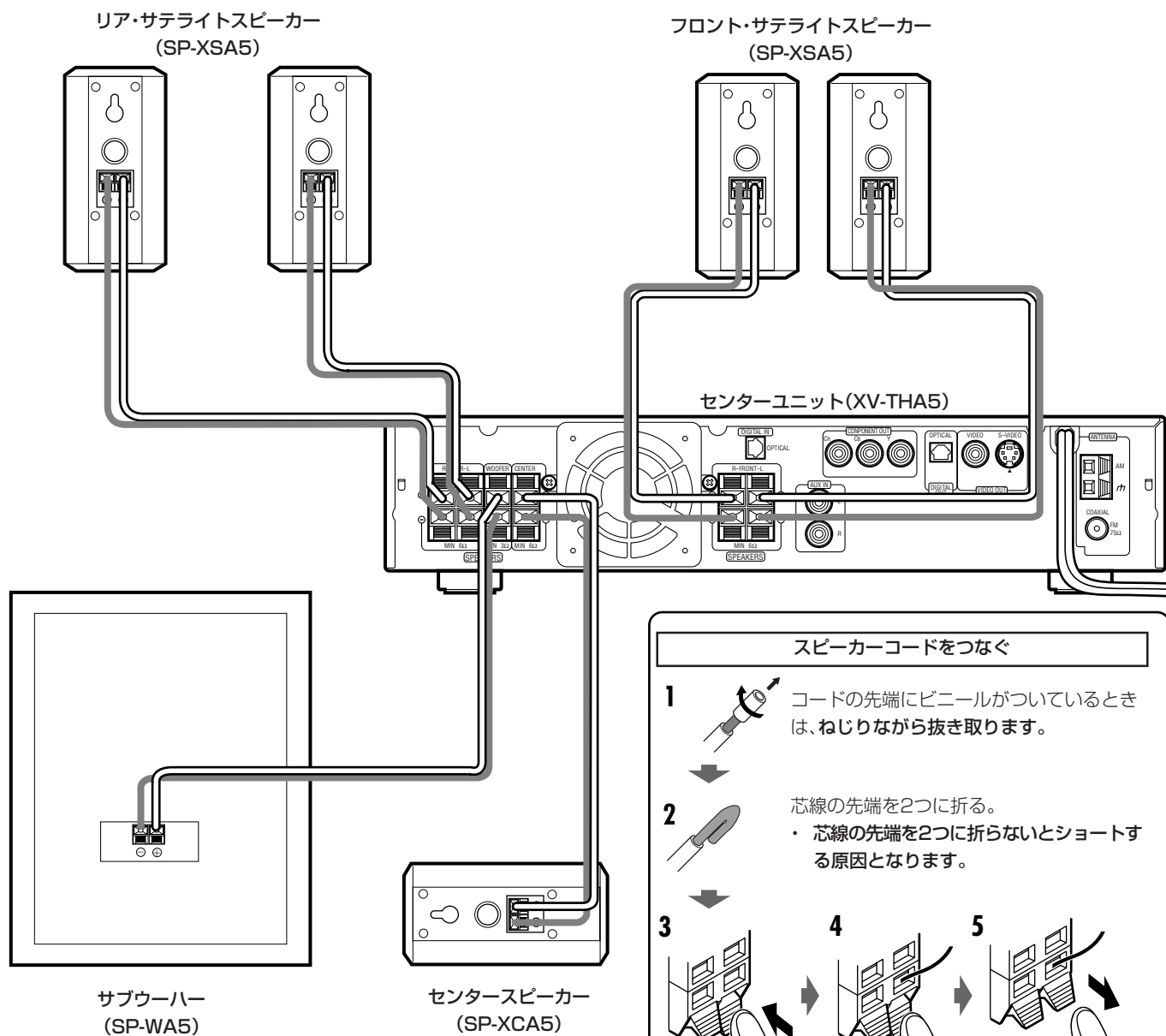
- すべての接続が終わってから、電源コードをコンセントに差し込んでください。
- 各コードまたは各プラグは確実に接続してください。不完全な接続は、雑音や音が出ないなどの原因となります。

アンテナを接続する

ラジオを聞くためにアンテナを接続します。

スピーカーを接続する

サテライトスピーカーとセンタースピーカー、サブウーハーをセンターユニットのスピーカー（SPEAKERS）端子に接続します。付属のスピーカーコードには、長さ約5m（4本）と長さ約10m（2本）のものがあります。各スピーカーコードには、接続するスピーカーのシールが張ってあります。シールに合わせて正しくお使いください。
4本のサテライトスピーカーには、フロント用とリア用の区別はありません。

スピーカーの左右と極性（⊕と⊖）を間違えないように正しく接続してください。

- スピーカーコードは、白い線を ⊕ 端子に、黒い線を ⊖ 端子に接続します。

お知らせ

- スピーカーコードの極性（⊕、⊖）を間違えると、ステレオ感や音質がそこなわれますのでご注意ください。
- 接続したあと、コードを軽く引いて正しく接続されているか確認してください。
- 磁気カードなどをスピーカーのすぐそばに置かないでください。データが消えるなどの原因になることがあります。
- 市販のスピーカーをお使いになると、音質などがそこなわれる原因になることがあります。本システムの能力を十二分に発揮するためには、付属のスピーカーをお使いになることをおすすめします。

スピーカーの配置例

本システムのサラウンド音声を効果的にお楽しみいただくための配置例です。

フロントスピーカーの設置用として、TVサイドスタンド(LS-SP101VJ:別売り)がお使いになれます。またサテライトスピーカーには、サテライトスピーカースタンドシステム(LS-SP101FJ:別売り)がお使いになれます。

お知らせ

- すべてのスピーカーは、聞く位置から等距離のところに設置してください。
  聞く位置からのフロントスピーカーまでの距離と、センタースピーカーやリアスピーカーまでの距離を同じにできないときは、ディレイタイム(遅延時間)の設定をしてください。(➡ 55 ページ)

設置するときのご注意:

- サテライトスピーカーを本棚の上などに置いて使用するときは、平らな場所に置いてください。
- 各スピーカーは防磁型ですが万一、テレビ画面に色ムラが生じるときは、スピーカーとテレビを10cm以上離してください。
- センターユニットの後面には冷却ファンがあります。設置のときにふさがないようにしてください。

設置するときのポイント

センタースピーカー　：主に映画の台詞などを再生するので、テレビ画面の近くに設置します。
フロントスピーカー　：前方左右の音を再生します。
リアスピーカー　：後方左右の音を再生します。耳の位置に対して横から少し後方に設置します。
サブウーハー　：重低音を再生します。

- センタースピーカー、フロントスピーカー、リアスピーカーからの音には指向性*があります。スピーカーを向ける方向によって、サラウンド感が変わります。
- サブウーハーからの音は、他のスピーカーからの音よりも指向性が弱いので、お部屋のレイアウトなどに合わせて重低音が効果的に聞こえる場所に設置してください。
  前方真ん中付近が理想的です。

* **指向性とは…**
スピーカーは、一般にその正面が最も音がよく聞こえ、正面からずれていくと聞こえにくくなる性質があります。この正面からの移動角度に対する出力音圧の変化を示したものが指向性です。

サテライトスピーカーを壁に掛けて使うとき

ブラケット金具(市販品)などを使って、サテライトスピーカーを柱などに取り付けて使うことができます。

⚠ 重要注意事項:

ブラケット金具(市販品)を柱などに止める木ネジ(長さ20mm〜25mm、直径3mm)は、十分に強度の得られるものをお客様でご用意ください。
強度や取り付けが不十分の場合、落下により人に被害を及ぼしたり、使用している機器などを損傷する恐れがあります。
ベニヤ板でできている壁やボード板などで強度が弱い場合は、必ず取り付け部を補強してください。
壁の強度など、お客様で判断できないときは、必ずお買い上げの販売店または最寄りのサービス窓口にご相談ください。

⚠ 取り付け位置に関する注意:

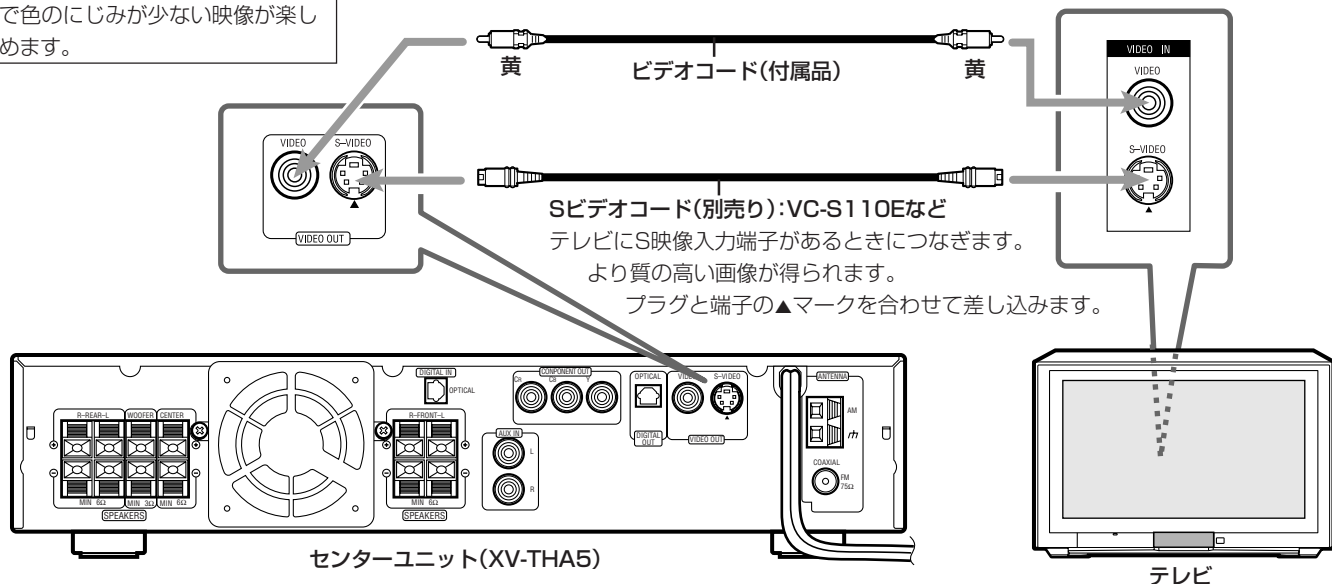
サテライトスピーカーを壁に取り付けるときは、取り付ける位置に十分考慮してください。
日常生活で邪魔になる位置や体、頭のぶつかりやすい位置などに取り付けると、ケガや器物の破損を招く原因となります。

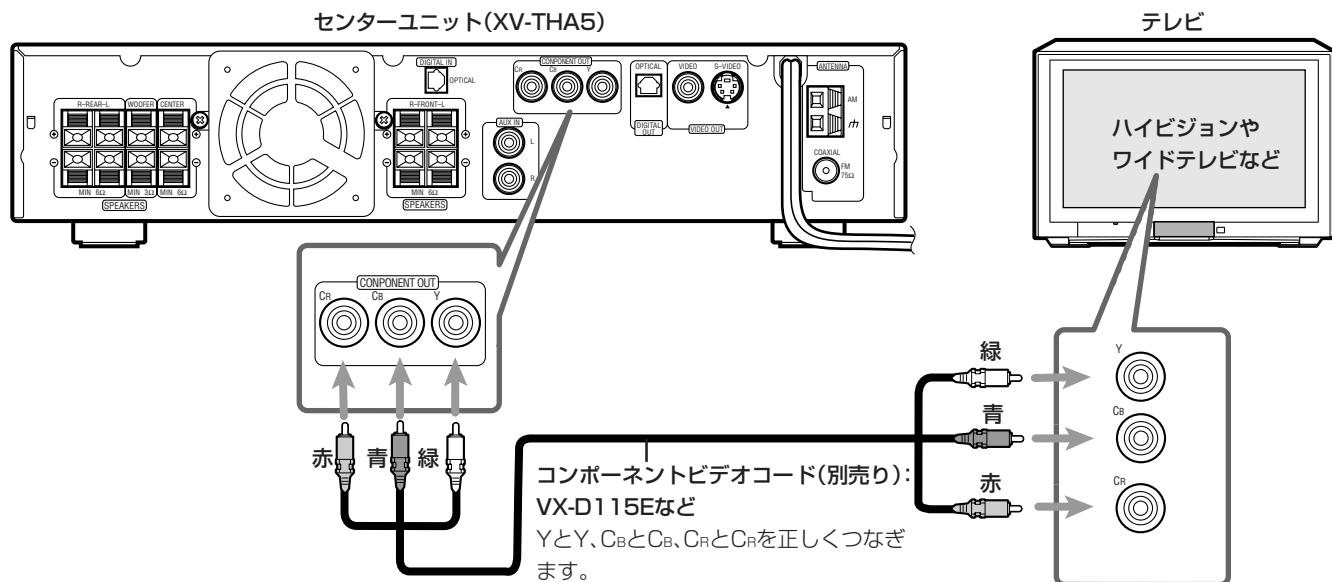
テレビを接続する

本システムからの映像を見るためにテレビを接続します。テレビの代わりにモニターやプロジェクターにも接続できます。

- センターユニットの映像出力は、直接テレビ(またはモニター)とつないでください。ビデオデッキを経由してつなぐと、コピー防止システムの働きにより再生中に画像が乱れることがあります。

映像入力端子(またはS映像入力端子)付のテレビとの接続

S映像信号とは・・・
従来の映像信号を輝度信号(Y)と色信号(C)に分離した信号です。鮮明で色のにじみが少ない映像が楽しめます。

DVDコンポーネント映像入力端子付のテレビとの接続

コンポーネント映像端子を使ってセンターユニットとテレビを接続することで、より高画質の映像をお楽しみいただくことができます。

お知らせ

- テレビやモニターの映像端子がBNCタイプのときは、別売りアダプター:VZ-90を使用してください。
  またD端子付テレビのときは、別売りのコンポーネントビデオコード:VX-DS220などを使用してください。
- ハイビジョンの「Y」、「PB」、「PR」端子とは接続しないでください。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

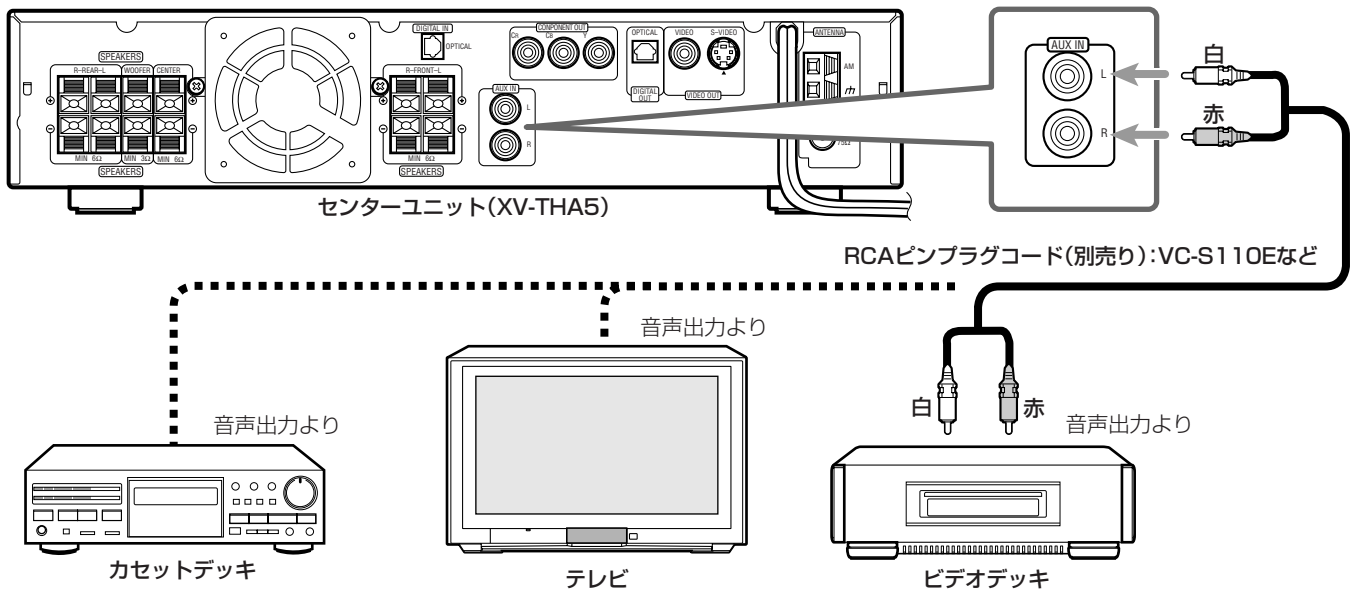
他のAV機器を接続する

本システムには、他の再生機器（デジタル・アナログ）やデジタル録音機器などを接続できます。

- 接続する機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

アナログ機器との接続

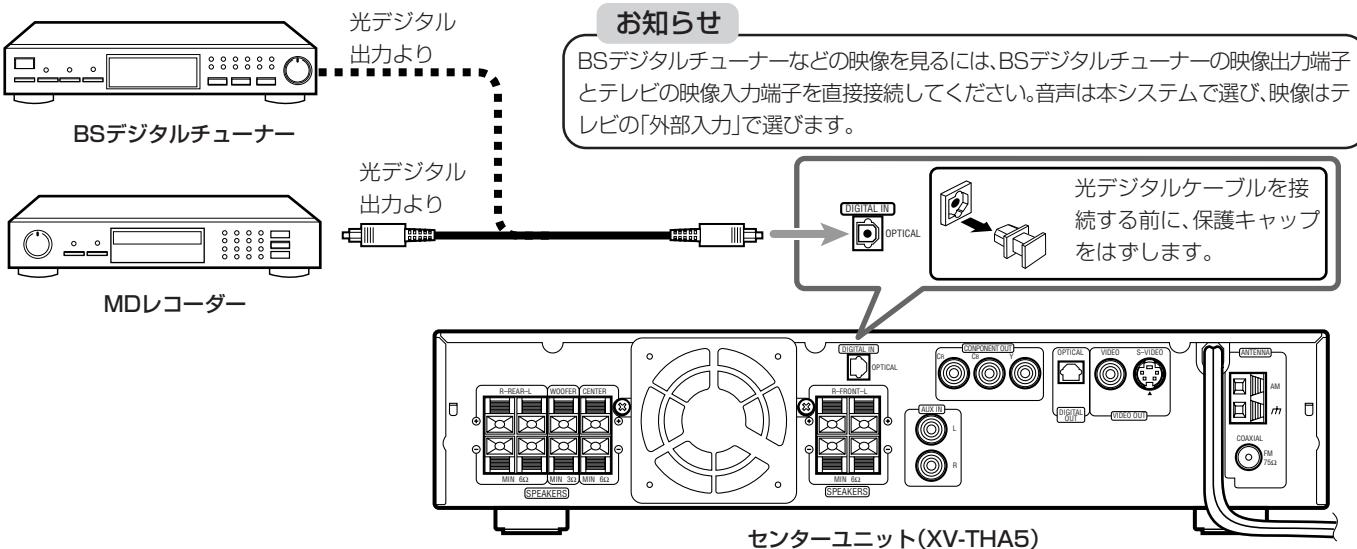
RCAピンプラグ付きコード（別売り）を使って、AUX IN（エーユーエックスイン）音声入力端子に接続します。

- 赤いプラグの方をR（ライト）・右端子に、白いプラグの方をL（レフト）・左端子に接続します。

お知らせ

- レコードプレーヤー：AL-E350（別売り）をつなぐときは、フォノイコライザー：AC-S100J（別売り）が必要です。
- ビデオデッキなどの映像を見るには、ビデオデッキの映像出力端子とテレビの映像入力端子を直接接続してください。音声は本システムで選び、映像はテレビの「外部入力」で選びます。

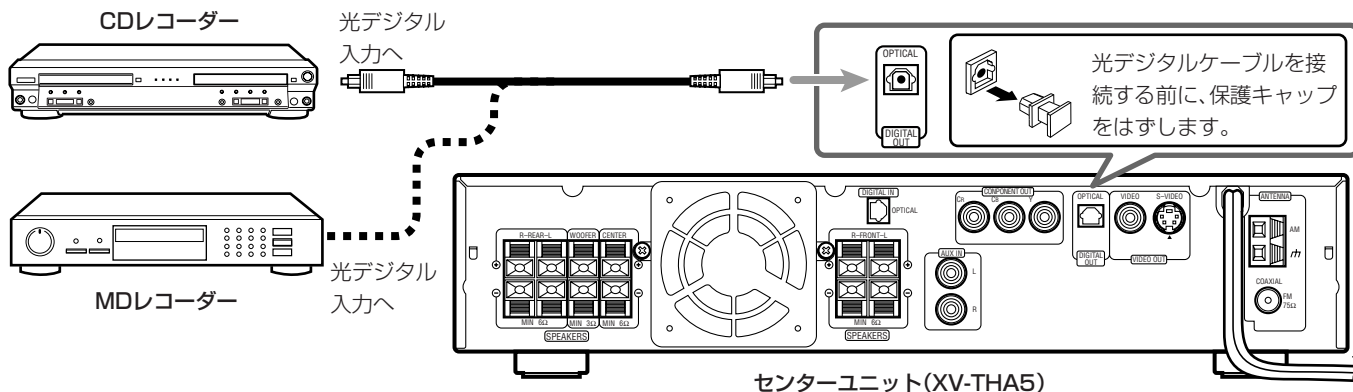
デジタル機器との接続

デジタル入力端子（再生機器）の接続

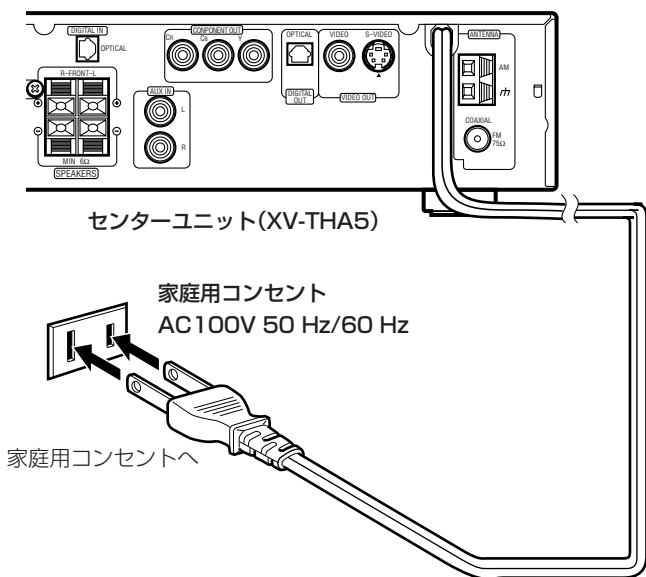
光デジタルケーブル（別売り）を使って、BSデジタルチューナーやMDレコーダーなどのソース機器をDIGITAL IN (OPTICAL)（デジタル イン オプティカル）音声入力端子に接続します。

お知らせ

BSデジタルチューナーなどの映像を見るには、BSデジタルチューナーの映像出力端子とテレビの映像入力端子を直接接続してください。音声は本システムで選び、映像はテレビの「外部入力」で選びます。

デジタル出力端子（録音機器）の接続

光デジタルケーブル（別売り）を使って、CDレコーダーやMDレコーダーなどの録音機器をDIGITAL OUT (OPTICAL)音声出力端子に接続します。

電源コードを接続する

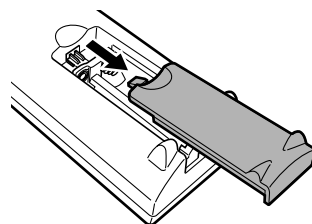
接続がすべて終わってから、電源コードを家庭用コンセントに差し込んでください。

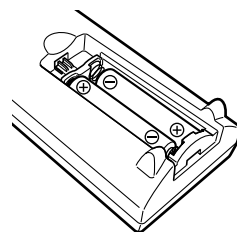
電源コードを接続すると、センターユニットのSTANDBYランプが赤く点灯します。

ご注意

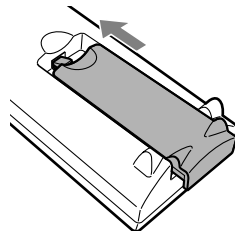
- 電源コードはテレビやビデオデッキ、アンテナ線などから離してください。雑音が発生したり、映像が乱れたりすることがあります。
- 濡れた手で電源コードを触らないでください。
- 電源コードをコンセントから抜くときは、必ずプラグの部分を持って抜いてください。

リモコンを準備する

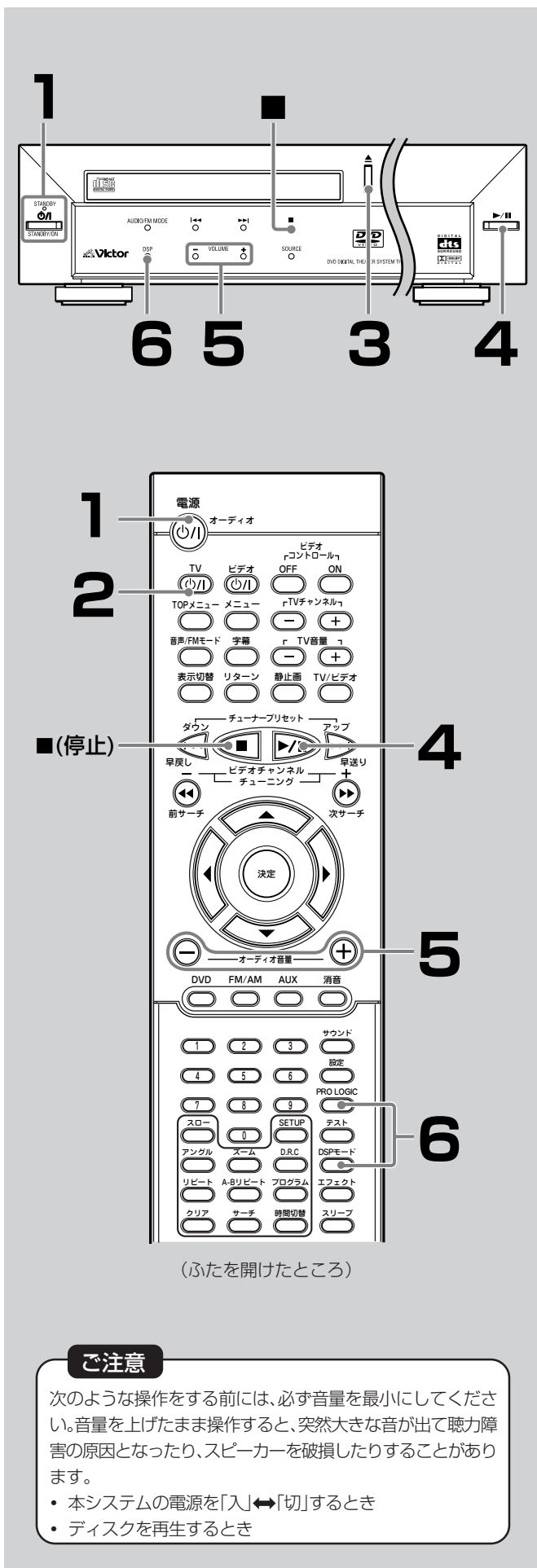
単4形の乾電池を入れます。

1 裏ブタをはずす

2 単4形乾電池2本入れる

リモコン内部の表示に合わせ、極性（⊕、⊖）を正しく入れます。

3 裏ブタをしめる

矢印の方向に戻します。

お知らせ

- リモコンの先端をセンターユニットのリモコン受光部に向けて操作します。斜めから使用したり、リモコン受光部との間に障害物等があると、リモコンで操作できないことがあります。
- 操作範囲が狭くなってきたり、センターユニットに近づけないと操作できなくなってきたときは、乾電池が消耗してきています。2本とも同じ種類の新しい単4形乾電池と交換してください。
- 付属の電池は動作確認用です。早目に新しい乾電池と交換してください。
- 指定以外の電池（充電式電池など）は使わないでください。
- 長い間使用しないときは、乾電池を取り出しておいてください。

DVDなどのディスクを見る・聞く

（ふたを開けたところ）

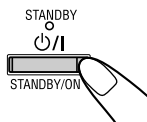
ご注意

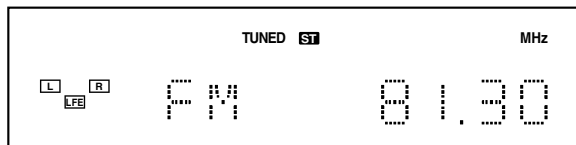
次のような操作をする前には、必ず音量を最小にしてください。音量を上げたまま操作すると、突然大きな音が出て聴力障害の原因となったり、スピーカーを破損したりすることがあります。

- 本システムの電源を「入」⟺「切」するとき
- ディスクを再生するとき

1 本システムの電源を入れる

リモコン　　：⏻/I **オーディオを押します。**
押すごとに電源が「入」⟺「切」します。

センターユニット：⏻/I STANDBY/ON（スタンバイ/オン）を押します。
押すごとに電源が「入」⟺「切」します。

センターユニットのSTANDBYランプが消え、イルミネーションランプが青く点灯します。
電源を切る前に聞いていたソース（音源）が選ばれ、センターユニットの表示窓に表示されます。

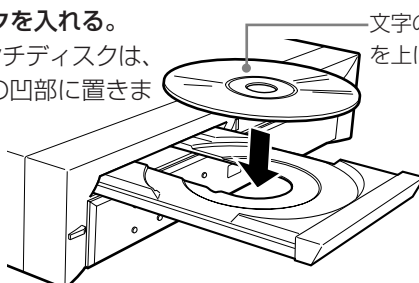
例：最後にFM放送が選ばれていたとき

2 テレビの電源を入れる

リモコンのTV ⏻/I を押します。

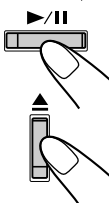
- DVDやビデオCDの映像ソフトをご覧になるときは、テレビの電源を入れ、テレビ側で正しい外部入力を選んでください。
- CDやMP3ディスクなどの音楽ソフトをお楽しみになるときも、テレビ画面を見ながら操作ができ、便利です。
- 他メーカーのテレビをお使いのときは、あらかじめメーカー設定をしておきます。（➡ 66 ページ参照）

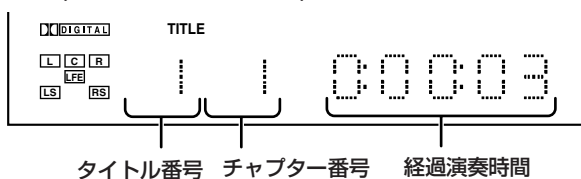
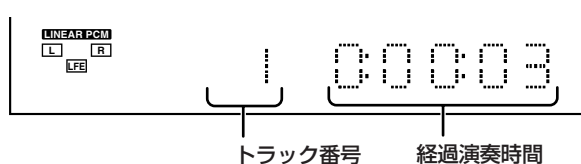
3 ディスクを入れる

① **センターユニット中央部の⏏（オープン/クローズ）を押す。**
ディスクトレイが出てきます。

② **ディスクを入れる。**
- 8センチディスクは、中央の凹部に置きます。

4 ディスクを再生する

リモコン　　　：▶/❚❚(再生/一時停止)を押します。

センターユニット：▶/❚❚(再生/一時停止)または▲(オープン/クローズ)を押します。

ディスクトレイが閉り、しばらくすると再生が始まります。(ディスクを検出中は表示窓に「WAIT」と表示されます)

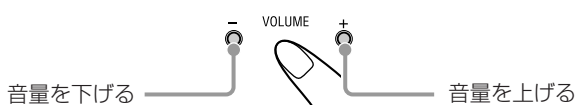
例:DVD(ドルビーデジタル5.1ch)を再生したとき

例:CDを再生したとき

より詳しいディスク操作については、以下のページをご覧ください。

- **DVD**　:「DVDを使いこなす」(➡ 32 〜 41 ページ)
- **ビデオCD/オーディオCD**
  :「ビデオCDやCDを使いこなす」
  (➡ 42 〜 50 ページ)
- **MP3**　:「MP3を使いこなす」(➡ 51 〜 53 ページ)

DVDやビデオCDの再生を開始すると、メニューがテレビ画面に表示されることがあります。このときは、メニュー画面を使いディスクを操作します。(➡ 36 44 ページ)

5 音量を調節する

リモコン　　　：オーディオ音量+/−を押します。

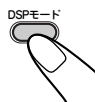
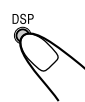
センターユニット：VOLUME+/−を押します。

音量レベルは、VOLUME MIN(消音)、01〜69、MAX(最大)までの範囲で調節できます。

6 サラウンドやDSPモードを使う

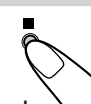
再生するディスクによって、異なったサラウンドやDSPモードをお楽しみいただけます。

- ドルビーデジタルとDTSデジタルサラウンドのDVDを再生すると、マルチチャンネルサラウンドは自動的に「入」になります。

■お好きなDSPモードを選ぶには

リモコンの**DSPモード**またはセンターユニットの**DSP**を押します。

- 詳しくは、「DSPモードを楽しむ」(➡ 31 ページ)をご覧ください。

再生を止めるには

■(停止)を押します。

(ディスク上の停止した位置が記憶されます。テレビ画面に「▶■STOP」と表示されます)

もう一度、再生を始めると、記憶された位置から続きが再生されます(リジューム再生)。

- もう一度■(停止)を押したとき(ディスクは停止後、約3分間回転します)や、本システムの電源を切ったとき、またはソース(音源)を一度切り替えると、リジューム再生は働きません。
- MP3ディスクでは、リジューム再生は働きません。

ディスクを取り出すには

センターユニットの**▲(オープン/クローズ)**を押します。

ディスクトレイが出てきます。

ディスクを取り出したら、もう一度**▲(オープン/クローズ)**を押して、ディスクトレイを閉めます。

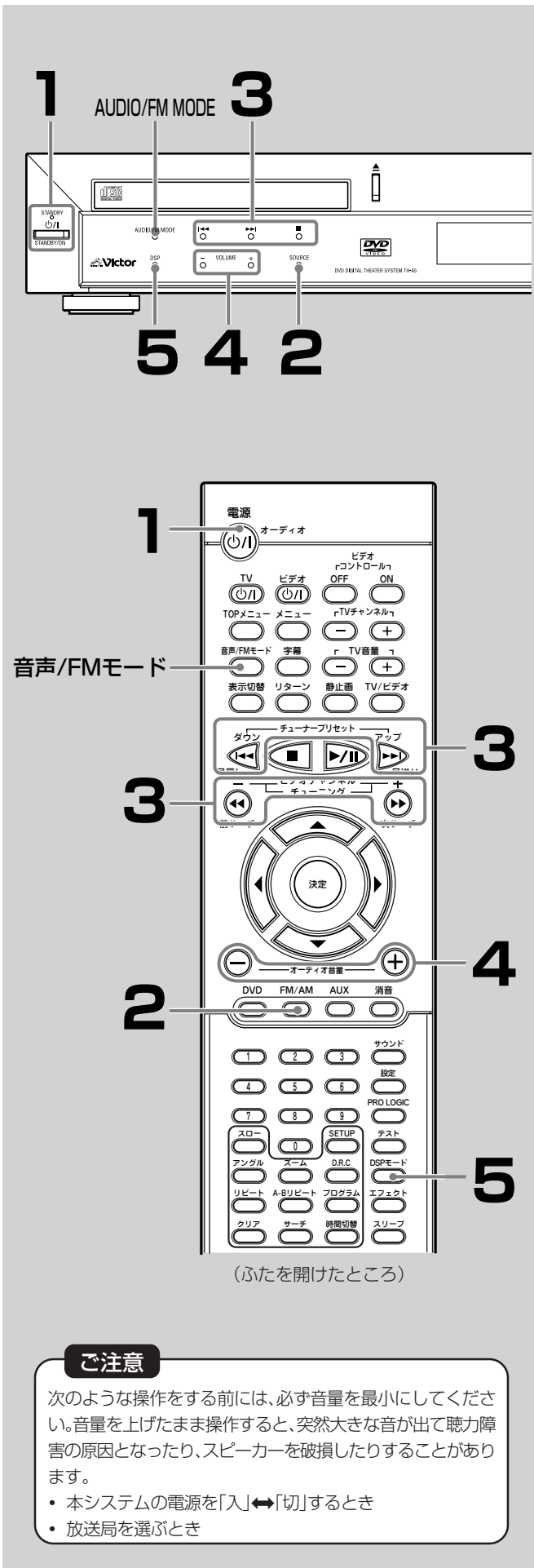
- ディスクトレイを出したまま、約35秒経過すると、ディスクトレイは自動的に閉ります。

電源を切るには

もう一度、リモコンの ⏻/I **オーディオ**または
センターユニットの ⏻/I **STANDBY/ON**を押します。

センターユニットのSTANDBYランプが赤く点灯して、イルミネーションランプが消えます。

- テレビの電源も忘れずに切ってください。

ラジオ(FM放送/AM放送)を聞く

(ふたを開けたところ)

ご注意

次のような操作をする前には、必ず音量を最小にしてください。音量を上げたまま操作すると、突然大きな音が出て聴力障害の原因となったり、スピーカーを破損したりすることがあります。

- 本システムの電源を「入」⟷「切」するとき
- 放送局を選ぶとき

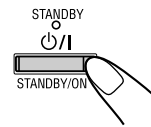
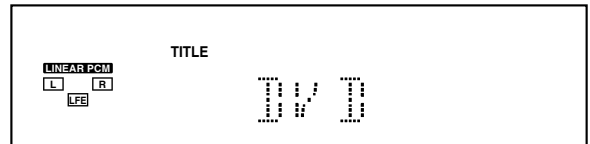
1 本システムの電源を入れる

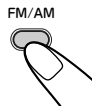
リモコン　：⏻/I オーディオを押します。
押すごとに電源が「入」⟷「切」します。

センターユニット：⏻/I STANDBY/ONを押します。
押すごとに電源が「入」⟷「切」します。

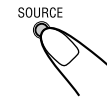
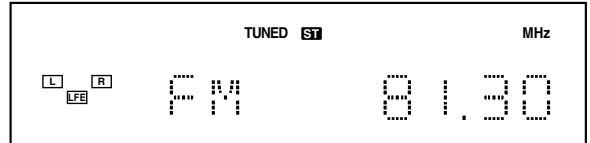
センターユニットのSTANDBYランプが消え、イルミネーションランプが青く点灯します。
電源を切る前に聞いていたソース(音源)が選ばれ、センターユニットの表示窓に表示されます。

例:最後に「DVD」が選ばれていたとき

LINEAR PCM　TITLE　DVD

2 FM放送またはAM放送を選ぶ

リモコン　：FM/AMを押す。
押すごとに、FM放送とAM放送が交互に切り替わります。

センターユニット：SOURCEをくり返し押して、表示窓に「FM」または「AM」を表示させます。

例:FM放送を選んだとき

TUNED ST　FM　81.30 MHz

3 聞きたい放送局を選ぶ

リモコン　：チューニング+またはチューニングーを押します。

周波数を下げる　周波数を上げる

センターユニット：▶▶|または|◀◀を押します。

周波数を下げる　周波数を上げる

オート選局
チューニング+または**チューニングー**を押し続け、表示窓の周波数表示が変わりだしたら指を離します。放送局を受信すると自動で周波数が停止します。

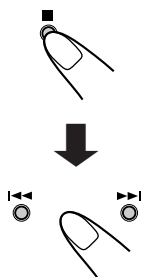
マニュアル選局
チューニング+または**チューニングー**を「ポン・ポン」と押します。押すごとにFM放送は0.1MHz(100kHz)ずつ、AM放送は9kHzずつ変わります。

FM放送*	0.1MHzずつ :76.0MHz～108.0MHz
AM放送	9kHzずつ :531kHz～1,629kHz

* テレビの1～3チャンネルは、周波数が合わないため、うまく受信できません。これは、テレビ音声が50kHz間隔のためで、故障ではありません。

■放送局を記憶させてあるときはプリセット番号で放送局を選ぶことができます(プリセット選局)

リモコン :チューナープリセットアップまたはチューナープリセットダウンを押します。

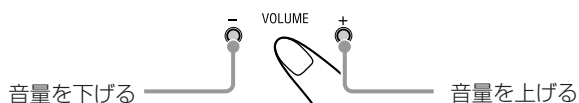
センターユニット: 1 ■(停止)を押して表示窓に「PRESET」と表示させます。

- ▶▶Iまたは I◀◀でプリセット選局ができるようになります。
- もう一度■を押すと、「MANUAL」と表示され、ふたたび▶▶Iまたは I◀◀でオート選局/マニュアル選局ができるようになります。

2 ▶▶Iまたは I◀◀を押してプリセット番号を選びます。

- 放送局の記憶のしかたかたは、27 ページをご覧ください。

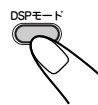
4 音量を調節する

リモコン :オーディオ音量+/ーを押します。

センターユニット:VOLUME+/ーを押します。

音量レベルは、VOLUME MIN(消音)、01～69、MAX(最大)までの範囲で調節できます。

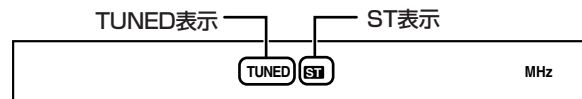
5 DSPモードを使う

FM放送やAM放送を聞いているときに、DSPモードをお楽しみいただけます。

リモコンの**DSPモード**またはセンターユニットの**DSP**を押します。

リモコン **センターユニット**

- 詳しくは、「DSPモードを楽しむ」(➡ 31 ページ)をご覧ください。

受信表示とFM放送の受信モード

放送を受信すると
放送を受信するとTUNED表示が点灯します。FMステレオ放送を受信するとST(Stereo)表示も点灯します(オートステレオモード)。

FM放送の受信モード
FM放送がうまく受信できないときや、雑音がおおいときなどにリモコンの**音声/FMモード**またはセンターユニットの**AUDIO/FM MODE**を押します。
音声はモノラルになりますが、雑音が消え放送がよく聞こえるようになります。(強制モノラルモード;ST表示が表示窓から消えます)

- 押すごとに、FM放送の受信モードが「オートステレオ」と「強制モノラル」に切り替わります。

リモコン **センターユニット**

電源を切るには

もう一度、リモコンの ⏻/I **オーディオ**または
センターユニットの ⏻/I **STANDBY/ON**を押します。

センターユニットのSTANDBYランプが赤く点灯して、イルミネーションランプが消えます。

他のAV機器からの音声を聞く

(ふたを開けたところ)

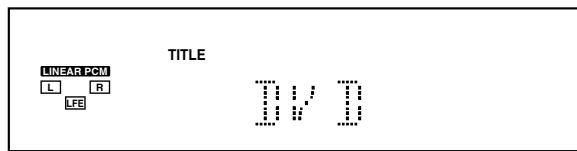
1 本システムの電源を入れる

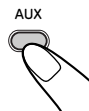
リモコン　：⏻/I オーディオを押します。
押すごとに電源が「入」⟷「切」します。

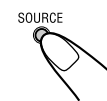
センターユニット：⏻/I STANDBY/ONを押します。
押すごとに電源が「入」⟷「切」します。

センターユニットのSTANDBYランプが消え、イルミネーションランプが青く点灯します。
電源を切る前に聞いていたソース(音源)が選ばれ、内容がセンターユニットの表示窓に表示されます。

例:最後に「DVD」が選ばれていたとき

LINEAR PCM L R LFE TITLE DVD

2 外部接続したAV機器を選ぶ

リモコン　：AUXを押す。
押すごとに、「DIGITAL IN」と「ANALOG IN」が切り替わります。

センターユニット：SOURCEをくり返し押して、表示窓に「DIGITAL IN」または「ANALOG IN」を表示させます。

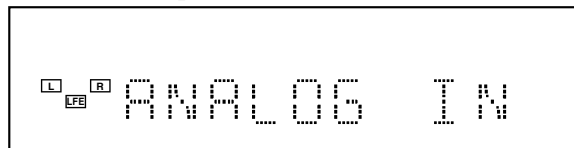
SOURCE

- DIGITAL IN：本システムのDIGITAL IN(OPTCAL)入力端子に接続した機器の音声を聞きたいとき。
- ANALOG IN：本システムのAUX IN入力端子に接続した機器の音声を聞きたいとき。

例:「ANALOG IN」を選んだとき

L R LFE ANALOG IN

ご注意

次のような操作をする前には、必ず音量を最小にしてください。音量を上げたまま操作すると、突然大きな音が出て聴力障害の原因となったり、スピーカーを破損したりすることがあります。

- 本システムや接続したAV機器の電源を「入」⟷「切」するとき
- 再生する機器を選ぶとき

3 外部接続のAV機器を操作する

外部接続のAV機器の電源を「入」にして、操作を始める

■**外部機器･･･DIGITAL IN(OPTICAL)端子またはAUX IN端子に接続した機器･･･を操作するには、**それぞれの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

■**本システムのリモコンで、ビデオデッキまたはテレビが操作できます。**
- 他メーカーのテレビを操作するには、あらかじめメーカー設定をしておきます。(➡ 66 ページ参照)
- 接続している機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

<u>ビデオデッキを操作するボタン</u>
ビデオデッキ操作ボタンは日本ビクター製のビデオデッキに限り操作できます。
- 日本ビクター製のビデオデッキには、「A」「B」2種類のリモコンコードを使えるものがあります。本機のリモコンを使って、ビデオデッキを操作するときは、ビデオデッキのリモコンコードを「A」に設定してください。

ビデオコントロール ONを押したあとで、次の操作ができます。

ビデオ⏻/I　:ビデオデッキの電源を「入」⟷「切」します。
►/II (再生/一時停止):再生を始めます。再生中に押すと一時停止します。(このボタンで一時停止しないときは、**静止画**で操作してください)
I◄◄ 早戻し　:テープを巻き戻します。
►►I 早送り　:テープを早送りします。
■ (停止)　:録画･再生を停止します。
静止画　:再生を一時停止します。
ビデオチャンネル ＋、−
:ビデオデッキの受信チャンネルを変更します。
1〜9、0　:ビデオデッキの受信チャンネルを選びます。

番号の選びかた
1〜9を選ぶとき:**1〜9**のいずれかの数字ボタンを押します。
例: 5を選ぶときは、**5**を押します。
10〜12を選ぶとき:2ケタの数字を入力します。
例:12を選ぶときは、**1** ➡ **2**と押します。

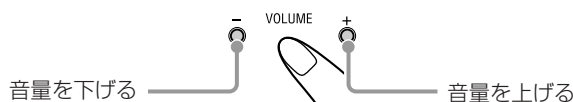
ご注意
ビデオデッキの操作を終了した後は、必ず**ビデオコントロール OFF**を押してください。リモコンで本システムをふたたび操作できるようになります。

<u>テレビを操作するボタン</u>

TV ⏻/I　:テレビの電源を「入」⟷「切」します。
TV音量 ＋、−　:テレビの音量を調節します。
TVチャンネル ＋、−:テレビの受信チャンネルを変更します。
テレビ/ビデオ　:テレビの外部入力を切り替えます。

4 音量を調節する

リモコン　　:オーディオ音量＋/−を押します。

センターユニット:VOLUME(ボリューム)＋/−を押します。

音量レベルは、VOLUME MIN(消音)、01〜69、MAX(最大)までの範囲で調節できます。

5 サラウンドやDSPモードを使う

再生するディスクによって、異なったサラウンドやDSPモードをお楽しみいただけます。
- DIGITAL IN(OPTICAL)端子からAACサラウンド信号が入ってくると、マルチチャンネルサラウンドが自動的に「入」になります。

■ **ドルビーサラウンドを使うには**
リモコンの**PRO(プロ) LOGIC(ロジック)**を押します。

リモコン

■**お好きなDSPモードを選ぶには**
リモコンの**DSPモード**またはセンターユニットの**DSP**を押します。

リモコン　**センターユニット**

- 詳しくは、「ドルビーサラウンドを楽しむ」(➡ 31 ページ)または「DSPモードを楽しむ」(➡ 31 ページ)をご覧ください。

電源を切るには
もう一度、リモコンの ⏻/I **オーディオ**または
センターユニットの ⏻/I **STANDBY(スタンバイ)/ON(オン)**を押します。

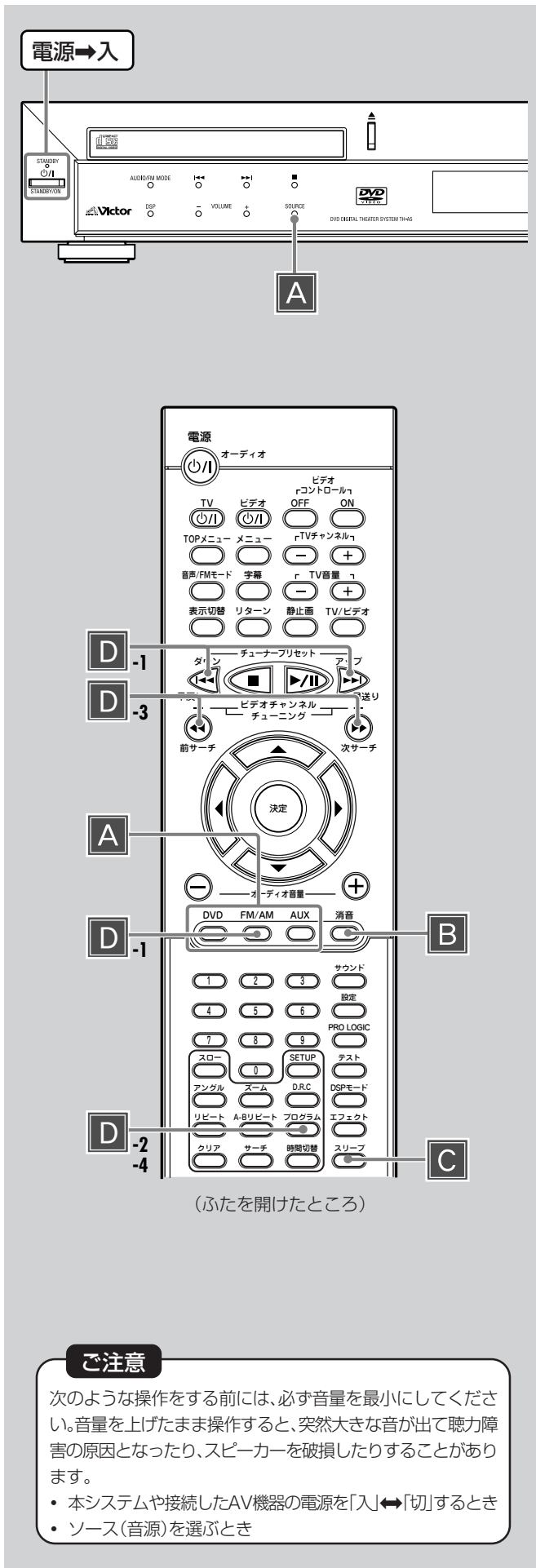
センターユニットのSTANDBYランプが赤く点灯して、イルミネーションランプが消えます。
- 外部接続のAV機器の電源も忘れずに切ってください。

ふだん使う便利な操作

（ふたを開けたところ）

ご注意

次のような操作をする前には、必ず音量を最小にしてください。音量を上げたまま操作すると、突然大きな音が出て聴力障害の原因となったり、スピーカーを破損したりすることがあります。

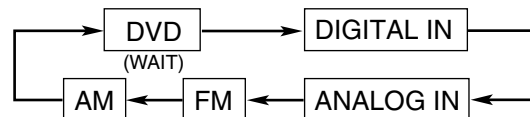
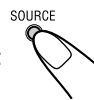
- 本システムや接続したAV機器の電源を「入」⟷「切」するとき
- ソース（音源）を選ぶとき

ソース（音源）を選ぶ　A

他のソース（音源）を再生中、または停止中にソース（音源）を切り替えます。

リモコン　：ソース選択ボタン（DVD、FM/AM、AUX）を押す。
電源が「入」になります。

- DVD　：本システムでDVD、CD、ビデオCDなどのディスクを再生するときに押します。（ディスクを検出中は「WAIT（ウェイト）」と表示されます）
- FM/AM：ラジオのFM放送やAM放送を聞きたいときに選びます。押すごとに、FM放送とAM放送が交互に切り替わります。
- AUX（エーユーエックス）：本システムのDIGITAL IN（デジタル イン）（OPTICAL（オプティカル））端子またはAUX IN（イン）端子に接続した機器の音声を聞きたいときに選びます。押すごとに、「DIGITAL IN」と「ANALOG IN（アナログ）」が交互に切り替わります。

センターユニット：SOURCE（ソース）を押します。
押すごとに、ソース（音源）が次のように切り替わります。

SOURCE

- DVD　：本システムでDVD、CD、ビデオCDなどのディスクを再生するときに選びます。
- DIGITAL IN（デジタル イン）：本システムのDIGITAL IN（OPTICAL）端子に接続した機器の音声を聞きたいときに選びます。
- ANALOG IN（アナログ イン）：本システムのAUX IN端子に接続した機器の音声を聞きたいときに選びます。
- FM　：ラジオのFM放送を聞きたいときに選びます。
- AM　：ラジオのAM放送を聞きたいときに選びます。

例：FM放送を選んだとき

TUNED ST　MHz
FM　81.30

お知らせ

- ⏏（オープン/クローズ）を押すと、ソース（音源）は「DVDプレーヤー」に切り替わります。

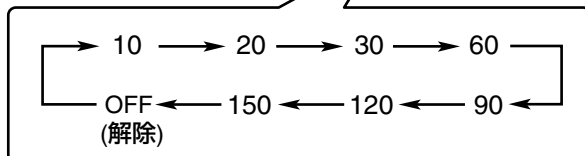
一時的に音を消す B

電話がかかってきたときなど、音を一時的に出なくするときに便利です。

リモコンの消音(ミューティング)を押します。
表示窓に「MUTING」と点滅し、スピーカーからの音が聞こえなくなります。
もう一度押すと、元の音量に戻ります。

おやすみタイマーを使う C

おやすみタイマーを使うと、設定した時間に本システムの電源が自動的に「切」になります。音楽を聞きながら眠りたい、そんなときにお使いください。

リモコンのスリープを押して電源が「切」になるまでの時間を設定する。
ボタンを押すごとに、設定時間(分)が、次のように切り替わります。

設定した時間を経過すると、自動的に電源が「切」になります。

電源が「切」になるまでの時間を確かめたり、設定時間を変えるには

おやすみタイマーを設定後に**スリープ**を1回押すと、残り時間が表示されます。
設定時間を変更するときは、**スリープ**を押して希望の時間を選び直します。

おやすみタイマーを解除するには

スリープを押して「OFF」を表示させます。
おやすみタイマーが解除されます。

- リモコンまたはセンターユニットを使って電源を「切」にしたときも、おやすみタイマーは解除されます。

放送局を記憶させる D

一度記憶させておくと、次からは簡単に放送局を選ぶことができます。**FM放送を20局、AM放送を10局まで記憶できます。**

- リモコンで操作します。

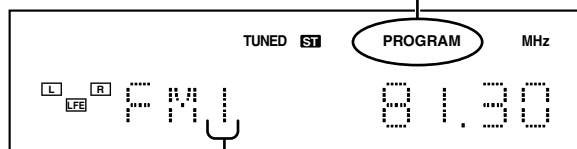
1 記憶させたい放送局を選ぶ(➡ 22ページ参照)

2 プログラムを押す

表示窓にプリセット番号が表示されます。

プログラム

PROGRAM表示が点灯します。

TUNED ST PROGRAM MHz
FM1 81.30

プリセット番号

3 チューナープリセットアップまたはダウン押してプリセット番号を選ぶ

押すごとに、表示窓のプリセット番号が変わります。

4 もう一度、プログラムを押す

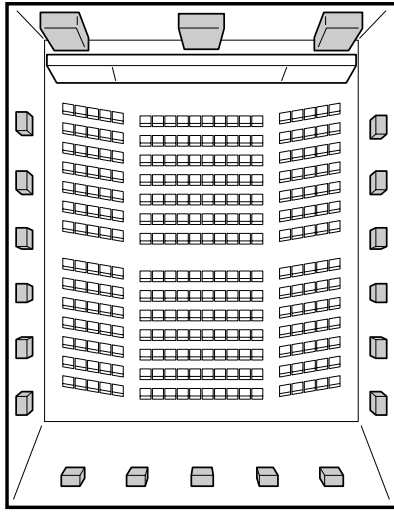
表示窓のPROGRAM表示が消え、手順1で選んだ放送局が、手順**3**で選んだプリセット番号に記憶されます。

5 手順1から手順4をくり返し、他の放送局を記憶させる

- 記憶させた放送局を消去するには、そのプリセット番号に新しい放送局を記憶させ、上書きで修正します。

ご注意

- 記憶させた放送局は、電源コードを抜いた状態(または停電)が数日間以上続くと取り消されます。

サラウンドを使う

本システムに内蔵のDSP(デジタル・シグナル・プロセッサー)により、サラウンド(マルチチャンネルサラウンド、ドルビーサラウンド)とDSP(ディーエスピー)の音響効果をお楽しみいただけます。

サラウンドとは

映画館には、計算された効果音で臨場感を再現するために、壁に多くのスピーカーを配置しています。あらゆる方向から音声が聞こえてくるように設計されています。**(図A)**
多くのスピーカーが客席を包みこむように配置することによって、音の定位感と躍動感を飛躍的に高めるためです。

本システムは、5つのスピーカーとサブウーハーを使うことで、映画館そのままの臨場感をご家庭で再現することを可能にしました。**(図B)**

本システムは、次のマルチチャンネルサラウンド(ドルビーデジタル5.1ch、DTSデジタルサラウンド、AACサラウンド)とドルビーサラウンドをお楽しみいただけます。

■ ドルビーデジタル *1

DVDに使われているマルチチャンネル対応の音声圧縮方式のひとつです(このようなソフトには DOLBY DIGITAL マークが記載されます)。ドルビーデジタル5.1chの場合、フロント左右、センター、リア左右、サブウーハーの5.1ch(サブウーハーは0.1chと数えます)の各チャンネルを完全に独立した音声として再生するので、チャンネル間の干渉も少なく、より優れた音質でより立体的なサラウンドが再現できます。

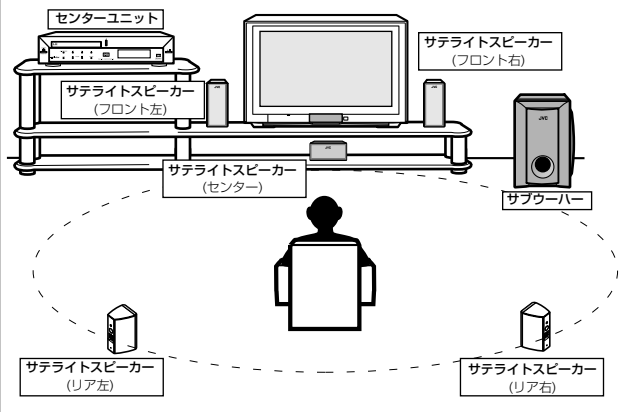
本システムにはドルビーデジタルデコーダーが内蔵されていますので、映画館や劇場に匹敵するドルビーデジタルの臨場感がお楽しみいただけます。また、ドルビーサラウンド(➡ 29 ページ)ではサラウンドスピーカーの高音域は7kHzでカットされますが、ドルビーデジタルでは20kHzまで再生され、しかもステレオなので音の移動感や臨場感がより高まります。

- ドルビーデジタル信号が検出されると、表示窓のDDIGITAL表示が点灯します。

■ DTSデジタルサラウンド *2

DTSデジタルサラウンドは、CD、LD、DVDなどに使われています(このようなソフトには dts マークが記載されています)。
ドルビーデジタル同様5.1chのデジタル音声フォーマットですが、音声圧縮率を低く設定してあるため、厚みのある、より高音質な再生が可能となります。

本機にはDTSサラウンドデコーダーが内蔵されていますので、DTSデジタルサラウンドの映像ソフトが再生できます。

- DTS信号が検出されると、表示窓に dts 表示が点灯します。

■ **AAC(Advanced Audio Coding)サラウンド**

MPEG-2オーディオの標準方式のひとつで、BSデジタル放送で採用されている音声符合化規格です。
低ビットレートで高音質を確保できる点が特長で、番組内容により5.1chのマルチチャンネル設定が可能なフォーマットです。

- AACサラウンドの音声を聞くには、お使いになる機器を本機背面のDIGITAL IN(OPTICAL)音声入力端子につないでください。
- MPEG-2 AAC信号が検出されると、表示窓に MPEG-2 AAC 表示が点灯します。

米国パテントナンバー

5,297,236	5,481,614	5,490,170	5848391
4,914,701	5,592,584	5,291,557	5,235,671
5,781,888	5,451,954	07/640,550	08/039,478
5 400 433	5,579,430	08/211,548	5,222,189
08/678,666	5,703,999	5,357,594	98/03037
08/557,046	5 752 225	97/02875	08/894,844
5,394,473	97/02874	5,583,962	98/03036
5,274,740	5,227,788	5,633,981	5,285,498

■ **ドルビーサラウンド *3 (PRO LOGIC、3 STEREO)**

左右フロント、センター、サラウンド(モノラル)の4ch音声を2chに記録しています(このようなソフトには DOLBY SURROUND マークが記載されています)。
本機にはドルビープロロジックデコーダーが内蔵されています。AUX IN(エーユーエックス イン)端子から入力されるドルビーサラウンド方式で記録された2ch音声から、4ch音声をマトリクス回路で取り出し再生します。これにより、立体感･包囲感のあるサラウンドがお楽しみいただけます。
AUX IN端子に接続した外部機器の音声(AUX)をお楽しみのときにお使いください。

- ドルビープロロジックデコーダーが働いていると、表示窓に PRO LOGIC表示が点灯します。

お知らせ

本機がデジタルマルチチャンネルサラウンド信号を検出したときは、自動的に次のサラウンドが「入」になります。

- ドルビーデジタル
- DTSデジタルサラウンド
- AACサラウンド

DSPとは

コンサートホールやライブハウスなどで聞く音は、音源から直接耳に届く音(**直接音**)と天井や壁などに反射してから耳に届く音(**初期反射音**)、そして、何回も反射を繰り返してから耳に届く音(**残響音**)によって構成されています。これらの反射音/残響音は、リスナーと天井、壁の距離によって様々な遅延時間をもった音となり、コンサートなどでは、直接音とこれらの反射音/残響音によって、音場が作り出されています。

本システムに搭載されているDSPモードは、これらの反射音や残響音をデジタル信号処理により創り出しコンサートホールやライブハウスなどの臨場感を再現します。

- DSPモードを選んでいるときは、効果の度合いが調節できます(➡ 31 ページ)。また、お好みに応じて、DSPのパラメーター(音響要素)を変更することもできます(➡ 58 59 ページ)。

本システムでは次のDSPモードを用意しています。

- HALL(ホール) : ボーカルがはっきりします。コンサートホールにいるような雰囲気です。
- THEATER(シアター) : 比較的大きな劇場にいるような雰囲気です。
- PAVILION(パビリオン) : 天井の高い展示会場にいるような雰囲気です。
- DANCE CLUB(ダンス クラブ) : 激しい低音のビートを刻みます。ディスコにいるような雰囲気です。
- LIVE CLUB(ライブ クラブ) : 天井の低いライブハウスにいるような雰囲気です。

お知らせ

サラウンドやDSPモードをお使いになるときは、以下の項目をあらかじめ正しく設定しておいてください。

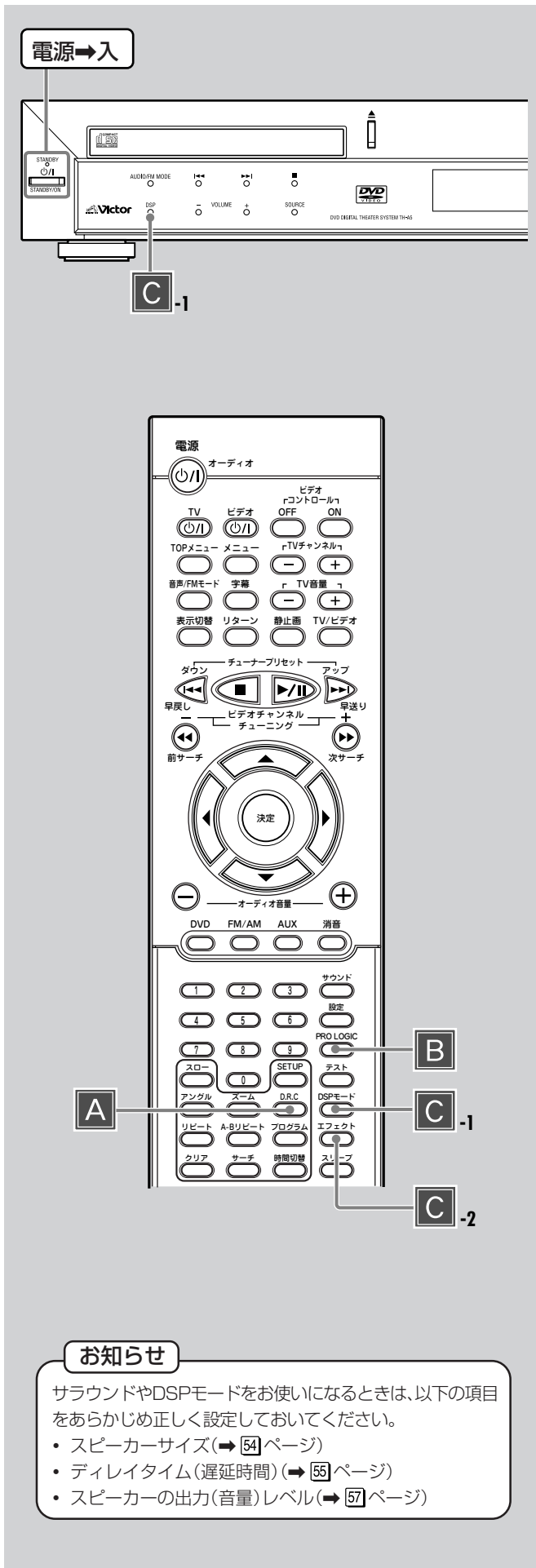
- スピーカーサイズ(➡ 54 ページ)
- ディレイタイム(遅延時間)(➡ 55 ページ)
- スピーカーの出力(音量)レベル(➡ 57 ページ)

*1、*3 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー及びダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

*2 本機はデジタルシアターシステムズ社からの実施権に基づき製造されています。DTSおよびDTS Digital Surround、DTSデジタルサラウンドは、デジタルシアターシステムズ社の商標です。著作権1996 年デジタルシアターシステムズ社。不許複製。

お知らせ

サラウンドやDSPモードをお使いになるときは、以下の項目をあらかじめ正しく設定しておいてください。

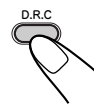
- スピーカーサイズ（➡ 54 ページ）
- ディレイタイム（遅延時間）（➡ 55 ページ）
- スピーカーの出力（音量）レベル（➡ 57 ページ）

マルチチャンネルサラウンドを楽しむ A

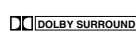
ドルビーデジタル音声やDTSサラウンド音声で記録されているDVDを再生するとき、または本機のDIGITAL IN (OPTICAL)音声入力端子につないだ機器からのAACサラウンドの音声を聞くときは、自動的にマルチチャンネルサラウンドが「入」になります。

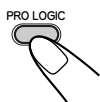
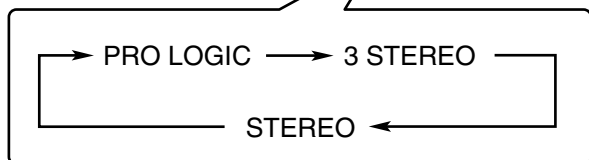
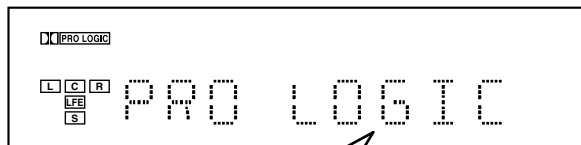
また、ドルビーデジタル音声で記録されているDVDを再生中は、ダイナミックレンジ（音楽や音声の最大から最小までの音の大きさの差）が調節できます。夜間にサラウンドをお楽しみいただくときにお使いください。

- リモコンで操作します。

1 リモコンのD.R.C（Dynamic Range Compression）を押す

押すごとに、次のように設定が変わります。

- D.R.C ON　：ダイナミックレンジを圧縮したいときに選びます。（夜間など）
- D.R.C OFF　：そのままのダイナミックレンジで音声を楽しみたいときに選びます。

- **ドルビーデジタル音声以外の音声には使えません。**

ドルビーサラウンドを楽しむ B

DOLBY SURROUNDマークのついた映画や音楽ソフトを再生するときに使います。
AUX IN端子に接続した外部機器からの音声に対して有効です。
「PRO LOGIC」または「3 STEREO」のどちらかを選びます。(PRO LOGIC表示が点灯します。)

リモコン: **PRO LOGICを押す。**
押すごとに、サラウンドが次のように切り替わります。

- **PRO LOGIC**：通常はこの設定でお楽しみください。
- **3 STEREO**：リアスピーカーをお使いにならないときに選びます。リアの音声はフロント左右のスピーカーにミックスされて聞こえます。
- **STEREO**：通常のステレオ再生です。サラウンドは解除されます。

お知らせ

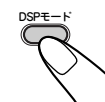
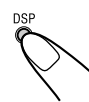
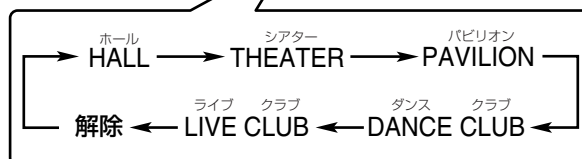
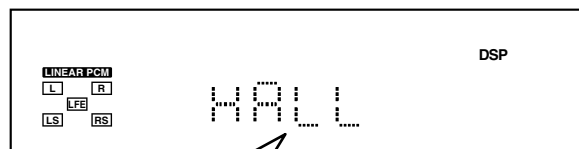
- ドルビープロロジックデコーダーは、通常のステレオ音声(リニアPCMまたはアナログ音声)のソフトやFM/AM放送に対しても機能します。ただし、このときは十分なサラウンドの効果は得られません。

DSPモードを楽しむ C

リニアPCMまたはアナログのステレオ音声のソース(音源)をお聞きのときにお使いください。

- スピーカーの設定により、フロントスピーカーのみ、またはフロントスピーカーとリアースピーカーから音が聞こえてきます。
- それぞれのソース(音源)に対して、ことなったDSPモードを記憶します。(FM/AMに対しては、同じDSPモードを記憶します。)

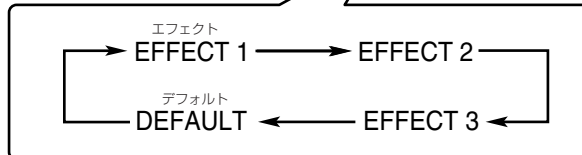
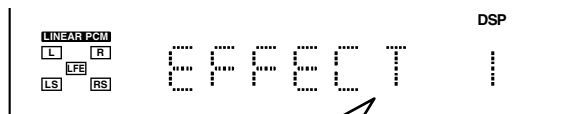
1 リモコンのDSPモードまたはセンターユニットのDSPを押す

押すごとに、DSPモードが、次のように切り替わります。
いずれかのDSPモードが選ばれているときは、表示窓のDSP表示が点灯します。

- 各DSPモードについては、29ページをご覧ください。

2 エフェクトを押して、効果の強弱を選ぶ

押すごとに、次のように設定が変わります。 エフェクト

LINEAR PCM　DSP
EFFECT 1

EFFECT 1 → EFFECT 2 → EFFECT 3 → DEFAULT

- 数字が大きくなるにしたがって、効果が強くなります。
- 「DEFAULT」を選ぶと、DSPのパラメーター(音響要素)はお買い上げ時の設定に戻ります(➡ 58 59 ページ)。

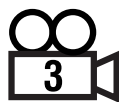
お知らせ

- DSPモードを選んでいるときは、お好みに応じて、DSPのパラメーター(音響要素)を変更することもできます(➡ 58 59 ページ)。

DVDの便利な操作

DVDソフトの中には、複数の音声が収録されたものや、字幕が表示されるもの、複数のカメラを使って異なる角度から撮影した映像(マルチアングル)が複数収録されたものなどがあります。
このようなディスクパッケージには以下のようなマークが入っています。

:複数の音声(例:日本語、英語など)が収録されています。マーク中の数字は、収録されている音声言語の数を示しています。
このようなDVDソフトを再生中は、「音声言語」を切り替えることができます。(➡ 33 ページ)

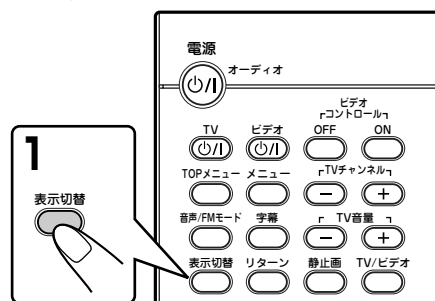
:複数の字幕(例:日本語、英語など)が収録されています。マーク中の数字は、収録されている字幕の数を示しています。
このようなDVDソフトを再生中は、「字幕」を切り替えることができます。(➡ 34 ページ)

:マルチアングルで収録されています。マーク中の数字は、収録されているマルチアングル映像の数を示しています。
このようなDVDソフトを再生中は、「マルチアングル映像」を切り替えることができます。(➡ 34 ページ)

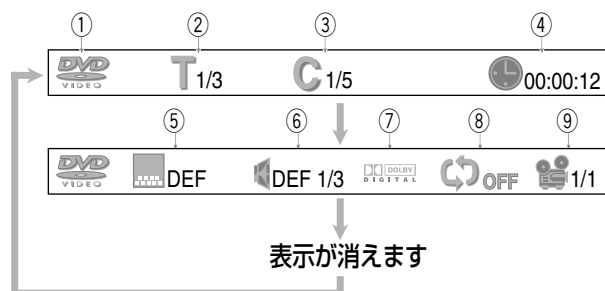
お知らせ

操作中にテレビ画面に「⊘」が表示されたら…
その操作は無効です。以下のような理由が考えられます。
- ディスクにその操作に必要とされる情報が収録されていない。
  例: メニューを押しても、ディスクメニューが出てこない
  ➡ディスクメニューが収録されていない。
- ディスク上のプログラムで、その操作を禁止している。
  例: ディスクによって早送り、早戻し、スローモーション再生などの操作が禁止されている。
- 再生中や一時停止中は、その操作を禁止している。

ディスクの入れかた·取り出しかた、再生·停止のしかたなどの操作方法については、「DVDなどのディスクを見る·聞く」(➡ 20 ページ)をご覧ください。

ディスクの情報をテレビ画面に出す [表示切替]

ディスクの再生中に、そのディスクに収録されているタイトル数、チャプター数、音声言語など、色々な情報を確認することができます。
- リモコンで操作します。

1 再生中に、表示切替を押す

テレビ画面にディスク内容表示バーが出てきます。
押すごとに、表示される内容が次のように変わります。

① :**ディスクの種類**—DVD、ビデオCD、CD、MP3

② :**現在再生中のタイトルとディスクの総タイトル数**
例:3つ収録されているタイトルの最初のタイトルを再生中のとき

③ :**現在再生中のチャプターとディスクの総チャプター数**
例:5つ収録されているチャプターの最初のチャプターを再生中

④ :**現在再生中のタイトルとチャプターの経過時間と残り時間**(➡ 33 ページ)

⑤ :**字幕の数**(➡ 34 ページ)
例:字幕は収録されていません。「DEF」は初期設定を意味します。

⑥ :**音声言語の数**(➡ 33 ページ)
例:3つ収録されている音声言語のひとつめの音声が選ばれています。「DEF」は初期設定を意味します。

⑦ :**音声録音方式の種類**—ドルビーデジタル、DTS、リニアPCM
例:ドルビーデジタルのディスクを再生中のとき

⑧ :**リピート再生**
例:リピート再生が「切」のとき(➡ 48 ページ)

⑨ :**マルチアングル映像の数**(➡ 34 ページ)
例:マルチアングル映像は収録されていません。

残り時間を確認する [時間切替]

タイトルやチャプターの残り時間を表示させることができます。
通常は、テレビ画面のディスク内容表示バーにはタイトルの経過時間(TITLE TIME)が表示されています。

• リモコンで操作します。

(ふたを開けたところ)

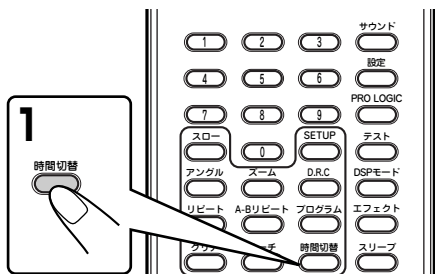
1 再生中に、時間切替を押す

テレビ画面にディスク内容表示バーが表示されます。
押すごとに、ディスク内容表示バーの時間表示が次のように変わります。

• REMAIN TIME:TITLE : 現在のタイトルの残り時間
• CHAPTER TIME : 現在のチャプターの経過時間
• REMAIN TIME:CHAPTER : 現在のチャプターの残り時間
• TITLE TIME : 現在のタイトルの経過時間(通常の表示)

しばらくすると、ディスク内容表示バーは自動的に消えます。

お知らせ

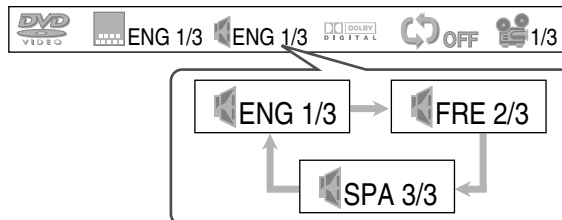
• ディスク内容表示バーをテレビ画面に表示したときは、現在選ばれている時間表示(タイトルまたはチャプターの経過時間や残り時間)が表示されます。

音声を選ぶ [音声言語]

外国映画のソフトなど、複数の音声が収録されたものがあり、音声を選ぶことができます。

• リモコンで操作します。

1 再生中に、音声/FMモードを押す

テレビ画面にディスク内容表示バーが表示されます。
押すごとに、音声言語が変わります。

例: 3つの音声言語がディスクに収録されているとき

しばらくすると、ディスク内容表示バーは自動的に消えます。

センターユニットの**AUDIO/FM MODE**でも操作できます。

お知らせ

• カラオケディスクではオーディオ再生チャンネルを切り換えて、カラオケの歌あり/なしなどを選ぶことができます。
• 初期設定メニューで、日本語や英語などの音声でディスク再生が始まるように設定しておくこともできます。(➡ 60 ページ)

字幕を選ぶ ［字幕言語］

外国映画のソフトなど、字幕が表示されるものがあり、字幕の種類（または字幕なし）を選ぶことができます。

- リモコンで操作します。

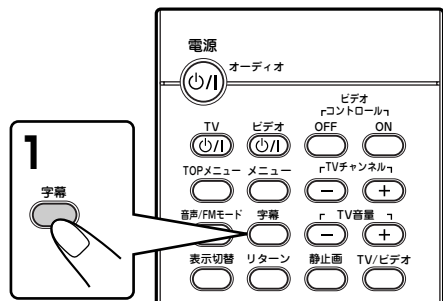
1 再生中に、字幕を押す

テレビ画面にディスク内容表示バーが表示されます。
押すごとに、字幕言語が変わります。

例: 3つの字幕言語と「字幕なし」が収録されているとき

しばらくすると、ディスク内容表示バーは自動的に消えます。

お知らせ

- 初期設定メニューで、日本語や英語などの字幕でディスク再生が始まるように設定しておくこともできます。（➡ 60 ページ）

映像のアングルを変える ［アングル］

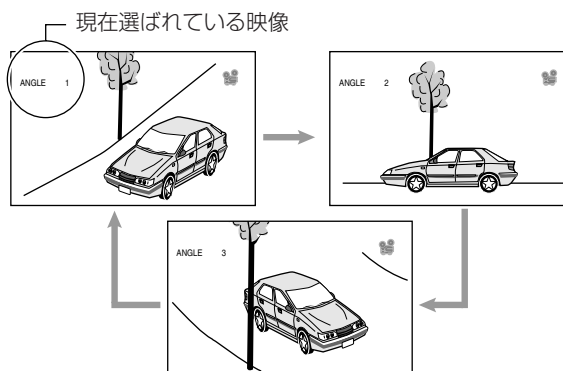
音楽ライブソフトなどには、複数のカメラを使って異なる角度から撮影した映像（マルチアングル）が複数収録されたものがあります。このようなディスクを再生するときには、どの角度からの映像を見るか選ぶことができます。（ マークがテレビ画面に表示されます）

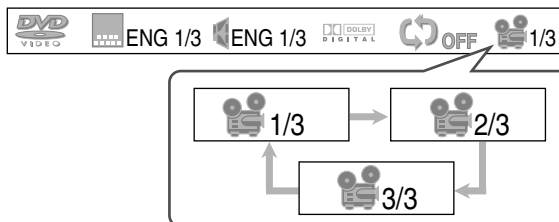
- リモコンで操作します。

（ふたを開けたところ）

1 再生中に、アングルを押す

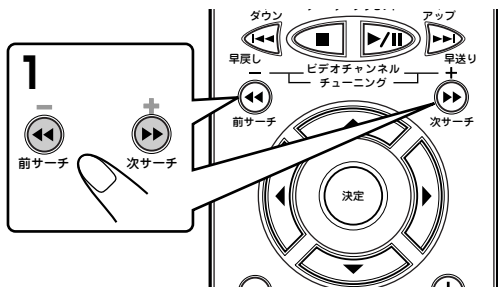
押すごとに、マルチアングルの映像が変わります。

例: 3つのマルチアングル映像が収録されているとき

ディスク内容表示バーが表示されているときは

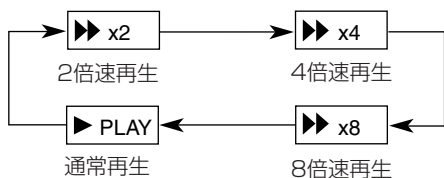
次のように表示バー上の表示が変わります。

見たい映像を選ぶ・探す

映像を見ながら探す

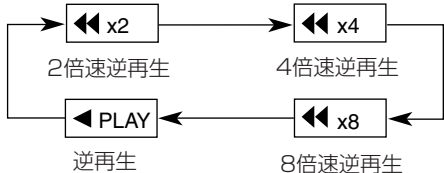
再生する速度を変えて、見たい場面へ素早く移動することができます（可変速再生）。

• リモコンで操作します。

■可変速再生で先の映像へ進む

1　再生中に、▶▶（次サーチ）を押す

押すごとに、再生速度が次のように変わります。

■可変速再生で前の映像へ戻る

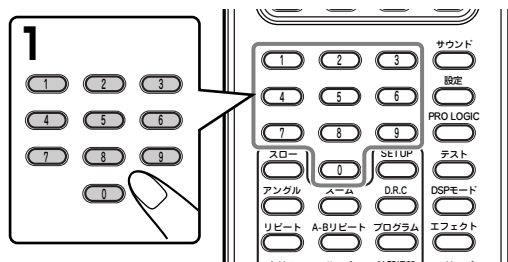
1　再生中に、◀◀（前サーチ）を押す

押すごとに、再生速度が次のように変わります。

通常の再生（正方向）に戻すには

▶/II（再生/一時停止）を押します。

ワンタッチでタイトルを選ぶ

タイトルの頭出しが簡単にできます。

• リモコンで操作します。

（ふたを開けたところ）

1　再生中または停止中に、数字ボタンを押してタイトル番号を選ぶ

選んだタイトルから再生されます。

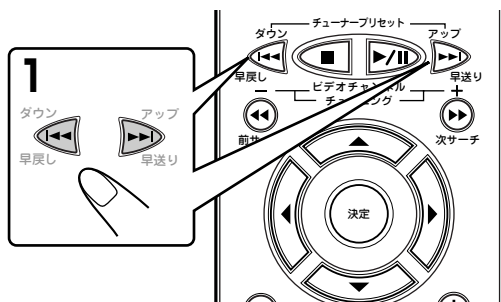
タイトル番号を指定するには

• 1ケタの番号を指定するには：**1**〜**9**を押します。その後、しばらく待つか、**決定**を押します。

• 2ケタの番号を指定するには：十の位の数字を押してから、一の位の数字を押します。

例：11番を選ぶとき、**1➡1**と押します。
　　20番を選ぶとき、**2➡0**と押します。

ワンタッチでチャプターを選ぶ

1　再生中に、▶▶I（早送り）または I◀◀（早戻し）を押す

• ▶▶I（早送り）：次のチャプターの頭出しができます。くり返し押すと、さらに先のチャプターの頭出しができます。

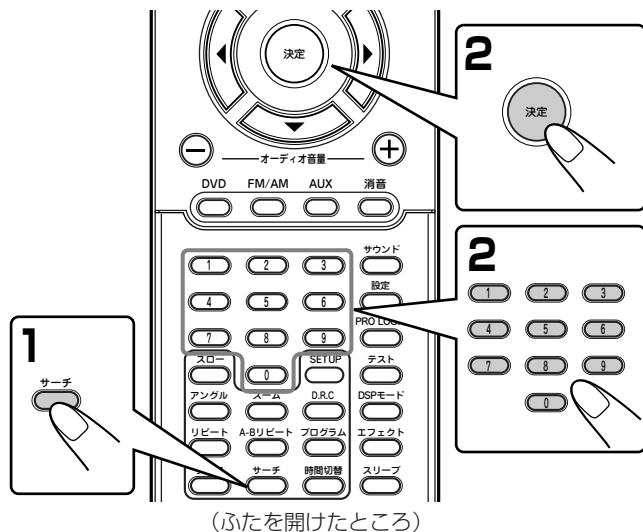
• I◀◀（早戻し）：前のチャプターの頭出しができます。くり返し押すと、ひとつずつ前のチャプターに戻ります。

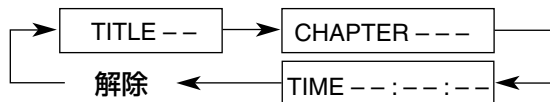
センターユニットの▶▶IまたはI◀◀でも操作できます。

見たい映像を選ぶ・探す（つづき）

時間を指定して選ぶ ［サーチ］

リモコンで操作します。

（ふたを開けたところ）

1 再生中に、サーチを押す

押すごとに、次のサーチができるようになります。

- TITLE（タイトル） ：タイトル番号を指定します。
- CHAPTER（チャプター） ：チャプター番号を指定します。
- TIME（タイム） ：現在のタイトルの経過時間を指定します。

2 数字ボタンを押して番号や経過時間を指定し、決定を押す

指定したタイトル、チャプター、または経過時間の場面から再生されます。

タイトル番号やチャプター番号を指定するには

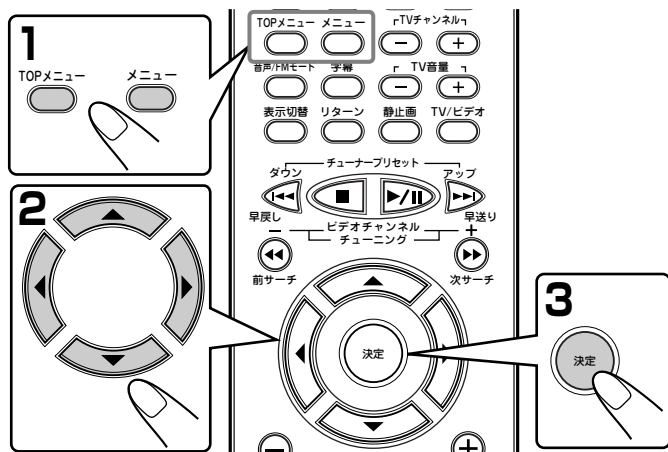
- 1ケタの番号を指定するには
  ：**1**～**9**を押します。その後、しばらく待つか、**決定**を押します。
- 2ケタの番号を指定するには
  ：十の位の数字を押してから、一の位の数字を押します。
  例：11番を選ぶとき、**1➡1**と押します。
  20番を選ぶとき、**2➡0**と押します。

経過時間を指定するには

- 「00:45:23」(45分23秒)を指定するには
  ：**4➡5➡2➡3➡決定**の順に押します。
- 「01:23:05」(1時間23分05秒)を指定するには
  ：**1➡2➡3➡0➡5➡決定**の順に押します。
- 数字を押し間違えたときは、**クリア**を押します。押すごとに最後に押した番号から消えていきます。

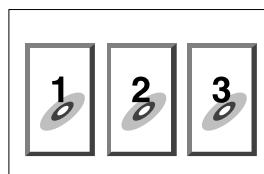
ディスクメニューで選ぶ ［メニュー/TOPメニュー］

DVDには、通常メニュー画面が収録されています。
メニューの内容はさまざまで、映画のタイトルや曲目、またはアーティスト情報が表示されたりします。このメニュー画面から見たいところを選ぶことができます。

- リモコンで操作します。

1 再生中に、メニューまたはTOPメニューを押す

ディスクに収録されているメニューが、テレビ画面に表示されます。表示窓に「MENU（メニュー）」と表示されます。

- ディスクによっては、ボタンを押さなくても自動的に出てきます。

例：

2 カーソルボタン(◀/▶/▲/▼)を押して見たい項目を選ぶ

3 決定を押す

選んだ項目から再生されます。

- メニュー画面によっては、数字ボタンでも選ぶことができます。

メニューボタンとTOPメニューボタンの使い分け

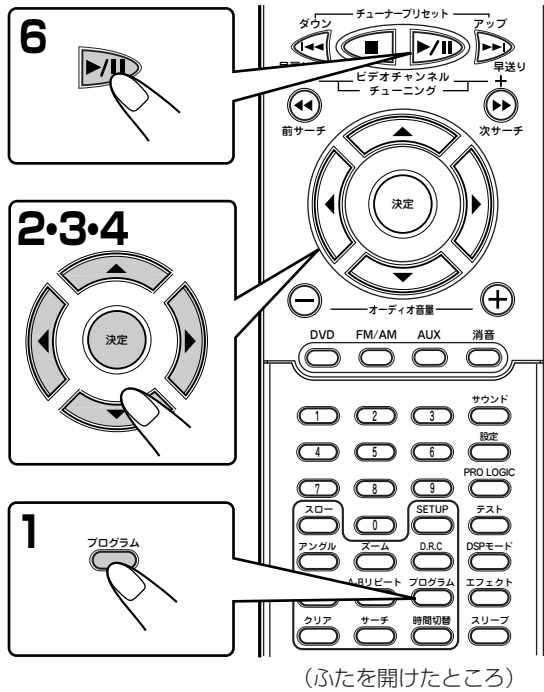
複数のタイトルが収録されているディスクは、タイトル名のリストが表示されるなど目次のような役割を持ったメニュー画面が収録されていることがあります。このようなときには、**TOPメニュー**を押します。
また、複数のタイトルが収録されていないディスクでも何らかのメニュー画面が収録されていることがあります。このようなときには、**メニュー**を押します。収録されているメニュー画面が表示されます。

- 各ディスクのメニュー構成については、ディスクの説明書をご覧ください。

順番を変えて再生する

プログラムを登録・再生する

[プログラム再生]

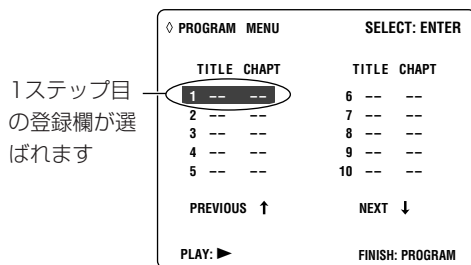
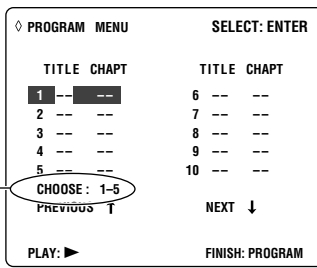
ディスクのチャプターを好きな順番で再生できます。20ステップまで登録できます。

- リモコンで操作します。

（ふたを開けたところ）

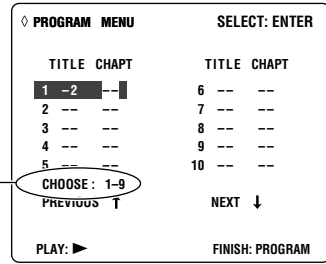
1 停止中または再生中に、プログラムを押す

テレビ画面にプログラムメニュー（PROGRAM MENU）が表示されます。

- センターユニットの表示窓に「PROGRAM（プログラム）」と表示され、同時にPROGRAM表示が点灯します。
- 再生中に押すと、停止状態になります。

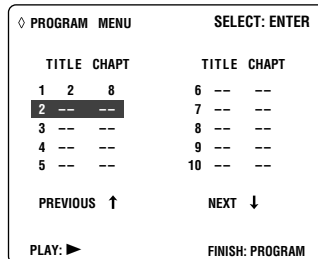
1ステップ目の登録欄が選ばれます

2 決定を押す

ディスクに収録されているタイトル番号が表示されます。
（例：ディスクに5つのタイトルが収録されているとき）

3 カーソルボタンの►（または◄）を押してタイトル番号を選び、決定を押す

選択中のタイトルに収録されているチャプター番号が表示されます。
（例：タイトルに9つのチャプターが収録されているとき）

数字ボタンでもタイトル番号が選べます

例：タイトル番号「5」を選ぶとき、**5 ➡ 決定**の順に押します。
タイトル番号「10」を選ぶとき、**1➡0➡決定**の順に押します。
タイトル番号「12」を選ぶとき、**1➡2➡決定**の順に押します。

4 カーソルボタンの►（または◄）を押してチャプター番号を選び、決定を押す

- タイトル内のすべてのチャプターを選ぶときは、チャプター番号を選ばずに、決定を押します。チャプター番号覧に「ALL」と表示されます。

5 手順3と手順4をくり返して、他のチャプターを選ぶ

- 10ステップ目を登録すると、「NEXT⬇（次⬇）」が自動的に選ばれます。
  10ステップ以上を登録したいときは**決定**を押します。プログラムメニューの2ページ目が表示されます。

6 ►/❚❚（再生/一時停止）を押す

プログラム再生が始まります。

- 最後まで再生すると自動停止します。

38ページへ続く

順番を変えて再生する（つづき）

途中でプログラム再生を停止するには

■(停止)または**プログラム**を押します。テレビ画面にプログラムメニューが表示されます。
- プログラムメニュー表示中に►/❚❚(再生/一時停止)を押すと、ふたたびプログラム再生が始まります。

プログラム再生をやめるには

プログラムメニュー表示中に**プログラム**を押します。
テレビ画面のプログラムメニューが消え、右のような画面が表示されます(プログラムは記憶されています)。
- 右の画面の表示中に►/❚❚(再生/一時停止)を押すと、通常の再生が始まります。

プログラムを取り消すには

▲(オープン/クローズ)を押して、ディスクを取り出します。
- 本システムの電源を「切」にしたり、ソース(音源)を変えたときもプログラムは取り消されます。

プログラムの内容を確認する

プログラムメニューをテレビ画面に表示させて、プログラムの内容を確認できます。
- リモコンで操作します。

(ふたを開けたところ)

1 停止中または再生中に、プログラムを押す

テレビ画面にプログラムメニュー(PROGRAM MENU)が表示されます。

もう一度**プログラム**を押すと、プログラムメニューは消えます。

プログラムの内容を変更する

プログラムメニューをテレビ画面に表示させて、プログラムの内容を変更できます。
- リモコンで操作します。

(ふたを開けたところ)

1 停止中または再生中に、プログラムを押す

テレビ画面にプログラムメニュー(PROGRAM MENU)が表示されます。
- 再生中に押すと、停止状態になります。

2 ステップを消去するには:

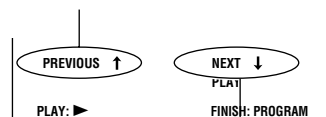
カーソルボタンの▼(または▲)を押して、ステップ番号を選び、**クリア**を押す。

ステップを変更するには:

カーソルボタンの▼(または▲)を押して、ステップ番号を選び、37ページの手順**2**から手順**4**を行い、新しいタイトル番号とチャプター番号を登録する。
- 新しい番号を入力する前に**クリア**を数回押して、以前の内容を消去してください。

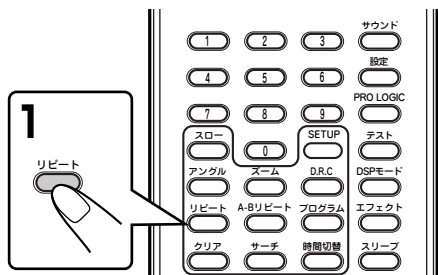
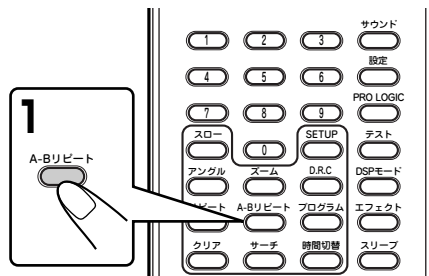
ステップを追加するには:

カーソルボタンの▼を押して、登録されていないステップ番号を選び、37ページの手順**2**から手順**4**を行い、新しいタイトル番号とチャプター番号を登録する。

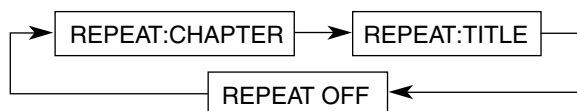
ステップ11からステップ10に移動するときは、カーソルボタンの▲を押して「PREVIOUS⬆(前⬆)」を選び、**決定**を押す。

ステップ10からステップ11に移動するときは、カーソルボタンの▼を押して「NEXT⬇(次⬇)」を選び、**決定**を押す。

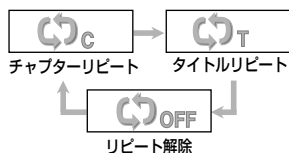
見たい映像をくり返す

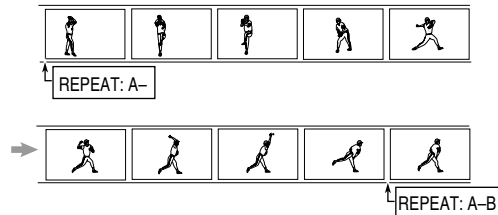
タイトルやチャプターをくり返す [リピート]

再生中のタイトルやチャプターをくり返し再生できます。
• リモコンで操作します。

（ふたを開けたところ）

1 再生中に、リピートを押す

押すごとに、リピートが次のように変わり、テレビ画面に表示されます。

• REPEAT:CHAPTER：現在のチャプターのくり返し再生（チャプターリピート）
• REPEAT:TITLE：現在のタイトルのくり返し再生（タイトルリピート）
• REPEAT OFF：くり返し（リピート）を解除

ディスク内容表示バーが表示されているときは
次のように表示バー上の表示が変わります。

お知らせ

• プログラム再生中は、タイトルリピートは選べません。

指定した範囲をくり返す [A-Bリピート]

再生中にくり返して見たい（聞きたい部分）をくり返し再生できます。語学の学習などに便利です。
• リモコンで操作します。

（ふたを開けたところ）

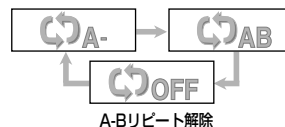
1 再生中に、くり返しを始めたい部分でA-Bリピートを押す

くり返したい部分の最初のところ(A)が、開始点として記憶されます。
• テレビ画面に「REPEAT: A-」と表示されます。

2 くり返したい部分の終わりで、もう一度A-Bリピートを押す

くり返す部分の最後のところ(B)が、終点として記憶されます。A-B間がくり返し再生されます。
• テレビ画面に「REPEAT: A-B」と表示されます。

A-Bリピートを解除するには
もう一度**A-Bリピート**を押します。
• テレビ画面に「REPEAT OFF」と表示され、通常の再生が始まります。

ディスク内容表示バーが表示されているときは
次のように表示バー上の表示が変わります。

お知らせ

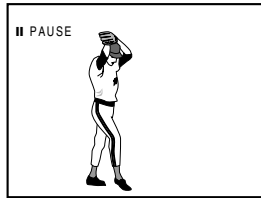
• 2つのタイトルにおよぶA-Bリピートはできません。
• 5秒より短い区間のA-Bリピートはできません。

DVDの特殊再生

静止画を再生する [静止画]

再生を一時停止して、静止画を再生できます。
• リモコンで操作します。

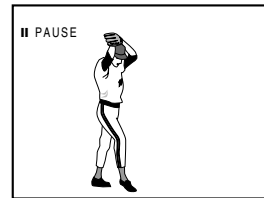
1 再生中に、静止画または►/❚❚を押す

映像が静止します。(音声も聞こえなくなります)

通常の再生に戻すには
►/❚❚(再生/一時停止)を押します。

コマ送りで再生する

静止中の映像をコマ送りで再生できます。
• リモコンで操作します。

1 再生中に、静止画を押す

映像が静止します。(音声も聞こえなくなります)

2 静止画をくり返し押す

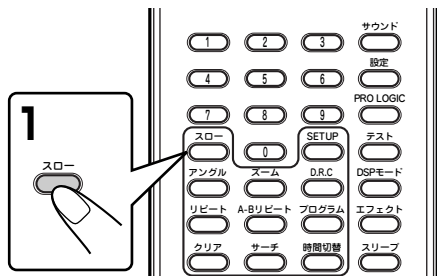
押すごとに、静止映像が次のフレームに進みます。

通常の再生に戻すには
►/❚❚(再生/一時停止)を押します。

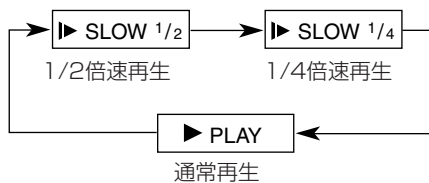
お知らせ

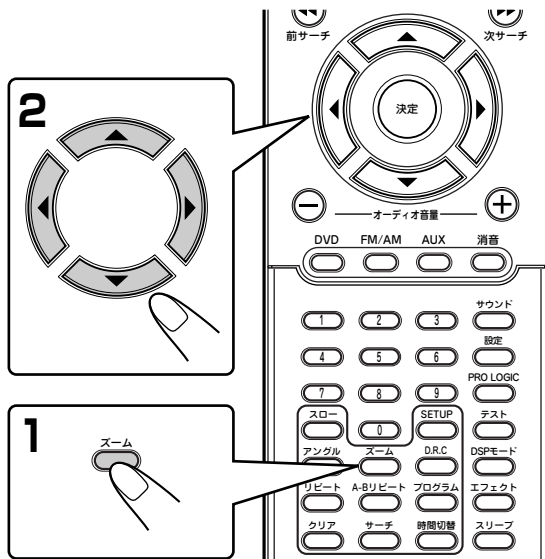
• ►►/❚❚(再生/一時停止)を押して一時停止したときは、コマ送り再生はできません。

スローモーションで再生する ［スロー］

スローモーションで、見たいシーンへ移動できます。
• リモコンで操作します。

（ふたを開けたところ）

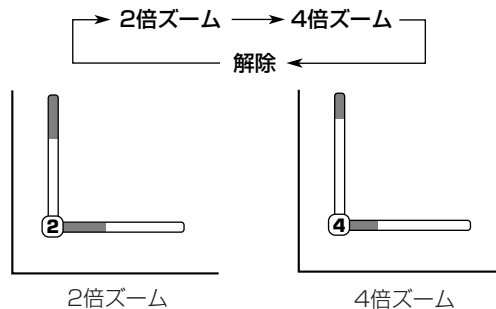
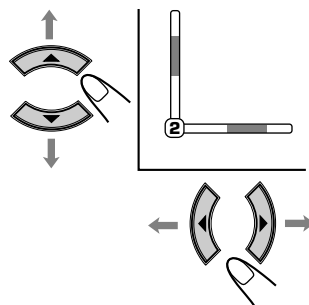
1 再生中または一時停止中に、スローを押す

押すごとに、再生速度が次のように変わります。

映像を拡大して見る ［ズーム］

映像の一部を拡大できます。
• リモコンで操作します。

（ふたを開けたところ）

1 再生中または一時停止中に、ズームを押す

映像が2倍に拡大されます。
押すごとに、次のように倍率が変わります。

2倍ズーム　　4倍ズーム

2 カーソルボタン（◄/►/▲/▼）を押して拡大したい部分を選ぶ

通常の画面サイズに戻すには
ズームをズーム機能が解除されるまでくり返し押します。

ビデオCDやCDの便利な操作

ディスクの入れかた・取り出しかた、再生・停止のしかたなどの操作方法については、「DVDなどのディスクを見る・聞く」(➡ 20 ページ)をご覧ください。

お知らせ

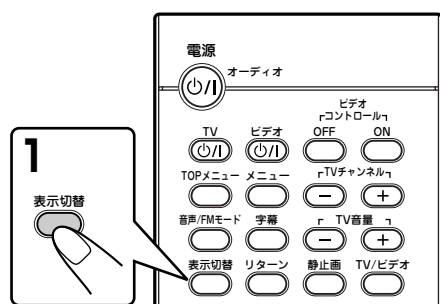
操作中にテレビ画面に「⊘」が表示されたら…
その操作は無効です。以下のような理由が考えられます。
- ディスクにその操作に必要とされる情報が収録されていない。
- ディスク上のプログラムで、その操作を禁止している。
  例: ディスクによって早送り、早戻し、スローモーション再生などの操作が禁止されている。
- 再生中や一時停止中は、その操作を禁止している。

ディスクの情報をテレビ画面に出す [表示切替]

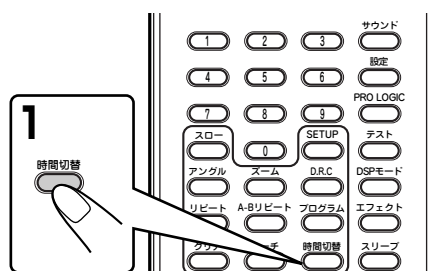
ディスクの再生中に、そのディスクに収録されているトラック数、音声チャンネルなど、色々な情報を確認することができます。
- リモコンで操作します。

1 再生中に、表示切替を押す

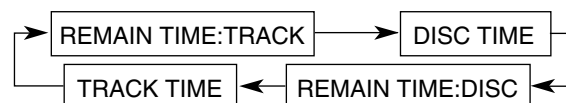
テレビ画面にディスク内容表示バーが出てきます。

①	:**ディスクの種類**―DVD、ビデオCD、CD、MP3
②	:**現在再生中のトラックとディスクの総トラック数** 例: 35トラック中の最初のトラックを再生中のとき
③	:**現在再生中のトラックの音声チャンネル** 例: ステレオ(L/R)で再生中
④	:**PBC再生**(ビデオCDのときのみ表示) 例: PBC再生中(➡ 45 ページ) PBC機能を「切」にしているときは、PBC と表示されます。
⑤	:**リピート再生** 例: リピート再生が「切」のとき(➡ 48 ページ)
⑥	:**現在再生中のトラックの経過時間と残り時間** (➡右記)
⑦	:**スペクトラムアナライザー** 音の出力レベルを表示します。

ディスク内容表示バーを消すには
もう一度**表示切替**を押します。

残り時間を確認する [時間切替]

ディスクやトラックの残り時間を表示させることができます。
通常は、テレビ画面のディスク内容表示バーにはトラックの経過時間(TRACK TIME)が表示されています。
- リモコンで操作します。

(ふたを開けたところ)

1 再生中に、時間切替を押す

テレビ画面にディスク内容表示バーが表示されます。
押すごとに、ディスク内容表示バーの時間表示が次のように変わります。

- REMAIN TIME:TRACK : 現在のトラックの残り時間
- DISC TIME : 現在のディスクの経過時間
- REMAIN TIME:DISC : 現在のディスクの残り時間
- TRACK TIME : 現在のトラックの経過時間(通常の表示)

しばらくすると、ディスク内容表示バーは自動的に消えます。

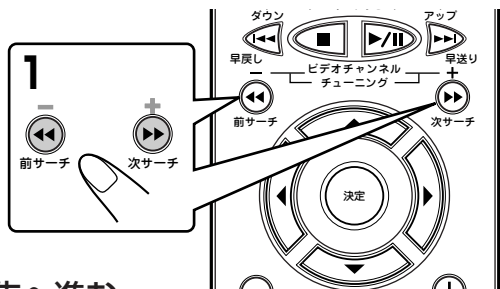
お知らせ

- ディスク内容表示バーをテレビ画面に表示したときには、現在選ばれている時間表示(トラックやディスクの経過時間や残り時間)が表示されます。

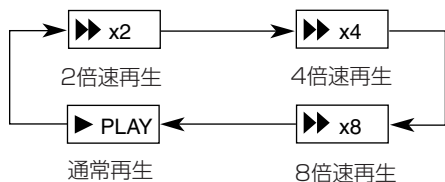
見たい映像や聞きたい曲を選ぶ・探す

再生しながら探す

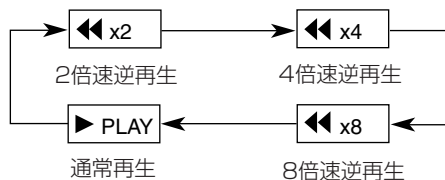
再生する速度を変えて、見たい場面や聞きたいフレーズに素早く移動できます（可変速再生）。

- リモコンで操作します。

■先へ進む

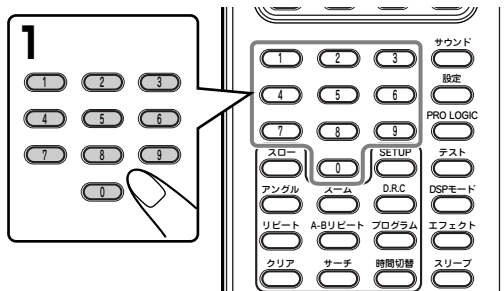
1 再生中に、▶▶（次サーチ）を押す

押すごとに、再生速度が次のように変わります。

■前へ戻る

1 再生中に、◀◀（前サーチ）を押す

押すごとに、再生速度が次のように変わります。

トラック番号を選ぶ

トラックの頭出しが簡単にできます。

- リモコンで操作します。

（ふたを開けたところ）

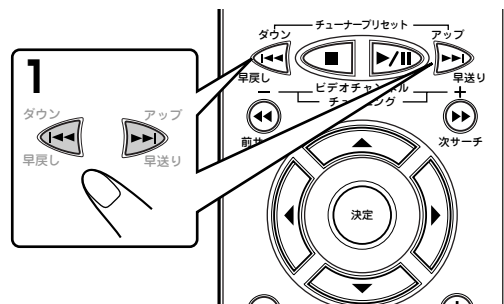
1 再生中または停止中に、数字ボタンを押してトラック番号を選ぶ

選んだトラックから再生されます。

トラック番号を指定するには

- 1ケタの番号を指定するには：**1**～**9**を押します。その後、しばらく待つか、**決定**を押します。
- 2ケタの番号を指定するには：十の位の数字を押してから、一の位の数字を押します。

例：11番を選ぶとき、**1➡1**と押します。
20番を選ぶとき、**2➡0**と押します。

ワンタッチでトラックを選ぶ

1 再生中に、▶▶|（早送り）または|◀◀（早戻し）を押す

- ▶▶|（早送り）：次のトラックの頭出しができます。くり返し押すと、さらに先のトラックの頭出しができます。
- |◀◀（早戻し）：再生中のトラックの頭出しができます。*くり返し押すと、前のトラックの頭出しができます。

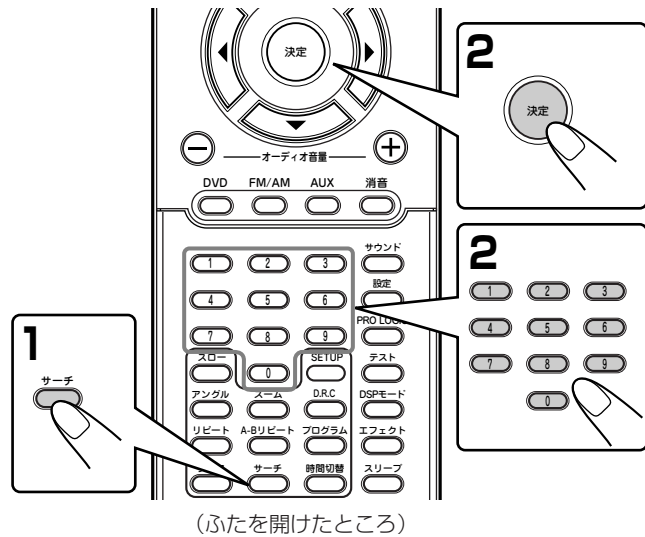
* ビデオCDのPBC再生中は、再生中のトラックの頭出しはできません。

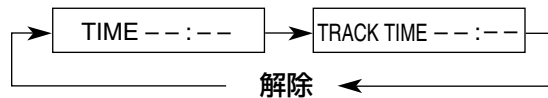
- センターユニットの▶▶|または|◀◀でも操作できます。

見たい映像や聞きたい曲を選ぶ・探す（つづき）

時間を指定して選ぶ ［サーチ］

リモコンで操作します。

（ふたを開けたところ）

1 再生中に、サーチを押す

押すごとに、次のサーチができるようになります。

- TIME（タイム）：ディスクの特定部分を経過時間で指定します。
- TRACK TIME（トラック）：トラックの特定部分を経過時間で指定します。

2 数字ボタンを押して経過時間を指定し、決定を押す

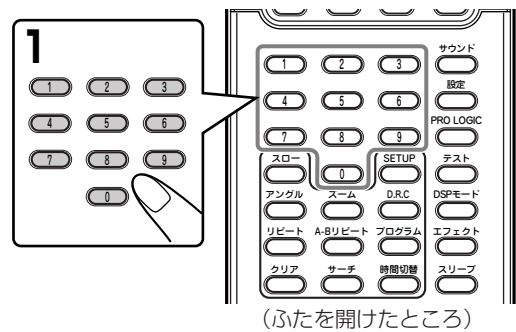
指定した経過時間の位置から再生されます。

- 「02:34」(2分34秒)を指定するには：**2➡3➡4➡決定**の順に押します。
- 「45:03」(45分03秒)を指定するには：**4➡5➡0➡3➡決定**の順に押します。
- 数字を押し間違えたときは、**クリア**を押します。押すごとに最後に入れた数字から消えていきます。

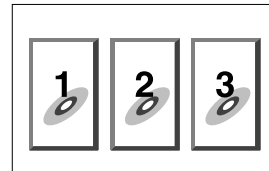
ディスクメニューで選ぶ

ビデオCDには、PBCコントロール機能と呼ばれる「メニュー再生機能」(Playback Control（プレイバック コントロール）)が付いているディスクがあります。この機能があるときは、画面の指示にしたがって階層を進みながら再生できます。PBC対応のディスクを再生すると、通常の場合は、最初にメニュー画面を表示します。メニュー画面に表示された項目や番号を選んで次の画面に進んでいきます。

- リモコンで操作します。

（ふたを開けたところ）

1 ディスクメニューが表示されたら、数字ボタンを押して、再生したい項目を選ぶ

選んだ項目が再生されます。表示窓に「MENU（メニュー）」と表示されます。

例：

- 画面に[次へ]または[前へ]などという表示があるときは、▶▶|ボタンを押すとメニューの次のページへ進み、|◀◀ボタンを押すとメニューの前のページへ戻ります。

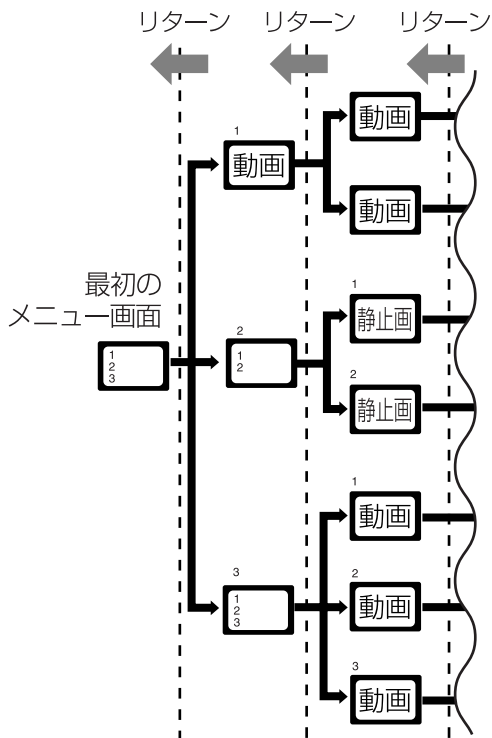
操作方法はディスクによって異なります。

項目の番号を指定するには

- 1ケタの番号を指定するには：**1**～**9**を押します。その後、しばらく待つか、**決定**を押します。
- 2ケタの番号を指定するには：十の位の数字を押してから、一の位の数字を押します。

例：11番を選ぶとき、**1➡1**と押します。
20番を選ぶとき、**2➡0**と押します。

プレイバックコントロール(PBC)機能

メニュー再生機能の基本的な流れは、下図のようになります。

上位階層のメニューに戻るときは、**リターン**を押します。

PBC機能を「切」にするには

PBC機能付きのビデオCDを再生すると、自動的にPBC再生が始まり、本体の表示窓のPBC表示が点灯します。

PBC機能付きのディスクでも、PBCを機能させずに、収録されているトラックを連続して再生できます。

PBC機能を使わないで再生したいときは、**メニュー**を押します。

押すごとに、PBC機能が「入/切」します。

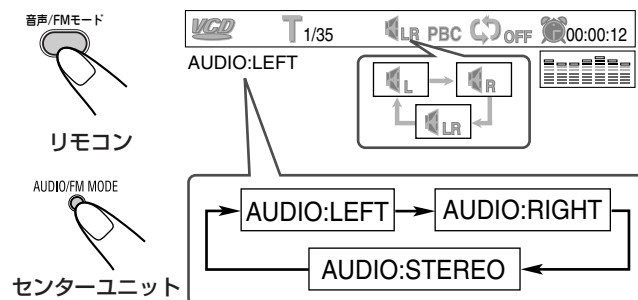
- 再生中に再生を停止した後、**数字**ボタンで直接トラック番号を選ぶと、そのトラックからの通常再生が始まります。**■(停止)**を押して再生を停止した後に**数字**ボタンを使って見たいトラック番号を指定します。PBC機能が「切」になり、再生されます。(**数字**ボタンの使いかたは「項目の番号を指定するには」➡ 44 ページをご覧ください)

カラオケディスクの音声を切り替えるには

カラオケディスクでは、音声チャンネルを切り替えて、カラオケの歌のみ/演奏のみ、または両方を選ぶことができます。

カラオケディスクを再生中に、リモコンの**音声/FMモード**またはセンターユニットの**AUDIO/FM MODE**を押します。

押すごとに、音声が次のように切り替わります。

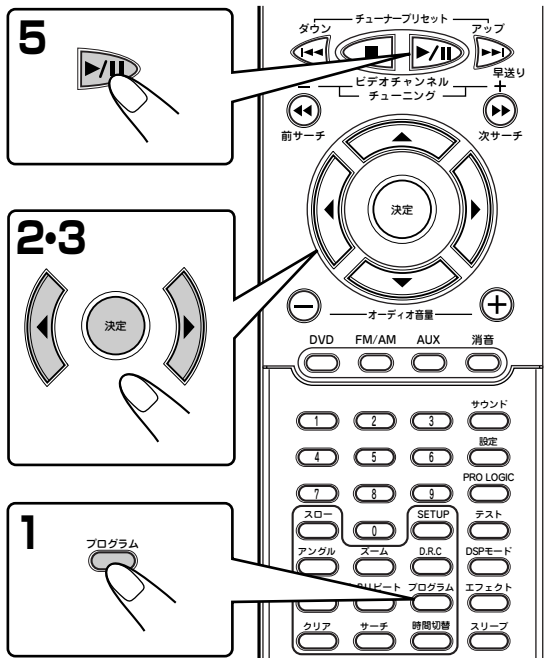
- ディスク内容表示バーが表示されます。

AUDIO:LEFT(オーディオ レフト) : 左チャンネルを再生します。
AUDIO:RIGHT(ライト) : 右チャンネルを再生します。
AUDIO:STEREO(ステレオ) : 左右チャンネルを再生します。(通常はこの設定にしておきます)

- しばらくすると、ディスク内容表示バーは自動的に消えます。
- **カラオケディスクの再生が終わった後は、必ず音声をステレオ再生(STEREO)に戻してください。**

順番を変えて再生する

プログラムを登録・再生する

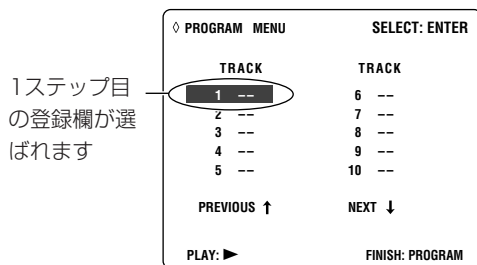
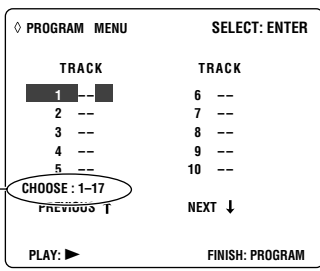
[プログラム再生]

トラックを好きな順番で再生できます。20ステップまで登録できます。

• リモコンで操作します。

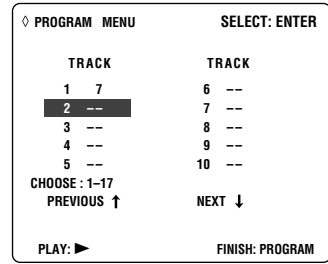
（ふたを開けたところ）

1 停止中または再生中に、プログラムを押す

テレビ画面にプログラムメニュー（PROGRAM MENU）が表示されます。

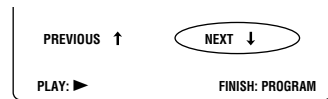
• センターユニットの表示窓に「PROGRAM」と表示され、同時にPROGRAM表示が点灯します。
• 再生中に押すと、停止状態になります。

1ステップ目の登録欄が選ばれます

2 決定を押す

ディスクに収録されているトラック数が表示されます。
（例：ディスクに17のトラックが収録されているとき）

3 カーソルボタン▶（または◀）を押してトラック番号を選び、決定を押す

数字ボタンでもトラック番号が選べます

• 1ケタの番号を指定するには：**1**～**9**を押します。
　その後、しばらく待つか、**決定**を押します。
• 2ケタの番号を指定するには：十の位の数字を押してから、一の位の数字を押します。
　例：11番を選ぶとき、**1**➡**1**の順に押します。
　20番を選ぶとき、**2**➡**0**の順押します。

4 手順3をくり返して、他のトラックを選ぶ

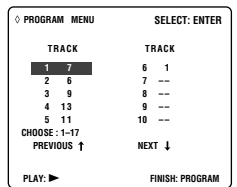
• 10ステップ目を登録すると、「NEXT⬇」が自動的に選ばれます。
10ステップ以上を登録したいときは**決定**を押します。プログラムメニューの2ページ目が表示されます。

5 ▶/❚❚（再生/一時停止）を押す

プログラム再生が始まります。

• 最後まで再生すると自動停止します。

途中でプログラム再生を停止するには

■（停止）または**プログラム**を押します。
テレビ画面にプログラムメニューが表示されます。

• プログラムメニュー表示中に**▶/❚❚（再生/一時停止）**を押すと、ふたたびプログラム再生が始まります。

プログラム再生をやめるには

プログラムメニュー表示中に**プログラム**を押します。
テレビ画面のプログラムメニューが消え、右のような画面が表示されます。（プログラムは記憶されています。）

• 右の画面の表示中に**▶/❚❚（再生/一時停止）**を押すと、通常の再生が始まります。

プログラムを取り消すには

▲(オープン/クローズ)を押して、ディスクを取り出します。
- 本システムの電源を「切」にしたり、ソース(音源)を変えたときもプログラムは取り消されます。

プログラムの内容を確認する

プログラムメニューをテレビ画面に表示させると、プログラムの内容が確認できます。
- リモコンで操作します。

(ふたを開けたところ)

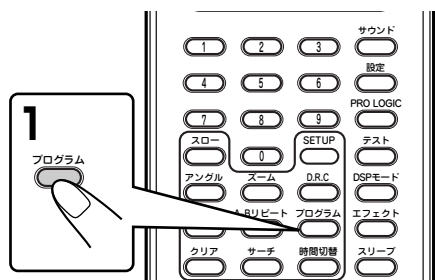
1 停止中または再生中に、プログラムを押す

テレビ画面にプログラムメニュー(PROGRAM MENU)が表示されます。
- 再生中に押すと、停止状態になります。

◊ PROGRAM MENU　　SELECT: ENTER

TRACK		TRACK	
1	7	6	1
2	6	7	--
3	9	8	--
4	13	9	--
5	11	10	--

CHOOSE : 1–17
PREVIOUS ↑　　NEXT ↓
PLAY: ▶　　FINISH: PROGRAM

もう一度**プログラム**を押すと、プログラムメニューは消えます。

プログラムの内容を変更する

プログラムメニューをテレビ画面に表示させると、プログラムの内容が変更できます。
- リモコンで操作します。

(ふたを開けたところ)

1 停止中または再生中に、プログラムを押す

テレビ画面にプログラムメニュー(PROGRAM MENU)が表示されます。
- 再生中に押すと、停止状態になります。

2 ステップを消去するには:

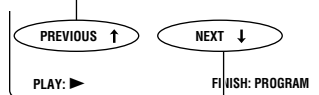
カーソルボタンの▼(または▲)を押して、ステップ番号を選び、**クリア**を押す

ステップを変更するには:

カーソルボタンの▼を押して、ステップ番号を選び、46ページの手順**2**と手順**3**を行い、新しいトラック番号を登録する。
- 新しい番号を入力する前に**クリア**を数回押して、以前の内容を消去してください。

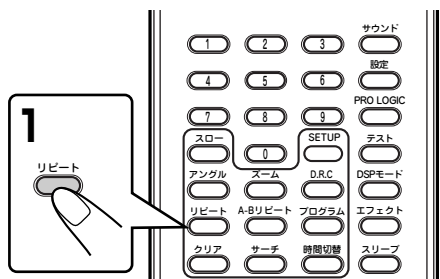
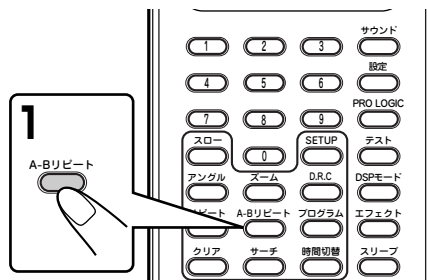
ステップを追加するには:

カーソルボタン▼を押して、登録されていないステップ番号を選び、46ページの手順**2**と手順**3**を行い、新しいトラック番号を登録する。

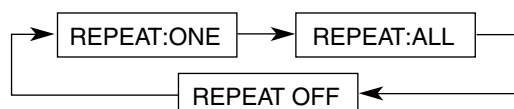
ステップ11からステップ10に移動するときは、カーソルボタンの▲を押して「PREVIOUS⬆(前⬆)」を選び、**決定**を押す。

ステップ10からステップ11に移動するときは、カーソルボタンの▼を押して「NEXT⬇(次⬇)」を選び、**決定**を押す。

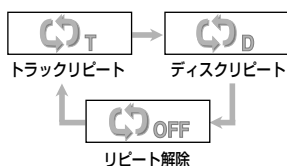
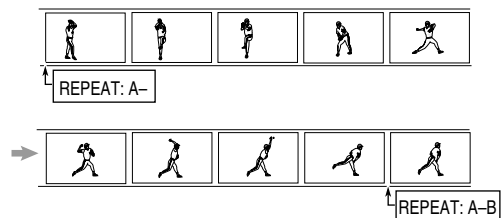
見たい映像や聞きたいところをくり返す

トラックをくり返す [リピート]

再生中のディスクやトラックをくり返し再生できます。
- リモコンで操作します。

（ふたを開けたところ）

1 再生中または停止中に、リピートを押す

押すごとに、リピートが次のように変わり、テレビ画面に表示されます。

- REPEAT:ONE（リピート ワン）：現在のトラックのくり返し再生（トラックリピート）
- REPEAT:ALL（オール）：ディスクのくり返し再生（ディスクリピート）
- REPEAT OFF（オフ）：くり返し（リピート）を解除

ディスク内容表示バーが表示されているときは
次のように表示バー上の表示が変わります。

お知らせ
- ビデオCDのPBC再生中は、リピート再生は選べません。

指定した範囲をくり返す [A-Bリピート]

再生中にくり返して見たい（聞きたい部分）をくり返し再生できます。語学の学習などに便利です。
- リモコンで操作します。

（ふたを開けたところ）

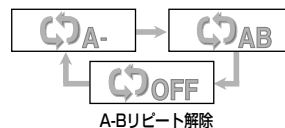
1 再生中に、くり返しを始めたい部分でA-Bリピートを押す

くり返したい部分の最初のところ（A）が、開始点として記憶されます。
- テレビ画面に「REPEAT:A-」と表示されます。

2 くり返したい部分の終わりで、もう一度A-Bリピートを押す

くり返す部分の最後のところ（B）が、終点として記憶されます。A-B間がくり返し再生されます。
- テレビ画面に「REPEAT:A-B」と表示されます。

A-Bリピートを解除するには
もう一度**A-Bリピート**を押します。
- テレビ画面に「REPEAT OFF」と表示され、通常の再生が始まります。

ディスク内容表示バーが表示されているときは
次のように表示バー上の表示が変わります。

お知らせ
- 5秒より短い区間のA-Bリピートはできません。

ビデオCDやCDの特殊再生

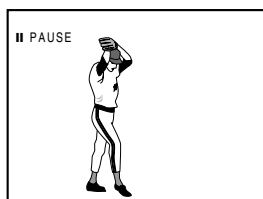
一時停止する [静止画]

再生を一時停止できます。ビデオCD再生中は静止画をご覧になれます。

• リモコンで操作します。

1 再生中に、►/II(再生/一時停止)または静止画を押す

一時停止します。

• ビデオCD再生中は、映像が静止します。(音声も聞こえなくなります)

通常の再生に戻すには

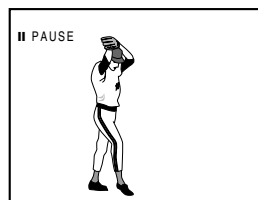
►/II(再生/一時停止)を押します。

コマ送りで再生する

ビデオCD再生中に映像を静止し、その静止中の映像をコマ送りで再生できます。

• リモコンで操作します。

1 再生中に、静止画を押す

映像が静止します。(音声も聞こえなくなります)

2 静止画をくり返し押す

押すごとに、静止映像が次のフレームに進みます。

通常の再生に戻すには

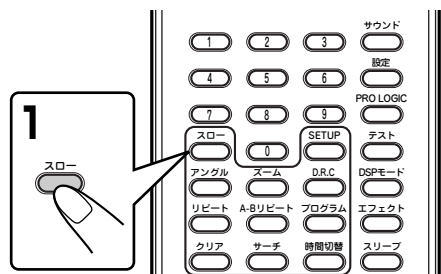
►(再生/一時停止)を押します。

お知らせ

• **オーディオCDでは、コマ送りはできません。**
• **►/II(再生/一時停止)**を押して一時停止したときは、コマ送り再生はできません。

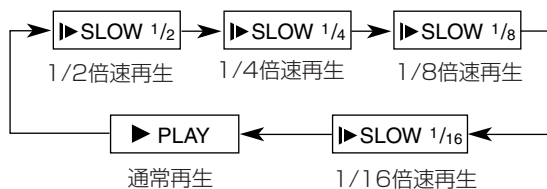
ビデオCDやCDの特殊再生（つづき）

スローモーションで再生する ［スロー］

ビデオCD再生中に、スローモーションで見たいシーンへ移動できます。

• リモコンで操作します。

（ふたを開けたところ）

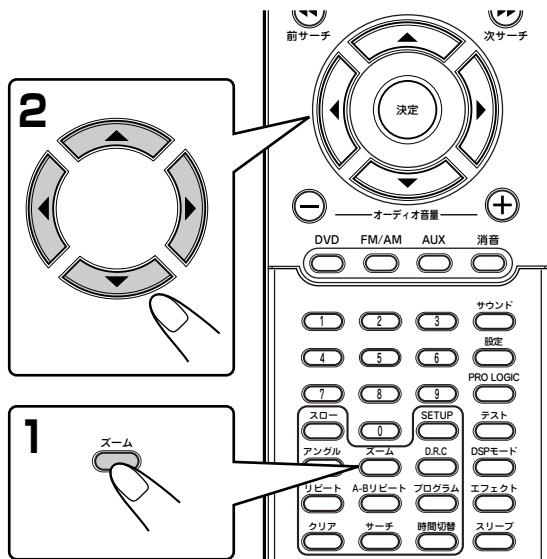
1 再生中または一時停止中に、スローを押す

押すごとに、再生速度が次のように変わります。

お知らせ

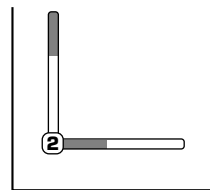
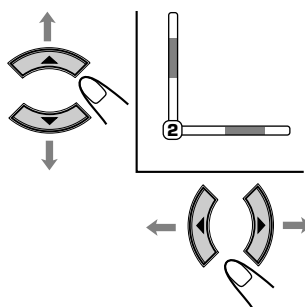
• オーディオCDでは、スローモションはできません。

映像を拡大して見る ［ズーム］

ビデオCD再生中に、映像の一部を拡大できます。

• リモコンで操作します。

（ふたを開けたところ）

1 再生中または一時停止中に、ズームを押す

映像が2倍に拡大されます。

2 カーソルボタン(◀/▶/▲/▼)を押して拡大したい部分を選ぶ

通常の画面サイズに戻すには

もう一度**ズーム**を押します。

お知らせ

• オーディオCDでは、ズームはできません。

MP3の便利な操作

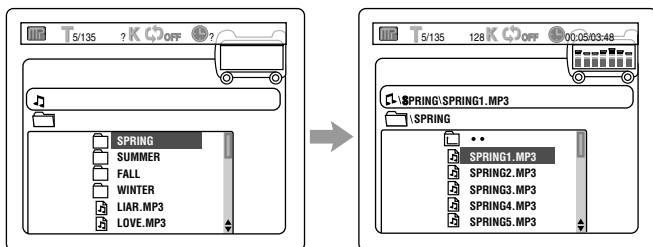
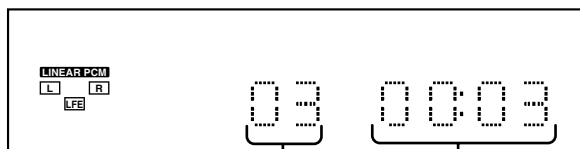
ディスクの入れかた・取り出しかた、再生・停止のしかたなどの操作方法については、「DVDなどのディスクを見る・聞く」
(➡ 20 ページ)をご覧ください。

MP3コントロール画面から再生するディレクトリー(グループ)やトラックを選べます。
• リモコンで操作します。

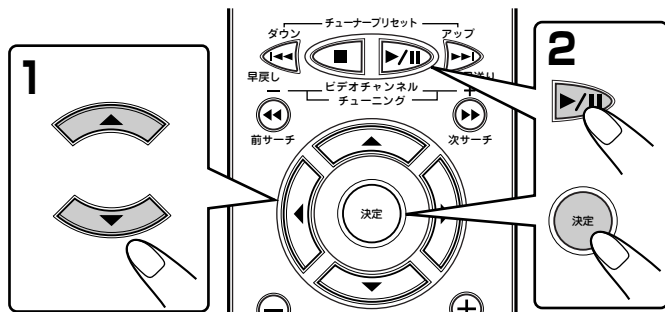
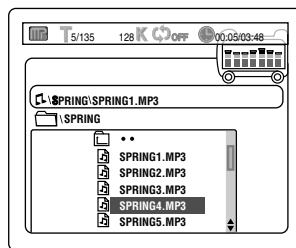
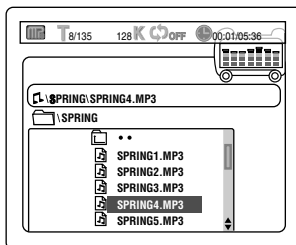
お知らせ

操作中にテレビ画面に「⊘」が表示されたら…
その操作は無効です。以下のような理由が考えられます。
• MP3ディスクにその操作に必要とされる情報が収録されていない。
• MP3ディスクでは早送り、早戻しなどの操作ができません。

MP3コントロール画面で操作する

MP3ディスクを入れると、自動的に再生が始まり、MP3操作画面がテレビ画面に表示されます。

テレビ画面

表示窓の表示

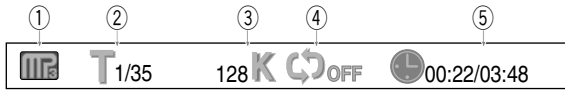
お知らせ

• MP3コントロール画面上のMP3ファイル名は、最初の8文字までしか表示されません。また日本語表記には対応していません。

1 カーソルボタンの▼(または▲)を押して聞きたいトラックを選ぶ

2 決定または►/II(再生/一時停止)を押す

選んだトラックが再生されます。

53 ページの「MP3ディスク操作概念図」もご覧ください。

MP3の便利な操作（つづき）

ディスク内容表示バーについて

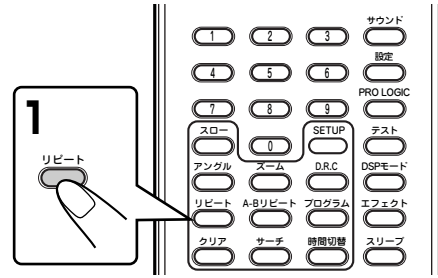
MP3ディスクの再生中は、ディスク内容表示バーがテレビ画面に表示されます。

①	：**ディスクの種類**—DVD、ビデオCD、CD、MP3
②	：**現在再生中のトラック番号とディスクの総トラック数** 例：35収録されているトラックの最初のトラックを再生中のとき
③	：**ビットレート**（➡ 74 ページ） 例：現在再生中のトラックのビットレート(128kbps)
④	：**リピート再生** 例：リピート再生が「切」のとき
⑤	：**現在再生中のトラックの経過時間と再生時間**

ディスク内容表示バーを消すには

リモコンの**表示切替**を押します。

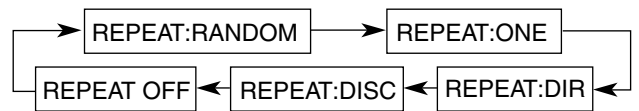
押すごとに、表示されたり消えたりします。

トラックをくり返す ［リピート］

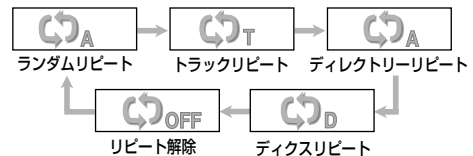
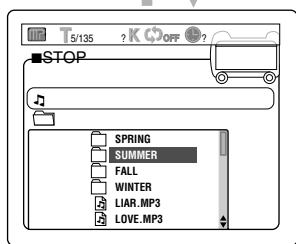
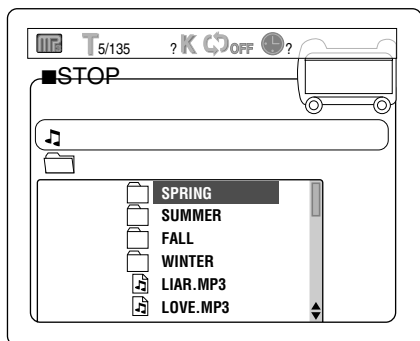
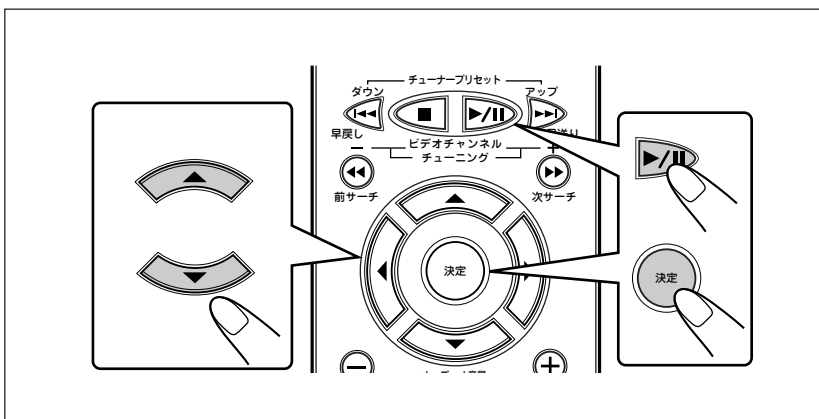
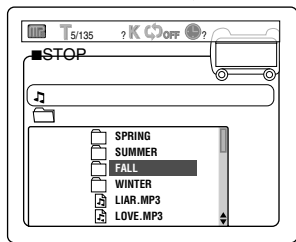
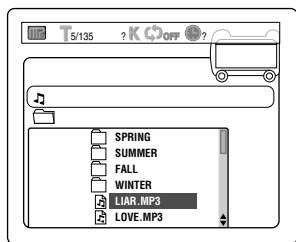
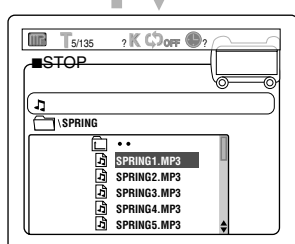
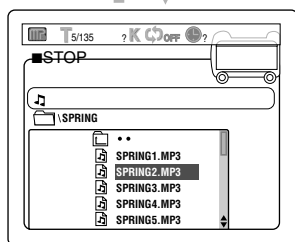
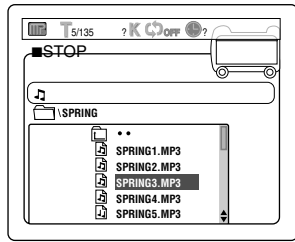
再生中のトラックをくり返し再生できます。

- リモコンで操作します。

（ふたを開けたところ）

1 再生中または停止中に、リピートを押す

押すごとに、リピートが次のように変わり、テレビ画面に表示されます。

- REPEAT:RANDOM（リピート：ランダム）：無作為な順番ですべてのトラックをくり返し再生（ランダムリピート）
- REPEAT:ONE（ワン）：現在のトラックのくり返し再生（トラックリピート）
- REPEAT:DIR（ディレクトリー）：現在のディレクトリー内のすべてのトラックのくり返し再生（ディレクトリーリピート）
- REPEAT:DISC（ディスク）：ディスク内のすべてのトラックのくり返し再生（ディスクリピート）
- REPEAT OFF（オフ）：くり返し（リピート）を解除

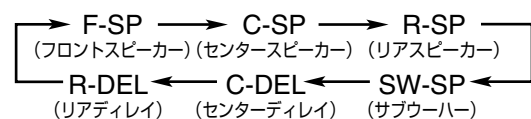
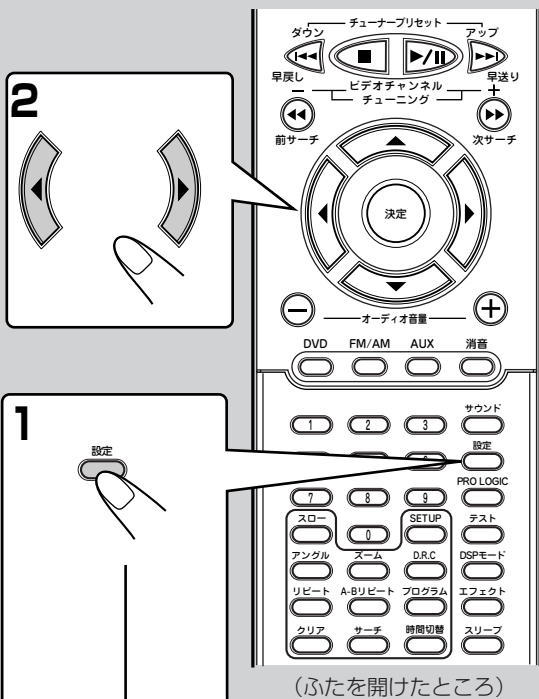
ディスク内容表示バーが表示されているときは

次のように表示バー上の表示が変わります。

MP3ディスク操作概念図

サラウンドスピーカーの設定をする

スピーカーを設置した後で、リモコンを使って、センタースピーカーやリアスピーカーの設定や調節を行います。
本機では次のような設定ができます。

- **センタースピーカーのサイズ(➡ 54 ページ)**
- **リアスピーカーのサイズ(➡ 54 ページ)**
- **センタースピーカーのディレイタイム(遅延時間)(➡ 55 ページ)**
- **リアスピーカーのディレイタイム(遅延時間)(➡ 55 ページ)**

操作に使うボタン

(ふたを開けたところ)

- 「F-SP」と「SW-SP」は表示されますが、設定は固定されていて、変更することはできません。
- 「C-DEL」は、マルチチャンネルサラウンドのときに限り表示されます。
- 「R-DEL」は、マルチチャンネルサラウンド時とドルビーサラウンドのときに限り表示されます。

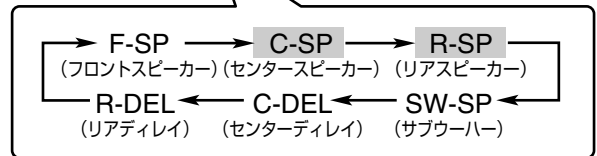
スピーカーのサイズを選ぶ

ソース(音源)やサラウンドの設定に関係なく、いつでも設定できます。

- この設定はすべてのソース(音源)やサラウンドに有効です。

1 設定をくり返し押して、センターユニットの表示窓に設定するスピーカー名を表示させる

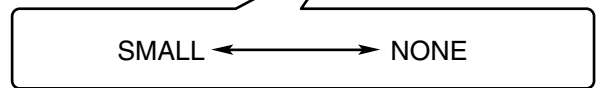
押すごとに、表示が次のように切り替わります

- **センタースピーカー**を設定するときは、「C-SP(Center Speaker)」を表示させる。
- **リアスピーカー**を設定するときは、「R-SP(Rear Speakers)」を表示させる。

例: センタースピーカーを設定するとき

- 現在の設定が同時に表示されます(例:現在の設定が「SMALL」のとき)。

5秒以内に

2 カーソルボタンの▶(または◀)を押してスピーカーサイズを設定する

押すごとに、スピーカーサイズが次のように変わります。

- SMALL : 本システムのセンタースピーカーを使用しているときに選びます。
- NONE : センタースピーカーを使用していないときに選びます。

- 手順**1**と手順**2**をくり返してもうひとつのスピーカーサイズを設定します。
- 続けてディレイタイムを調節します(➡ 55 ページ)。

ディレイタイムを調節する

聞く位置からフロントスピーカーまでの距離と、サラウンドスピーカーまでの距離を比較して、センタースピーカーのディレイタイム(遅延時間)を設定します。

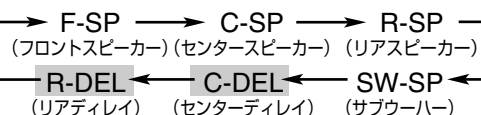
- マルチチャンネルサラウンド(ドルビーデジタル、DTSデジタルサラウンド)とドルビーサラウンド時*に設定できます。また、それらのサラウンドごとの値を記憶します。

* ドルビーサラウンド(プロロジックや3ステレオ)が「入」のときはセンタースピーカーのディレイタイムは設定できません。

1 設定をくり返し押して、センターユニットの表示窓に設定する項目を表示させる

押すごとに、表示が次のように切り替わります

- **センタースピーカーのディレイタイム**を設定するときは、「C-DEL(Center Delay)」を表示させる。
- **リアスピーカーのディレイタイム**を設定するときは、「R-DEL(Rear Delay)」を表示させる。

C-DEL 00MS

例: センタースピーカーのディレイタイムを設定するとき

- 現在の設定が同時に表示されます(例:現在の設定が「00ms」のとき)。

2 カーソルボタンの►(または◄)を押してディレイタイムを調節する

- センタースピーカーのディレイタイムは00msから05msの範囲内で調節できます。
- リアスピーカーのディレイタイムは、マルチチャンネルサラウンド時には、00msから15msの範囲内、ドルビーサラウンド時には、15msから30msの範囲内で調節できます。

C-DEL 00MS

調節の目安:

聞く位置からサラウンドスピーカーまでの距離が、フロントスピーカーまでの距離とほぼ同じときは、「00ms」にします。サラウンドスピーカーまでの距離の方が短くなるにしたがって、ディレイタイムを長くします。

- 1msのディレイタイムの増減は、30cmの距離の増減に相当します。

マルチチャンネルサラウンド時は、手順**1**と手順**2**をくり返してもうひとつのスピーカーのディレイタイムを設定します。

お知らせ

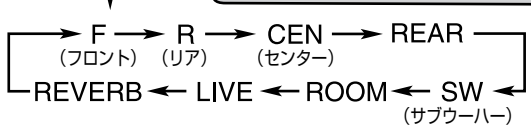
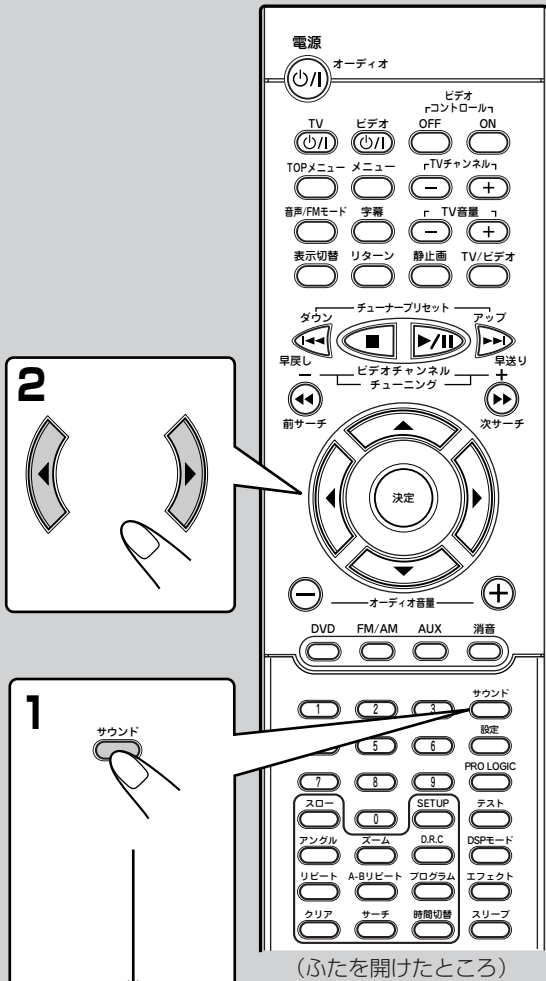
- DSPモードが使われているときやスピーカーの設定が「NONE」になっているときは、ディレイタイムを設定できません。
- リアスピーカーのディレイタイムは左右を別々には設定できません。左右のリアスピーカーを等距離に置けないときは、リアスピーカーのバランスを調節してください(➡ 57 ページ)。

フロントスピーカーとサブウーハーについて

本システムのスピーカー設定では、フロントスピーカーは「SMALL(小さい)」にサブウーハーは「USE(使用する)」に固定されています。それ以外の設定は選べません。

SW-SP USE

音を調節する

操作に使うボタン

（ふたを開けたところ）

- 「R」と「REAR」は、リアスピーカーが使われる設定のときに限り表示されます。
- 「CEN」はセンタースピーカーが使われる設定のときに限り表示されます。
- DSPパラメーターはDSPが「入」のときに限り表示されます。

スピーカー設置や調節の後で、スピーカーのバランス調節および出力レベル調節を行います。
また、DSPモードのパラメーターをお好みに合わせて調節できます。

最適な調節をするため、実際にソース（音源）を再生し、お聞きになる位置から調節することをおすすめします。

次ぎの調節を行います。

- **フロントスピーカーのバランス（F）（➡ 57ページ）**
- **リアスピーカーのバランス（R）（➡ 57ページ）**
- **センタースピーカーの出力レベル（CEN）（➡ 57ページ）**
- **リアスピーカーの出力レベル（REAR）（➡ 57ページ）**
- **サブウーハーの出力レベル（SW）（➡ 57ページ）**
- **DSPのパラメーター（ROOM、LIVE、REVERB）（➡ 58 59ページ）**

お知らせ

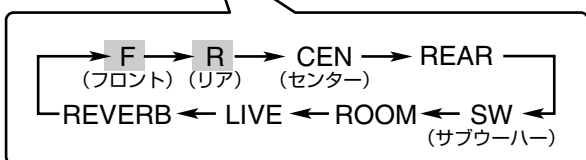
- センタースピーカーのバランス調節と出力レベル調節は、センタースピーカーが有効なときに限り操作できます。
- リアスピーカーのバランス調節と出力レベル調節は、リアスピーカーが有効なときに限り操作できます。
- DSPモードのパラメーター（ROOM、LIVE、REVERB）の調節をするときは、調節するモードを選んでから調節します。DSPモードを選んでいないときは、調節できません。

スピーカーの左右のバランスを調節する

左右のスピーカーをお聞きになる位置から等距離に置けないときに、フロントスピーカーやリアスピーカーの左右のバランスを調節します。

1 サウンドをくり返し押して、センターユニットの表示窓に調節するスピーカー名を表示させる

押すごとに、表示が次のように切り替わります

- **フロントスピーカー**のバランスを調節するときは、「F(Front)」を表示させる。
- **リアスピーカー**のバランスを調節するときは、「R(Rear)」を表示させる。

例: フロントスピーカーのバランスを調節するとき

- 現在の設定が同時に表示されます(例:バランスが左右均等のとき)。

2 カーソルボタンの►または◄を押してバランスを調節する

- ►を押すと、左フロントスピーカーの音が小さくなります。
- ◄を押すと、右フロントスピーカーの音が小さくなります。

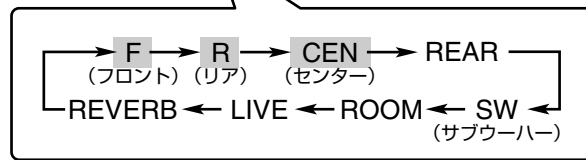
手順**1**と手順**2**をくり返してもうひとつのスピーカーのバランスを調節します。

スピーカーの出力レベルを調節する

センタースピーカーや、リアスピーカー、サブウーハーから聞こえてくる音の出力レベルを調節します。

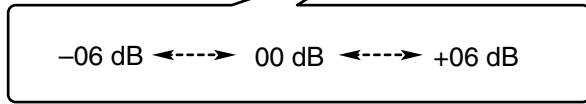
1 サウンドをくり返し押して、センターユニットの表示窓に調節するスピーカー名を表示させる

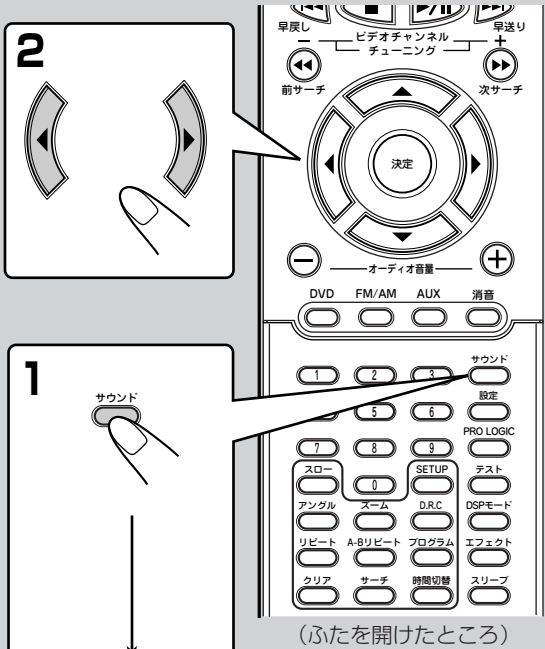
押すごとに、表示が次のように切り替わります

- **センタースピーカー**の出力レベルを調節するときは、「CEN(Center)」を表示させる。
- **リアスピーカー**の出力レベルを調節するときは、「REAR」を表示させる。
- **サブウーハー**の出力レベル調節するときは、「SW(Subwoofer)」を表示させる。

例: センタースピーカーの出力レベルを調節するとき

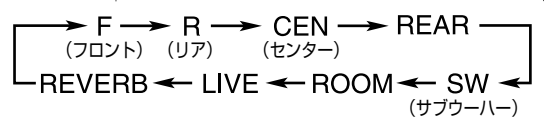
- 現在の設定が同時に表示されます(例:現在の設定が「00dB」のとき)。

2 カーソルボタンの►または◄を押して出力レベルを調節する

押すごとに、1dB単位で変わります。

- 調節範囲は−06dB(最小)から+06dB(最大)の間です。

手順**1**と手順**2**をくり返して他ののスピーカーの出力レベルを調節します。

操作に使うボタン

（ふたを開けたところ）

（ふたを開けたところ）

- 「R」と「REAR」は、リアスピーカーが使われる設定のときに限り表示されます。
- 「CEN」はセンタースピーカーが使われる設定のときに限り表示されます。
- DSPパラメーターはDSPが「入」のときに限り表示されます。

反射音の到達時間を調節する [ROOM]

DSPモードを選択中に、ROOMパラメーターを使い、仮想的な空間の大きさを調節します。
数値が大きくなるにしたがい、反射音の聞く位置までの到達時間が長くなり、より大きな仮想空間を再現します。

- **操作の前に、調節したいDSPモードを選びます（➡ 31 ページ）。**

1 サウンドをくり返し押して、センターユニットの表示窓に「ROOM」を表示させる

押すごとに、表示が次のように切り替わります。

- 現在の設定が同時に表示されます（例：現在の設定が「06」のとき）。

2 カーソルボタンの▶または◀を押して反射音の到達時間を調節する

押すごとに、2ステップ単位で変わります。

- 調節範囲は04（最小）から16（最大）の間です。
- 調節した値は、電源を「切」にしても記憶されています。次に同じDSPモードを使うと、調節した値の効果が得られます。

お知らせ

各DSPには、それぞれに独自の値をもっています。以下はお買い上げ時の設定値を示します。

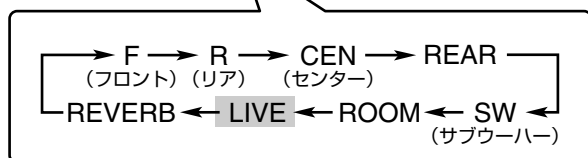
- HALL : 08
- THEATER : 04
- PAVILION : 08
- DANCE CLUB : 04
- LIVE CLUB : 08

再生音の反射率を調節する [LIVE（ライブ）]

DSPモードを選択中に、LIVEパラメーターを使い、仮想的な壁の反射率を調節します。
数値が大きくなるにしたがい、より響きの大きな仮想空間を再現します。

- **操作の前に、調節したいDSPモードを選びます（➡ 31ページ）。**

1 サウンドをくり返し押して、センターユニットの表示窓に「LIVE」を表示させる

押すごとに、表示が次のように切り替わります。

- 現在の設定が同時に表示されます（例：現在の設定が「06」のとき）。

5秒以内に

2 カーソルボタンの▶または◀を押して再生音の反射率を調節する

押すごとに、2ステップ単位で変わります。

- 調節範囲は04（最小）から16（最大）の間です。
- 調節した値は、電源を「切」にしても記憶されています。次に同じDSPモードを使うと、調節した値の効果が得られます。

お知らせ

各DSPには、それぞれに独自の値をもっています。以下はお買い上げ時の設定値を示します。

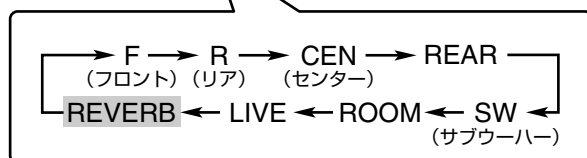
- HALL（ホール） ：16
- THEATER（シアター） ：10
- PAVILION（パビリオン） ：04
- DANCE CLUB（ダンス クラブ）：08
- LIVE CLUB（ライブ クラブ） ：16

残響音の減衰時間を調節する [REVERB（リバーブ）]

DSPモードを選択中に、REVERBパラメーターを使い、残響音の減衰時間を調節します。
数値が大きくなるにしたがい、より残響音のある仮想空間を再現します。

- **操作の前に、調節したいDSPモードを選びます（➡ 31ページ）。**

1 サウンドをくり返し押して、センターユニットの表示窓に「REVERB」を表示させる

押すごとに、表示が次のように切り替わります。

- 現在の設定が同時に表示されます（例：現在の設定が「0.4ms」のとき）。

5秒以内に

2 カーソルボタンの▶または◀を押して残響音の減衰時間を調節する

押すごとに、0.2ms単位で変わります。

- 調節範囲は0.0ミリ/秒（最小）から1.6ミリ/秒（最大）の間です。
- 調節した値は、電源を「切」にしても記憶されています。次に同じDSPモードを使うと、調節した値の効果が得られます。

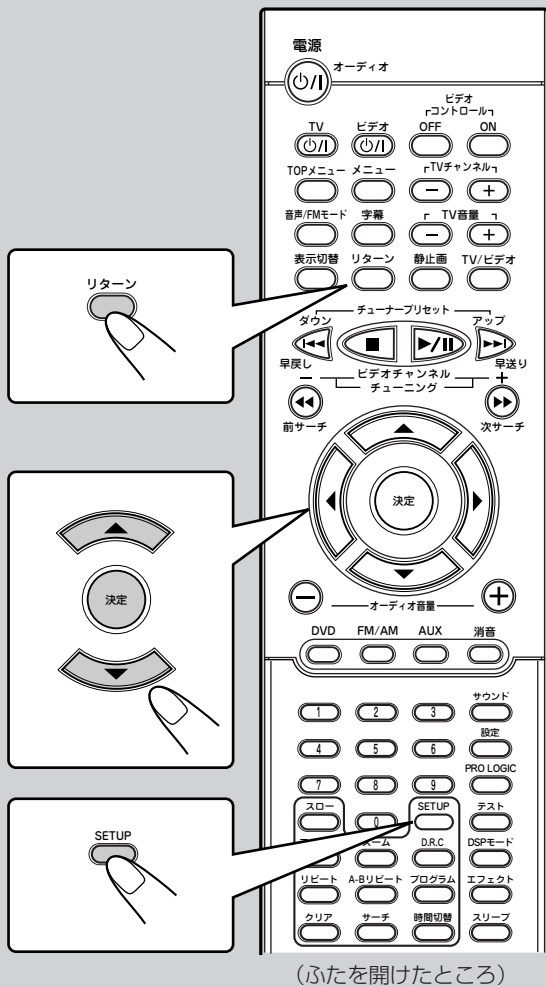
お知らせ

各DSPには、それぞれに独自の値をもっています。以下はお買い上げ時の設定値を示します。

- HALL（ホール） ：0.4
- THEATER（シアター） ：1.0
- PAVILION（パビリオン） ：0.2
- DANCE CLUB（ダンス クラブ）：1.6
- LIVE CLUB（ライブ クラブ） ：1.4

DVDの初期設定をする

操作に使うボタン

（ふたを開けたところ）

DVDを便利に使うための初期設定を行います。
テレビ画面のメニューを見ながら、**言語**設定と**システム**設定を行います。

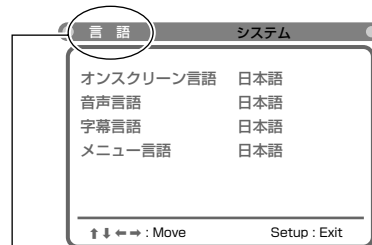
- **ソース（音源）が「DVDプレーヤー」で、ディスク停止中に限り、メニュー画面を表示できます。（MP3ディスク挿入時を除く）**

言語を選ぶ ［言語設定］

「言語」設定メニューで次の言語を選びます。

- **オンスクリーン言語**
- **音声言語**
- **字幕言語**
- **メニュー言語**

1 SETUPを押して、初期設定メニューを表示させる

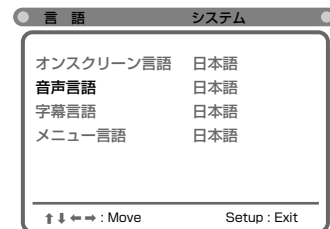
初期設定メニューの「言語」設定画面が表示されます。

- 「言語」が黄色くハイライトされ（選ばれ）ているときに、**決定**（またはカーソルボタンの▶）を押すと「システム」設定画面が表示されます（➡ 62ページ）。

2 カーソルボタンの▼（または▲）を押して、設定言語を選ぶ

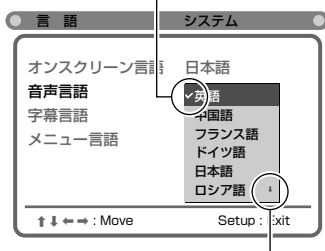
選ばれた言語はテレビ画面上では黄色くハイライトされます。

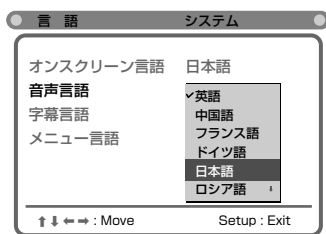
例：「音声言語」を選んだとき

お知らせ

- 途中で設定を中止するときは、**リターン**を押します。ひとつ前の画面に戻ります。そこから操作をやり直してください。

3 決定を押す

言語リストが表示されます。

✔は現在選ばれている言語を示します

⬇は他にも選択可能な言語があることを示しています。

4 カーソルボタンの▼(または▲)を押して、言語を選ぶ

例:「日本語」を選んだとき

5 決定を押す

言語リストが消えます。

6 手順2から5をくり返して、他の言語設定を行う

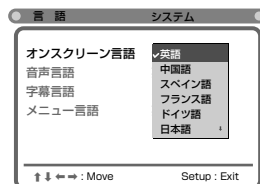
7 SETUPを押す

メニューがテレビ画面から消えます。

オンスクリーン言語

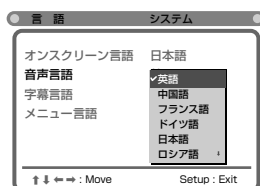
初期設定メニューやオンスクリーン画面の表示言語を切り替えることができます。

英語、中国語、スペイン語、フランス語、ドイツ語、日本語、韓国語が選べます。

- オンスクリーン表示は、英語表示のみの項目や言語もあります。

音声言語

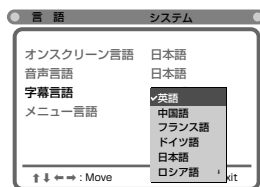
DVDには複数の音声言語が収録されているものがあります。このようなDVDを再生するときに、最初にどの音声言語で再生するか決めることができます。

英語、中国語、フランス語、ドイツ語、日本語、ロシア語、スペイン語、ポルトガル語、韓国語、オリジナルが選べます。

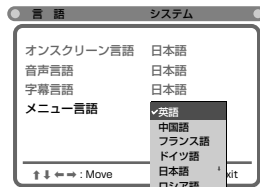
- 「オリジナル」を選ぶと、ディスク本来のオリジナルの音声言語で再生されます。

字幕言語

外国映画などのDVDには複数の言語による字幕が収録されているものがあります。このようなDVDを再生するときに、最初にどの言語の字幕で再生するか決めることができます。

英語、中国語、フランス語、ドイツ語、日本語、ロシア語、スペイン語、ポルトガル語、韓国語、オリジナルが選べます。

- 「オリジナル」を選ぶと、ディスク本来のオリジナルの言語で字幕が表示されます。

メニュー言語

DVDには複数の言語によるメニュー画面が収録されているものがあります。このようなDVDを再生するときに、最初にどの言語でメニュー表示をするか決めることができます。

英語、中国語、フランス語、ドイツ語、日本語、ロシア語、スペイン語、ポルトガル語、韓国語が選べます。

お知らせ

- 「言語」設定メニューで選んだ言語(英語、日本語など)がディスクに収録されていないときは、ディスクに収録されているオリジナル言語で再生・表示されます。

DVDの初期設定をする（つづき）

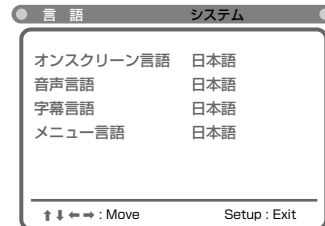
操作に使うボタン

（ふたを開けたところ）

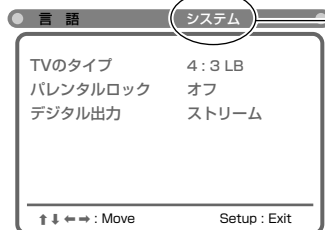
システムを設定する ［システム設定］

「システム」設定メニューで次の項目を設定します。

- TVのタイプ
- パレンタルロック
- デジタル出力

1 SETUPを押して、初期設定メニューを表示させる

初期設定メニューの「言語」設定画面が表示されます。

2 カーソルボタンの►を押して、「システム」設定画面を選ぶ

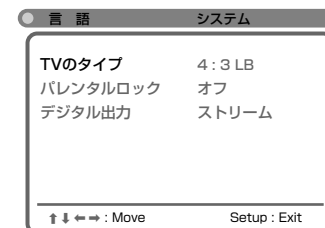
「言語」設定画面が「システム」設定画面に変わります。

- 「システム」が黄色くハイライトされ（選ばれ）ているときに、**決定**（またはカーソルボタンの◄）を押すと「言語」設定画面が表示されます（➡ 60 ページ）。

3 カーソルボタンの▼（または▲）を押して、設定する項目を選ぶ

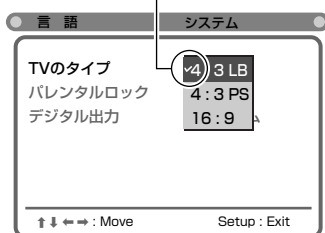
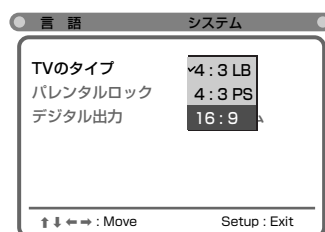
選ばれた項目はテレビ画面上では黄色くハイライトされます。

例：「TVのタイプ」を選んだとき

お知らせ

- 途中で設定を中止するときは、**リターン**を押します。ひとつ前の画面に戻ります。そこから操作をやり直してください。

4 決定を押す

設定値リストが表示されます。

✔は現在選ばれている値を示します

5 カーソルボタンの▼(または▲)を押して、設定を変える

例:「16:9」を選んだとき

6 決定を押す

設定値リストが消えます。

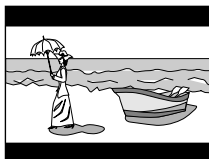
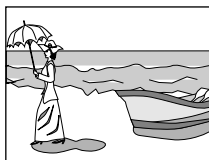
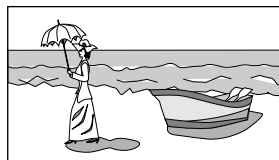
7 手順**2**から**6**をくり返して、他のシステム設定を行う

8 SETUPを押す

メニューがテレビ画面から消えます。

TV のタイプ

DVDの映画ソフトの多くは、縦横比16対9の横長テレビ用の映像が収録されています。この横長テレビ用の映像を縦横比4対3のテレビで見るときの変換方式を選ぶことができます。

「4:3 LB(レターボックス)」:縦横比4対3のテレビで見るときに選びます。上下に黒い隙間がある状態で映ります。左右両端の映像は切り取られません。

「4:3 PS(パンスキャン)」:縦横比4対3のテレビで見るときに選びます。左右両端が切り取られる状態で映ります。上下に黒い隙間は映りません。
- パンスキャンを選んでも、ディスクが対応していないときは、レターボックスになります。

「16:9(ワイド)」:横長(ワイド)テレビで見るときに選びます。
- **ワイド映像でご覧になるときは、テレビの画面サイズ切り替えで、フル画面サイズを選んでください。**

パレンタルロック

過激なシーンなどを含むDVD映画ソフトを再生するときなど、パレンタルロックの設定に応じてそのようなDVD映画ソフトの視聴を制限できます。
パレンタルロックが設定されているときに、設定レベル以上のディスクを再生しようとすると、「パレンタルエラー」と表示され再生できません。
- 詳しい設定の方法は、「視聴制限をする」(➡ 64ページ)をご覧ください。

デジタル出力

センターユニットの後面のDIGITAL(デジタル) OUT(アウト)(OPTICAL(オプティカル))音声出力端子に接続する機器の種類に設定を合わせます。
- DIGITAL OUT(OPTICAL)音声出力端子に外部機器をつながないときは、設定の必要はありません。

- 「ストリーム」:DTSデコーダーやドルビーデジタルデコーダーなどや、それらの機能を内蔵したアンプと接続するときに選びます。
- 「PCM」:リニアPCMのみに対応しているデジタル端子付きのアンプやMDレコーダーなどに接続するときに選びます。

操作に使うボタン

（ふたを開けたところ）

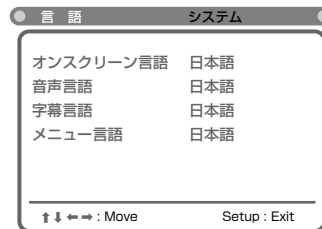
お知らせ

- 途中で設定を中止するときは、**リターン**を押します。ひとつ前の画面に戻ります。そこから操作をやり直してください。

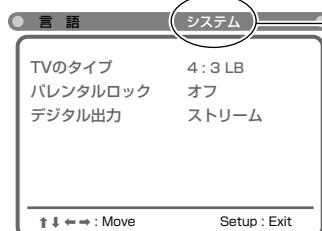
視聴制限をする 「パレンタルロック」

過激なシーンなどを含むDVD映画ソフトの視聴を、レベルを設定することによって制限することができます。
パレンタルロックが設定されているときは、設定レベル以上のディスクは再生できません（このときは、「パレンタルエラー」とテレビ画面に表示されます）。

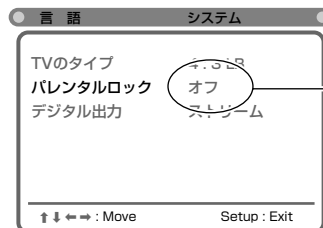
- レベルの設定は、「オフ」（制限なし）、レベル1からレベル8の中から選びます。レベル1が制限が一番厳しく、レベル8が一番ゆるい設定になります。

1 SETUP（セットアップ）を押して、初期設定メニューを表示させる

初期設定メニューの「言語」設定画面が表示されます。

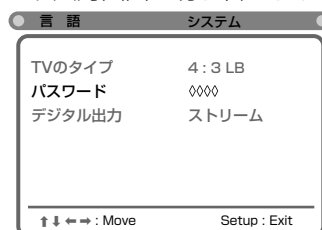
2 カーソルボタンの▶を押して、「システム」設定画面を選ぶ

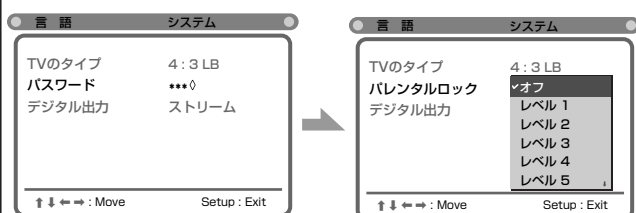
「言語」設定画面が「システム」設定画面に変わります。

- 「システム」が黄色くハイライトされ（選ばれ）ているときに、**決定**（またはカーソルボタンの◀）を押すと「言語」設定画面が表示されます（➡ 60 ページ）。

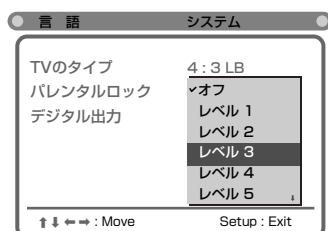
3 カーソルボタンの▼（または▲）を押して、「パレンタルロック」を選ぶ

選ばれた項目はテレビ画面上では黄色くハイライトされます。

現在の設定レベル
例：現在の設定レベルが「オフ」のとき

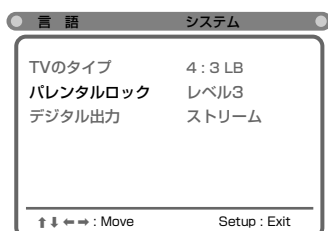
4 決定を押す

パスワード入力画面に切り替わります。

5 数字ボタンを押して、任意のパスワード（4ケタの数字）を入力する

4ケタの数字を入力すると、設定値リストが表示されます。

- お買い上げ時のパスワードは「7890」になります。
- 間違えた数字ボタンを押したときは、**クリア**を押します。押すごとに、最後の数字から消えていきます。4ケタ目の数字を入力した後は、訂正できません。右記の「パスワードを変更するには」の操作で変更してください。

6 カーソルボタンの▼（または▲）を押して、レベル設定を変える

例：「レベル3」を選んだとき

7 決定を押す

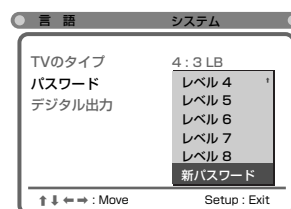
設定値リストが消えます。

8 SETUPを押す

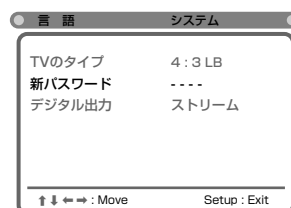
メニューがテレビ画面から消えます。

パスワードを変更するには

ご注意

設定したパスワードを忘れないようにご注意下さい。
メモを取るなどして、記録しておくことをおすすめします。

1. 左記の手順**1**から**5**の操作を実行する。
2. **カーソルボタン**の▼を押して設定値リストの一番下の「新パスワード」を選ぶ。

- 設定値リストに「新パスワード」と表示されていないときがあります。このときも、カーソルボタンの▼をくり返し押すとリストの一番下に「新パスワード」と表示されます。

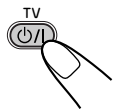
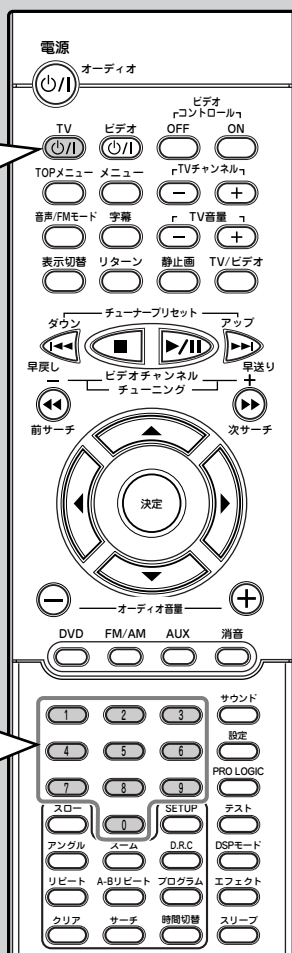
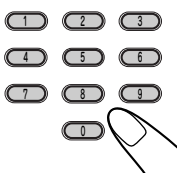
3. **決定**を押す。
新パスワード入力画面が表示されます。

4. **数字ボタン**を押して、任意の新パスワード（4ケタの数字）を入力する。
5. SETUPを押して、初期設定メニューを消す。

お知らせ

- 「パレンタルエラー」とテレビ画面に表示されたときは、そのディスクは再生することができません。
再生をするには、パレンタルロックを「オフ」またはそのディスクのレベル以下に設定し直してください。

リモコンを使って他の機器を操作する

操作に使うボタン

1・3・4

2

（ふたを開けたところ）

本システムのリモコンを使ってテレビやビデオデッキを操作することができます。
テレビは、日本ビクターを含め国内8社の製品を操作できます。
ビデオデッキは日本ビクターの製品に限り操作できます。

テレビのメーカーコードを設定する

テレビを操作するときは、あらかじめリモコンのメーカーコードを設定する必要があります。

1 TV ⏻/I を押し続け・・・

- 手順2の操作が終わるまで押し続けます。

2 数字ボタン(1〜9、0)を押してメーカーコード番号(2ケタ)を入力する

- 例：お持ちのテレビが松下製（23）のとき
  TVコントロール➡2➡3と押します。

メーカーコード表

メーカー名	コード番号
日本ビクター	01
サンヨー	05、20
シャープ	02、16、22
ソニー	03
東芝	09
日立	10
松下	12、24
三菱	13

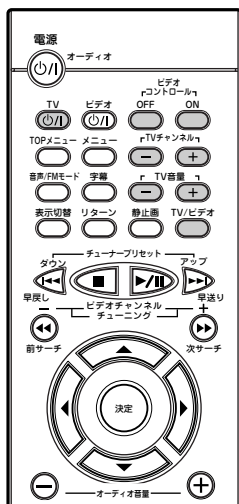
メーカーコードは、改善のため予告なく変更することがあります。

3 TV ⏻/I から指を離す

4 TV ⏻/I 押してテレビを操作してみる

テレビの電源の「入」⟷「切」ができたら設定は終了です。うまく機能しないときは、同じメーカーの別のコード番号を使ってもう一度設定をやり直してください。

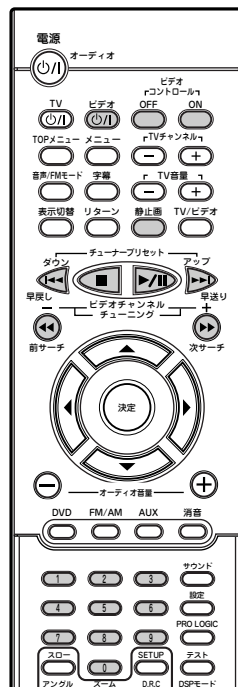
テレビの操作に使うボタン

TV⏻/I　：テレビの電源を「入」⟷「切」します。
TV音量 +、−　：テレビの音量を調節します。
TVチャンネル +、−
：テレビの受信チャンネルを変更します。
テレビ/ビデオ　：テレビの外部入力を切り替えます。

ビデオデッキの操作に使うボタン

日本ビクター製のビデオデッキには、「A」「B」2種類のリモコンコードを使えるものがあります。本機のリモコンを使って、ビデオデッキを操作するときは、ビデオデッキのリモコンコードを「A」に設定してください。

ビデオコントロール ONを押したあとで、次の操作ができます。

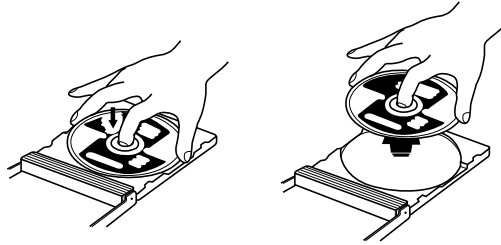
ビデオ⏻/I　：ビデオデッキの電源を「入」⟷「切」します。
►/II（再生/一時停止）：再生を始めます。
再生中に押すと一時停止します。
（このボタンで一時停止しないときは、**静止画**で操作してください）
I◄◄ 早戻し　：テープを巻き戻します。
►►I 早送り　：テープを早送りします。
■（停止）　：録画･再生を停止します。
静止画　：再生を一時停止します。
ビデオチャンネル +、−
：ビデオデッキの受信チャンネルを変更します。
1〜9、0　：ビデオデッキの受信チャンネルを選びます。

番号の選びかた
1〜9を選ぶとき　：**1**〜**9**のいずれかの数字ボタンを押します。
例：5を選ぶときは、**5**を押します。
10〜12を選ぶとき：2ケタの数字を入力します。
例：12を選ぶときは、**1**➡**2**と押します。

ご注意
ビデオデッキの操作を終了した後は、必ず**ビデオコントロール OFF**を押してください。リモコンで本システムをふたたび操作できるようになります。

ディスクの取り扱いとお手入れ

取り扱い時の注意

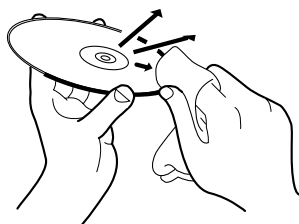
ディスクを取り扱う際、以下のようなことに注意してください。正しく取り扱わないと、信号を読み取れなくなったり、ノイズが生じたり、また誤動作の原因となることがあります。

- ディスクをケースから取り出すときは、ケースの中心を押しながらディスクを持ち上げてください。
- ディスクに傷をつけないでください。
- ディスクの信号面（鏡面）を汚したり、ラベル面に紙やセロハンテープなどを張らないでください。
- ディスクを反らせないでください。

ディスクの保管

使用するディスクは、ほこり、傷、変形などを防ぐため、必ず専用のケースの中に入れて保管し、次のようなところには絶対に置かないでください。

- 直射日光の当たるところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 暖房器のそばや車の中など

ディスクのクリーニング

- ディスクの信号面についたほこりや指紋は、柔らかい乾いた布でディスクの中心から外側に向かって軽く拭いてください。ディスクの円周方向には拭かないでください。
- レコードクリーナーやレコードスプレー、シンナーおよびベンジンなどの溶剤を、ディスクのクリーニングには使用しないでください。

お知らせ

- ハートや花などの形をしたシェイプCD（特殊形状のCD）は、絶対に使用しないでください。センターユニットの故障の原因となります。

故障かな?と思う前に

故障かな?と思ったら、修理に出す前に以下の点検をしてください。下記の項目に当てはまらないときは、本システム以外の原因も考えられます。接続している機器なども併せてお調べください。なお、下記の項目をチェックしても直らないときは、「保証とアフターサービス」(➡ 70 ページ)をお読みの上、修理を依頼してください。

症　状	原　因	処　置
電源が入らない。	電源コードがコンセントから抜けている。	電源プラグをしっかりと差し込む。
リモコンが動かない。	センターユニットから離れすぎている。	リモコン受光部に向けて約5m以内で障害物を避けて送信する。
	センターユニットのほうに向けていない。	
	電池が消耗している。	電池を交換する。
	電池の極性(⊕、⊖)が違う。	電池を正しく入れ直す。
	リモコン受光部に日光が直接当たっている。	直射日光をさえぎる。
	入力した他メーカーのコード番号が間違っている。	正しいコード番号を入力し直す。(➡ 66 ページ参照)
	リモコンがビデオデッキ操作モードになっている。	**ビデオコントロール OFF**を押して、ビデオデッキ操作モードを解除する。(➡ 67 ページ参照)
音が出ない。	スピーカーコードが接続されていない。	正しく接続する。
	スピーカーコードがショート(短絡)している。	正しく接続し、センターユニットの電源を入れ直す。
	オーディオコードを正しく接続していない。	正しく接続する。
	間違ったソースが選ばれている。	正しいソースを選ぶ。
	消音機能が働いている。	**消音**を押して消音機能を解除する。(➡ 27 ページ参照)
片方のスピーカーからしか音が出ない。	スピーカーコードを正しく接続していない。	接続を確認する。
	左右のバランスが合っていない。	バランスを正しく調節する。
映像が出ない。	ビデオコードを正しく接続していない。	正しく接続する。
	テレビの入力選択が間違っている。	正しい入力を選ぶ。
「リージョンコードエラー」と表示される。	本機とディスクのリージョン番号(ローカル番号)が異なっている。	ディスクを取り換える。
「パレンタルエラー」と表示される。	パレンタルロックが設定されている。	パレンタルロックの設定を変更する。(➡ 64 ページ参照)
映像が乱れる/音声がひずむ。	ディスクが汚れている。	ディスクをクリーニングする。
	センターユニットとテレビの間にビデオデッキを接続している。	センターユニットとテレビを直接接続する。
	DVDを停止中に**ズーム**を押した。	DVDを停止中に、もう一度**ズーム**を押す。
FM/AM放送を受信中に連続的に雑音が入る、または受信できない。	受信している電波が弱すぎる。	FM屋外アンテナを接続するか、お買い上げの販売店に問い合わせる。
	放送局が遠い。	別の放送局を選ぶ。
	アンテナが正しく接続されていない。	正しく接続する。
正しく動作しない。	雷や電子ノイズでマイコンが誤動作している。	いったん電源を切り、電源プラグを接続し直す。または、DVDを停止中に、■(停止)を押し続ける。表示窓に「INITIAL(イニシャル)」と表示され、マイコンがリセットされます。(リセットを実行すると、その他の設定、例えば、ラジオのプリセット局やサラウンドの調節などもすべてお買い上げ時の設定に戻ります)
	暖房を始めた直後や、寒いところから急に暖かいところへ移動したことによってセンターユニットの内部に水滴がついている。	電源を入れたままラジオなどを聞き、数時間してからディスクを入れる。
リモコンでビデオデッキが操作できない。	リモコンがビデオデッキ操作モードになっていない。	**ビデオコントロール ON**を押して、ビデオデッキ操作モードにする。(➡ 67 ページ参照)
	ビデオデッキが日本ビクター製ではない。	本リモコンで操作できるのは、リモコンコードが「A」に設定されている日本ビクター製のビデオデッキです。

保証とアフターサービス

保証書（別添）

保証書は、お買い上げの販売店よりお受け取りください。「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、記載内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間

お買い上げの日から１年間

補修用性能部品の最低保有期間

この機器の補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後８年です。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご相談やご不明な点は

修理に関するご相談やご不明な点は、**お買い上げの販売店**にご相談ください。

修理を依頼されるときは　出張修理

69 ページの「故障かな？と思う前に」に従ってお調べください。それでもなお異常のあるときは、使用を中止し、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。このとき不具合の発生したディスクも一緒にご用意ください。

保　証　期　間　中　は

修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

ご連絡していただきたい内容

品　名	DVDデジタルシアターシステム
型　名	TH-A5
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご住所	付近の目印等も併せてお知らせください
お名前	
電話番号	
訪問ご希望日	

便利メモ	お買い上げ店名	☎（　　）　-

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、お客様のご要望により有料で修理させていただきます。

修　理　料　金　の　仕　組　み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、測定機器等設備費、故障診断、修理および部品交換、調整、点検にかかる費用です。

＋

部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

＋

出張料	製品のある場所へ技術者を派遣するための費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

お願い

- 本機の故障または不具合等によりディスクの再生などにおいて、利用の機会を逸したために発生した損害等の補償については、ご容赦ください。

ビクターサービス窓口案内（ビクターサービスエンジニアリング株式会社）

ビクター製品のアフターサービスはお買い上げの販売店へご相談ください

ご転居等で保証書記載のお買い上げ販売店にアフターサービスをご依頼になれない場合は、最寄りの「ご相談窓口」にご相談ください。

都府県名	窓口名	TEL	〒	所在地
北海道				
北海道	札幌 S.C.	(011)898-1180	004-0005	札幌市厚別区厚別東5条1-2-29
	旭川 S.C.	(0166)61-3659	070-8012	旭川市神居二条3-2-15
	北見 S.S.	(0157)25-8557	090-0037	北見市山下町4-7-19
	釧路 S.S.	(0154)24-0797	080-0005	釧路市松浦町3番3号
	帯広 S.S.	(0155)24-4493	080-0806	帯広市東六条南12-11
	函館 S.S.	(0138)52-5324	040-0001	函館市五稜郭町4-16函館あおば生命ビル1F
東北				
青森	青森 S.C.	(017)723-2261	030-0844	青森市桂木4-6-17
	八戸 S.S.	(0178)44-4521	031-0803	八戸市諏訪2-2-36
	弘前 S.S.	(0172)28-0165	036-8084	弘前市高田1-13-1
岩手	盛岡 S.C.	(019)637-0121	020-0835	盛岡市津志田9地割24-1
	水沢 S.S.	(0197)22-2773	023-0815	水沢市天文台通り3-12
秋田	秋田 S.C.	(018)824-3189	010-0953	秋田市山王中園町4-1
	大館 S.S.	(0186)43-0980	017-0874	大館市美園町5-6
	横手 S.S.	(0182)32-8873	013-0064	横手市赤坂字大道向3-6
宮城	仙台 S.C.	(022)287-0151	984-0011	仙台市若林区六丁の目西町7-13
	石巻 S.S.	(0225)94-7711	986-0853	石巻市門脇字四番谷地8-18
山形	山形 S.C.	(023)642-0279	990-2412	山形市松山3-12-18
	酒田 S.S.	(0234)26-7145	998-0842	酒田市亀ヶ崎6-6-1
福島	郡山 S.C.	(024)952-6331	963-0205	郡山市堤1-3
	いわき S.S.	(0246)27-7991	973-8409	いわき市内郷御台境町鶴巻6-1
	会津若松 S.S.	(0242)38-1355	965-0831	会津若松市表町1-44ハイツシンフォニー101
	福島 S.S.	(024)553-9437	960-0103	福島市本内字南原26-1
関東・甲信越				
新潟	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(025)241-4003	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	新潟 S.C.	(025)242-3431	950-0084	新潟市明石1-2-19
	長岡 S.S.	(0258)24-8391	940-0012	長岡市下下条2-1366-1
	上越 S.S.	(0255)45-1734	942-0081	上越市五智1-11
長野	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(026)221-7607	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	長野 S.C.	(026)221-6583	380-0913	長野市川合新田962-1
	松本 S.S.	(0263)25-9165	390-0828	松本市庄内2-4-21
群馬	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(027)255-5982	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	前橋 S.C	(027)255-5921	371-0854	前橋市大渡町1-19-1
栃木	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(028)635-2938	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	宇都宮 S.C	(028)638-1639	321-0953	宇都宮市東宿郷3-5-22
茨城	土浦 S.C.	(0298)21-8756	300-0813	土浦市富士崎1-10-1
	水戸 S.S.	(029)246-1560	310-0836	水戸市元吉田町1077
山梨	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(055)227-5773	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	甲府 S.S.	(055)237-4016	400-0864	甲府市湯田2-11-5
千葉	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	千葉 S.C.	(043)246-2588	261-0001	千葉市美浜区幸町2-1-1
	柏 S.C.	(0471)75-4322	277-0863	柏市豊四季512-10-67
	浦安 S.S.	(047)353-6189	279-0001	浦安市当代島2-13-27
東京	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	本郷 S.C.	(03)5684-8254	113-0033	文京区本郷3-14-7 ビクター本郷ビル1F
	秋葉原 S.S	(03)3251-2128	101-0021	千代田区外神田1-6-6
	練馬 S.C.	(03)3993-7520	176-0014	練馬区豊玉南1-19-1
	大田 S.C.	(03)3727-9385	145-0062	大田区北千束2-20-6
	八王子 S.C.	(0426)46-6914	192-0045	八王子市大和田町2-9-6
	【業務用機器専門】のご相談窓口			
	首都圏メンテナンスセンター	(03)3874-5231	110-0003	台東区根岸5-4-3
埼玉	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	大宮 S.C.	(048)654-5241	330-0037	さいたま市東大成町2-658-1
	熊谷 S.S.	(048)553-5105	361-0057	行田市城西2-7-39ツインハイツ石山B
神奈川	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	横浜 S.C.	(045)651-0403	231-0028	横浜市中区翁町1-3-1
	川崎 S.C.	(044)975-1879	216-0024	川崎市宮前区南平台3-2（第2石原ビル）
	平塚 S.C.	(0463)36-2160	254-0065	平塚市南原2-4-5
	相模原 S.C	(042)776-2052	229-0004	相模原市古淵3-7-4

都府県名	窓口名	TEL	〒	所在地
東海・北陸				
静岡	静岡 S.C.	(054)282-4141	422-8006	静岡市曲金6-5-28
	沼津 S.S.	(0559)22-1557	410-0041	沼津市筒井町6-5
	浜松 S.S.	(053)421-3441	435-0041	浜松市北島町785
愛知	名古屋 S.C.	(0568)25-3235	481-0041	西春日井郡西春町九之坪鴨田121-1
	三河 S.C.	(0564)51-5931	444-0833	岡崎市桂曙3-10-12
	豊橋 S.S.	(0532)64-0815	440-0853	豊橋市佐藤5-19-1
岐阜	岐阜 S.S.	(058)274-1947	500-8367	岐阜市宇佐南3-1-28
三重	三重 S.S.	(0593)52-0841	510-0076	四日市市堀木2-15-2
	津 S.S.	(059)229-7780	514-0815	津市大字藤方485-18
富山	富山 S.C.	(076)425-2397	939-8211	富山市二口町四丁目1-3
石川	金沢 S.C.	(076)269-4821	921-8062	金沢市新保本四丁目65-17
福井	福井 S.S.	(0776)53-6916	910-0843	福井市西開発3-211
近畿				
滋賀	滋賀 S.S.	(077)582-5812	524-0033	守山市浮気町268
京都	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	京都 S.C.	(075)644-0247	612-8401	京都市伏見区深草下川原町31-1
京都北部	福知山 S.S.	(0773)22-8664	620-0059	福知山市厚東町145-2
奈良	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	奈良 S.S.	(0744)24-6271	634-0007	橿原市葛本町834-2
大阪	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	大阪南 S.C.	(06)6768-5489	543-0028	大阪市天王寺区小橋町10-16
	堺 S.C.	(0722)54-2881	591-8032	堺市百舌鳥梅町3丁目21-2 伊助ハイツ
	【業務用機器専門】のご相談窓口			
	大阪メンテナンスセンター	(06)6304-6715	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
和歌山	和歌山 S.S.	(073)472-6799	640-8323	和歌山市太田430-8
	田辺 S.S.	(0739)22-9976	646-0031	田辺市湊1581-12
兵庫中東部	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	神戸 S.C.	(078)252-0562	651-0086	神戸市中央区磯上通3-2-16
兵庫西部	姫路 S.S.	(0792)34-3833	670-0975	姫路市中地南町11-1
中国				
岡山	岡山 S.C.	(086)243-1566	700-0927	岡山市西古松西町8-23
広島	広島 S.C.	(082)243-9839	730-0825	広島市中区光南3-9-17
	福山 S.S.	(0849)31-6984	721-0973	福山市南蔵王町3-5-15
山口	山口 S.C.	(083)973-3708	754-0022	吉敷郡小郡町花園町5-28
	徳山 S.S.	(0834)27-1331	745-0042	徳山市野上町2-35
	下関 S.S.	(0832)51-1040	751-0852	下関市熊野町2-14-23
島根	山陰ビクター販売（株）サービスセンター（松江・米子担当）	(0852)31-8900	690-0823	松江市学園1-16-39
	出雲営業所サービス係	(0853)21-4611	693-0001	出雲市今市町854
	浜田営業所サービス係	(0855)22-1584	697-0023	浜田市長沢町671-1
鳥取	鳥取営業所サービス係	(0857)23-2151	680-0911	鳥取市千代水1丁目22-1
四国				
香川	高松 S.C.	(087)866-1200	761-8057	高松市田村町205-1
徳島	徳島 S.C.	(088)622-7387	770-8052	徳島市沖浜2-37
高知	高知 S.S.	(088)882-0546	780-8122	高知市高須新町4-143
愛媛	松山 S.C.	(089)923-0372	791-8015	松山市中央1-4-12
	宇和島 S.S.	(0895)20-1018	798-0087	宇和島市坂下津甲407-40
九州・沖縄				
福岡	福岡 S.C.	(092)-431-1261	812-0011	福岡市博多区博多駅前4-16-1
	久留米 S.S	(0942)-39-3495	830-0038	久留米市西町字神浦1-1192
	北九州 S.C.	(093)921-3981	802-0064	北九州市小倉北区片野2-15-12
長崎	長崎 S.C.	(095)862-5522	852-8021	長崎市城山町9-13
	佐世保 S.S	(0956)33-5568	857-1166	佐世保市木風町1467-2
大分	大分 S.S.	(097)543-1422	870-0882	大分市大道町4-1-2
熊本	熊本 S.C.	(096)353-4536	861-4101	熊本市近見町8-1-10
宮崎	宮崎 S.S.	(0985)24-5401	880-0032	宮崎市霧島町3-59
	延岡 S.S	(0982)35-7707	882-0857	延岡市惣領町24-3
鹿児島	鹿児島 S.C.	(099)282-8818	890-0034	鹿児島市田上七丁目9-8
沖縄	沖縄 S.C.	(098)898-3631	901-2224	沖縄県宜野湾市真志喜1-13-16

所在地、電話番号が変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。　1001

●略号について　S.C.はサービスセンターの略称です。
S.S.はサービスステーションの略称です。

主な仕様

センターユニット(XV-THA5)

再生可能ディスク	DVDビデオ、ビデオCD、オーディオCD、MP3ディスク
映像信号方式	EIAJ標準、NTSCカラーテレビジョン方式

映像特性

水平解像度	480本
S/N比	68 dB
映像出力	出力レベル / インピーダンス
映像(コンポジット)端子	1.0 V(p-p)/75 Ω、同期負
S映像端子	Y出力　：1.0 V(p-p)/75 Ω、同期負
	C出力　：0.286 V(p-p)/75 Ω
コンポーネント映像端子	Y出力　：1.0 V(p-p)/75 Ω
	CB/CR出力：0.7 V(p-p)/75 Ω

オーディオ特性

全高調波ひずみ率	0.02 %(EIAJ)
	入力感度/インピーダンス
アナログ音声入力端子	AUX IN：500 mV/47 kΩ
デジタル音声入力端子	DIGITAL IN (OPTICAL)　：－21 dBm ～ －15 dBm (サンプリング周波数：32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、96 kHzに対応)
デジタル音声出力端子	DIGITAL OUT (OPTICAL)：－21 dBm ～ －15 dBm

FMチューナー部

受信周波数	76.0 MHz～108.0 MHz
アンテナ	75 Ω不平衡型

AMチューナー部

受信周波数	531 kHz～1 629 kHz
アンテナ	外部アンテナ端子(ループアンテナ)

その他

スリープタイマー	10、20、30、60、90、120、150分
電　源	AC 100 V、50 Hz/60 Hz共用
消費電力	電源「入」時　180 W
	電源「切(スタンバイ)」時　2 W
最大外形寸法(幅×高さ×奥行)	350 mm×80 mm×300 mm
質　量	6.3 kg

サブウーハー(SP-WA5)…１本当たり

形　式	バスレフ型・防磁形 (EIAJ)
使用スピーカー	21 cm　コーン型×1
最大入力	60 W(JIS)
定格インピーダンス	3 Ω
再生周波数帯域	25 Hz～200 Hz
最大外形寸法(幅×高さ×奥行)	219 mm×324 mm×320 mm
質　量	6.2 kg

サテライトスピーカー(SP-XSA5)… 1本当たり

形　式	バスレフ型·防磁形 (EIAJ)
使用スピーカー	7.5 cm×4 cm　コーン型×1
最大入力	35 W(JIS)
定格インピーダンス	6Ω
再生周波数帯域	90Hz〜20 kHz
最大外形寸法(幅×高さ×奥行)	65 mm×144 mm×105 mm
質　量	420 g

センタースピーカー(SP-XCA5)… 1本当たり

形　式	バスレフ型·防磁形 (EIAJ)
使用スピーカー	7.5 cm×4 cm　コーン型×1
最大入力	35 W(JIS)
定格インピーダンス	6Ω
再生周波数帯域	90 Hz〜20 kHz
最大外形寸法(幅×高さ×奥行)	143 mm×67 mm×106 mm
質　量	420 g

別売りアクセサリー

- 光デジタルケーブル　: XN-110SA
- オーディオコード　: CN-510E
- 映像接続用コード　: VX-110E
- Sビデオコード　: VC-S110E
- コンポーネントビデオコード　: VX-D115E(ピンプラグ)
　: VX-DS220(D端子)
- TVサイドスタンド　: LS-SP101VJ(フロント用)
- サテライトスピーカースタンドシステム
　: LS-SP101FJ

別売りアクセサリーは、お買い上げの販売店でお求めください。

- 付属品は 8 ページをご覧ください。
- 本システムの仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。
- EIAJは日本電子機械工業会規格に定められた測定方法による数値です。

本機後面のデジタル音声出力端子ーDIGITAL(デジタル) OUT(アウト) (OPTICAL(オプティカル))ーから出力される信号は、入力される信号とシステム設定の「デジタル出力」設定により次のように変わります。

再生する信号 ＼ デジタル出力		ストリーム	PCM
		DIGITAL OUT(OPTICAL)端子から出力される信号	
DVD	48 kHz、リニアPCM	48 kHz、リニアPCM	48 kHz、リニアPCM
	96 kHz、リニアPCM	48 kHz、リニアPCM	48 kHz、リニアPCM
	128 kHz、リニアPCM	48 kHz、リニアPCM	48 kHz、リニアPCM
	ドルビーデジタル	ドルビーデジタル・ビットストリーム	ダウンミックス（2ch）
	DTSデジタルサラウンド	DTSビットストリーム	出力なし
ビデオCD/音楽CD	44.1 kHz、16ビットリニアPCM	44.1 kHz、16ビットリニアPCM	44.1 kHz、16ビットリニアPCM
DTS CD	DTSデジタルサラウンド	DTSビットストリーム	出力なし
MP3	MPEG-1/2 Layer-3	出力なし	出力なし
BSデジタル	MPEG-2 AAC	出力なし	出力なし

用語解説

あ

アスペクト比

表示される映像の縦横比のことです。通常のテレビの横:縦の比は4:3、ワイドテレビおよびHDテレビの横:縦は16:9の比率をもっています。

か

カーソル

一般的には数字などの挿入ポイントのことをいいます。

片面ディスク

DVDディスクのうち、信号読み出し面が片面のみのものをいいます。片面1層と片面2層があります。

コンポジット

輝度信号と色信号を周波数多重技術で複合した映像信号と、色の基準となるバースト信号、同期信号を組み合わせた複合映像信号のことです。

コンポーネント

光の3原色からなる映像信号を再現するために必要な情報の一部を、各々別の信号線で伝送するビデオ信号方式のことです。R/G/BやY/C_B/C_Rなどの信号形式があります。

さ

再生可能地域管理（リージョンコード）

あらかじめ設定された地域についてのみ、再生を可能とするシステムのことです。世界各国を8つの地域に分け、これに各地域番号(リージョン番号)をつけ識別します。ディスクに設定された再生可能地域番号の中に、プレーヤーに付与された地域番号と合致する番号があれば、プレーヤーはこのディスクを再生できます。

サラウンド

視聴者の周囲にスピーカーを複数配置し、臨場感あふれる立体音場を作りだすシステムをいいます。

サンプリング周波数

アナログ信号からデジタル信号に変換する際の標本化周波数のことです。1秒間に何回の割合で、もとのアナログ信号を標本化し、デジタル信号に変換するかを数値で表したものです。

色差信号

R/G/Bのそれぞれの信号から輝度信号(Y信号)を引いた信号で、色相と色の濃さを表す信号をいいます。

た

ダウンミックス

サラウンド方式(3ch以上)で記録されたマルチチャンネル音声トラックを、ステレオ2ch音声に変換して再生する機能をいいます。一般には、信号チャンネル数よりも、スピーカーの数が少ないときに行なわれるミキシングのことです。

チャプター

タイトル内の各章のことです。

ディスクメニュー

DVDビデオに複数記録されたタイトルの映像や音声、字幕、マルチアングル等を選ぶために用意された画面をいいます。

ドルビーデジタル

家庭用デジタルサラウンド方式として開発されたドルビーデジタル(AC-3)方式のことをいいます。最大フロント3ch、リア2chおよびサブウーハー0.1chで構成される5.1chが特長です。

は

パレンタルロック

映像および音声の内容が視聴者に対して適切なものかどうか(たとえば教育上好ましくないシーン等に対して)を、あらかじめソフトに設定されたパレンタルレベルと、本システムに視聴者が設定した再生可能パレンタルレベルの上限とを照らし合わせ、本システムが自動的に判断し再生する機能です。

ビットストリーム

各種エンコード作業によって作成されたデジタルデータをさします。

ビットレート

1秒間に送りだすデジタルデータのデータ量のことです。本システムではMP3再生時に、録音時のビットレートを表示します。

プレイバックコントロール（PBC）

ビデオCD(バージョン2.0)に記録されている、再生をコントロールするための信号です。PBC対応ビデオCDに記録されているメニュー画面を使って、対話型のソフトや検索機能を持ったソフトなどが楽しめます。

ま

マルチアングル

一つのタイトルの中に、同一時間で進行する複数の場面を収録し、これをユーザーの操作により切り換えて視聴できるようにした機能です。

マルチチャンネル

DVDビデオでは、一本の音声トラックで一つの音場を構成するように定められていますが、このうち3つ以上のチャンネルをもった音声トラックの構成をいいます。

マルチランゲージ

一つのタイトルが複数の言語に対応して制作されていることを一般的にマルチランゲージといいます。

ら

リニアPCM音声

アナログ音声信号をデジタル信号に変換して扱う方式の一つで、変換に際して圧縮をまったくしない方式のことです。

両面ディスク

DVDディスクのうち、信号読み出し面が両側のものです。反対の面を再生するには、ディスクを裏返す必要があります。

レターボックス

4:3テレビに映画などの横長の画像を欠けることなく映し出すために画面の上下に黒などの帯を付け、画面中央部にこの横長画像を映し出す手法です。

画面が文字通り郵便受けに似ていることから名付けられたものです。

用語索引

ア行

カ行

サ行

タ行

ハ行

マ行

ラ行

ワ行

アルファベット

ご相談や修理は	
ビクター製品についてのご相談や修理のご依頼は、お買い上げの販売店にご相談ください。 転居されたり、贈答品などでお困りの場合は、下記のご相談窓口にご相談ください。	
修理などのアフターサービスに関するご相談 **ビクターサービスエンジニアリング株式会社**	お買い物相談や製品についての全般的なご相談 **お客様ご相談センター**
71ページの「ビクターサービス窓口案内」をご覧ください。	東京 ☎(03) 5684-9311 FAX(03) 5684-9317 〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目14-7 ビクター本郷ビル 大阪 ☎(06) 6765-4161 FAX(06) 6765-4891 〒543-0028 大阪市天王寺区小橋町10-16 大阪ビクタービル

ビクターホームページ　http://www.jvc-victor.co.jp/

日本ビクター株式会社
パーソナル&モビールネットワークビジネスユニット
〒371-8543　群馬県前橋市大渡町一丁目10番地の1　☎(027)254-8952

1001KSMMDWSAM